第五章　健康診斷及娼妓病院

●娼妓健康診斷規則

（大正四年一月二十日　岐阜縣令第二號）

沿革　大正一三年四月縣令第三〇號改正

第一條　娼妓ノ健康診斷ハ定期及臨時ノ二種トシ娼妓健康診斷所ニ於テ醫師タル衛生技師、衛生技手（以下單ニ衛生技師又ハ檢診醫之ヲ行フ

娼妓健康診斷所ハ各娼妓病院内ニ置キ其ノ院長ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條　健康診斷ハ左ノ疾患ノ有無ヲ診斷スルモノトス

一、花柳病及其ノ疑似症、傳染性皮膚病、傳染性眼疾

二、肺結核、癩、其ノ他傳染性疾患

三、前各號ノ外娼妓稼業ニ堪ヘサル疾患

第三條　定期健康診斷ハ毎月六回トシ娼妓健康診斷所ノ指定シタル日時ニ於テ之ヲ行フ

第四條　臨時健康診斷ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

一、娼妓名簿ノ登錄ヲ申請スルトキ

二、新ニ稼業ニ就カムトシ又休業者及停止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ稼業ニ就カムトスルトキ

三、第二條ノ疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ

四、正當ノ事由ニ依リ診斷當日出頭スルコト能ハサリシ者ハ其ノ事由ノ止ミタルトキ

五、前各號ノ外衛生技師、衛生技手又ハ檢診醫ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第五條　前二條ノ健康診斷ヲ受ケサル者ハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第六條　健康診斷ヲ受クヘキ者疾病又ハ事故ニ依リ出頭スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記シ診斷當日定時刻前ニ健康診斷所ニ屆出ヘシ

前項疾病ノ場合ニ在リテハ寄寓所ニ於テ衛生技師、衛生技手又ハ檢診醫ノ診斷ヲ受クヘシ

第七條　娼妓ハ豫テ交付セラレタル健康診斷證ニ診斷ノ都度其ノ證印ヲ受クヘシ健康診斷證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ再渡ヲ請フヘシ

第八條　健康診斷所ニ於テ第二條第一號ノ疾患アリト診斷シ入院ヲ命セラレタル者ハ直ニ娼妓病院ニ入リ治療ヲ受クヘシ但シ疾病ノ程度ニ依リ通院治療ヲ許スコトアルヘシ

第九條　健康診斷所ニ於テ第二條第二號又ハ第三號ノ疾患アリト診斷シ治療ヲ命セラレタル者ハ衛生技師、衛生技手又ハ檢診醫ノ指揮ニ從ヒ治療ヲ加フヘシ其ノ疾患ニシテ傳染ノ危險アリ若ハ重症ニシテ必要アリト認ムルトキハ休業治療ヲ命シ治療ノ見込ナシト認メタル者ハ稼業ノ禁止ヲ命スルモノトス

第十條　妊娠及分娩ノ場合ニ於テハ稼業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　健康診斷所ニ於テハ掛員ノ差圖ニ從ヒ疾病ヲ隱蔽スルカ如キ行爲アルヘカラス

第十二條　健康診斷ノ結果入院ヲ命セラレタル者ハ別ニ定メタル患者心得ヲ遵守スヘシ

第十三條　健康診斷ノ際ハ警察官吏ヲ立會セシメ場内ノ秩序及清潔保持其ノ他娼妓ノ取締ニ任セシム

第十四條　本則第六條第八條第九條第十一條第十二條ニ違反シタル者ハ二十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幇助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

明治三十四年一月岐阜縣令第二號娼妓健康診斷規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●娼妓健康診斷手續

沿革　大正四年一月訓令甲第五號、一三年四月第二四號改正

（明治四十四年三月四日岐阜縣訓令甲第十一號）

第一條　娼妓ノ健康診斷ハ其ノ所在地警察官署在勤ノ醫師タル衛生技師、衛生技手（以下單ニ衛生技師ト稱ス）又ハ檢診醫之ヲ行フ若シ差支アルトキハ警察部若ハ他署勤務ノ衛生技師、衛生技手ヲシテ之ヲ行ハシム但シ衛生技師、衛生技手又ハ檢診醫ニアラサル醫師ヲシテ補助セシムルコトヲ妨ケス

第二條　娼妓名簿ノ登錄ヲ受ケムカ爲健康診斷書ノ下附ヲ請フ者アルトキハ娼妓健康診斷規則第二條各號ノ疾患ナキコトヲ確診シタルモノニ對シ第一號樣式ノ健康診斷書ヲ下附スヘシ

第三條　娼妓名簿ノ登錄ヲ得テ就業前診斷ヲ請フ者アルトキハ更ニ前條ノ疾患有無ヲ診斷シ第二號樣式ノ健康診斷證ヲ下附スヘシ

第四條　娼妓健康診斷規則第四條第五號ノ臨時健康診斷ヲ必要ト認メタルトキハ衛生技師、衛生技手又ハ檢診醫ハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ持チテ之ヲ行フヘシ

第五條　健康診斷ヲ行ヒタルトキハ其ノ診斷ニ從ヒ健康者ハ健ノ印入院治療ヲ要スヘキ者ハ入院ノ印通院治療シ得ヘキ者ハ通院ノ印健康診斷規則第二條第二號第三號ノ疾患アルモ就業ノ儘治療シ得ヘキ者ハ就業治療ノ印休業治療ヲ要スヘキ者ハ休業治療ノ印ヲ診斷證ノ欄内ニ押捺還付スヘシ

第六條　娼妓健康診斷規則第二條第二號第三號ノ疾患者ニ對シテハ知事ノ認可ヲ受ケ其ノ囘數ヲ減スルコトヲ得

第七條　健康診斷簿ヲ備ヘ置キ第一條及第三條ニ依リ診斷シタル成績ヲ記載スヘシ

健康診斷簿ハ第一條ニ依ルモノハ第三號樣式第三條ニ依ルモノハ第四號樣式ニ據ルヘシ

第八條　左ニ掲ケタル場合ニ於テハ其ノ事由及氏名ヲ即日所轄警察官署ニ通報スヘシ

一、姙娠中及分娩後ニシテ稼業ヲ爲サシムルヲ有害ナリト認ムル者ヲ診斷シタルトキ
二、健康診斷當日無屆他出ノ者アリタルトキ
三、入院若ハ休業治療ヲ命シタルトキ
四、健康診斷規則第二條第二號第三號ノ疾患ニシテ到底治療ノ見込ナシト認メタルトキ但シ診斷書ノ添付ヲ要ス

第九條　健康診斷ニ關スル事項ハ左表式ニ依リ調査シ第五號表第六號表ハ一箇月分ヲ翌月五日迄ニ第七號表ハ一箇年分ヲ翌年一月二十日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

第十條　健康診斷規則第三條ニ依リ診斷日時ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ豫メ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

○第一號樣式

健康診斷書

右診案候處娼妓稼業ニ堪ユヘキモノト診斷候也

明治　年　月　日

何地娼妓健康診斷所

○第二號樣式

表

大正　年　月　日

何地娼妓健康診斷所

折

目

面

第　號

健康診斷證

年	第一回	臨時	第二回	臨時	第三回	臨時	第四回	臨時	第五回	臨時	第六回	臨時

○第三號書式

明治　年　月　日　樓名

第　號

原籍　願人

出生地　親ノ職業　學事

履歷

體格　月經

成績　不合格ノ理由

允許月日　健康證下付月日

備考

明治　年　月　日　樓名

體格健康診斷簿用紙

何地娼妓健康診斷所

裏面

年	第一回臨時	第二回臨時	第三回臨時	第四回臨時	第五回臨時	第六回臨時
一月						
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						

折目

第	號
原籍	
出生地	
現ノ職業	
學事	
願人	
履歷	
體格	
月經	
借用金額	金
成績	
不合格ノ理由	
允許月日	月 日
健康證下付月日	月 日
備考	

○第四號様式

月	區分	
一月	定期	
	臨時	
二月	定期	
	臨時	
三月	定期	
	臨時	
四月	定期	
	臨時	
五月	定期	
	臨時	
六月	定期	
	臨時	
七月	定期	
	臨時	
八月	定期	
	臨時	
九月	定期	
	臨時	
十月	定期	
	臨時	
十一月	定期	
	臨時	
十二月	定期	
	臨時	
氏名		
稼名		

事由	
事由	

何地娼妓健康診斷所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	氏名	稼名	事由
	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	

○第五號樣式

娼妓出願者健康診斷及病類表

何地娼妓健康診斷所

明治　年　月

健康診斷表

初	再	十八年以上二十年未滿	初	再	二十年以上二十五年未滿	初	再	二十五年以上	計

事由	事由

合格				
不合格				
合計				
受驗者百ニ對スル不合格者比例				

病類表

	十八年以上二十年未滿 初	十八年以上二十年未滿 再	二十年以上二十五年未滿 初	二十年以上二十五年未滿 再	二十五年以上 初	二十五年以上 再	小計	病類ニ對スル百分比例
黴毒								
下疳								
淋病								
肺結核								
疥癬								
其ノ他傳染性疾患								
稼業ニ堪ヘサル疾患								
合計								

○第六號樣式

娼妓健康診斷及病類表

何地娼妓健康診斷所

明治 年 月

健康診斷表

		人數 有毒	人數 無毒
定日			
臨時	新就業		
	休業者就業		
	出願		
小計			
合計			
受檢者百人ニ對スル有毒比例			
檢查ノ度數			
檢查一回ニ對スル娼妓平均數			

○第七號樣式

病類表

明治　年　何地娼妓健康診斷所

	定日診斷	臨時診斷			
	新就業	休業者就業	出願	計	
黴毒					
痲病					
軟下疳					
剝脱					
傳染性皮膚病					
結核性疾患					
瘤病					
トラホーム					
其他ノ疾患					
計					
娼妓一日平均	健康診斷延人員			同上ノ内有病ト認メタル者	

●娼妓健康診斷ニ關スル件

（大正十四年三月二十八日）
警察部長ヨリ各娼妓病院長宛

娼妓健康診斷方ニ關シ爾今左記ノ通施行相成度此段通牒候也

左記

一、入院患者全治シタルトキハ次ノ撿黴日迄止メ置クコトナク即日退院セシムルコト

但シ退院患者ハ次ノ撿黴日ニハ撿診ヲ受ケシムルコト

二、撿診日ニ撿黴ヲ受ケサリシ者（娼妓健康診斷規則第五條）アリタルトキハ所轄警察官署ニ別紙樣式ニ依リ通報スルコト

第　號

娼妓不受撿診者通知書

左記ノ者本日健康診斷ニ於テ受撿セサリシ者ニ付此段及通報候也

年　月　日

（何々）警察署御中

岐阜縣立（何々）院

左記

不受診理由	住所	貸座敷名	稼名	氏名

●娼妓健康診斷所ニ於ケル娼妓取締方等ニ關スル件

（大正十四年十月二十八日　衛發第四六四號通牒）

警察部長ヨリ岐阜、大垣、多治見、高山各署長宛

娼妓健康診斷所ニ於ケル定期診斷ノ際其ノ待合所ニ於テ娼妓カ疾病ヲ隱蔽スルカ如キ行爲ヲ爲スモノアリ檢診ノ結果ニ影響スル處多キヲ以テ娼妓健康診斷規則第十三條ニ依リ定期診斷ノ際ハ嚴格ナル警察官ヲシテ之レカ取締並ニ場内ノ秩序及清潔ノ保持ニ努メシメラレ度尚娼妓ノ登錄、登錄削除、休業、復業アリタル場合ハ其ノ都度至急健康診斷所ニ通報相成度此段及通牒候也

●娼妓入院中ノ藥價等支辨方ノ件

（明治二十八年三月二十三日　岐阜縣令第十五號）

〔驅黴院〕ニ於テ治療スル娼妓入院中ノ藥價食費及寢具ハ明治二十八年四月一日ヨリ地方税ヲ以テ支辨ス

●娼妓病院規則

（明治四十四年三月四日　岐阜縣訓令甲第十號）

沿革　大正七年五月縣訓甲第一九號、一三年七月第四三號改正

第一章　總則

第一條　娼妓病院ハ風俗上取締ヲ要スル稼業ヲ爲ス者ノ傳染性疾患（八種傳染病ヲ除ク）ヲ治療シ及行政執行法第三條ノ患者ヲ收容スル所トス

第二條　娼妓病院ノ名稱及位置左ノ如シ

金津病院　岐阜市金津廓
旭治療院　安八郡大垣町旭廓
西ケ原治療院　土岐郡多治見町西ケ原廓
花岡治療院　大野郡高山町花岡廓

第三條　病院及治療院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
醫師
調劑手
書記

治療院ニハ調劑手ヲ置カサルコトアルヘシ

第四條　院長ハ知事ノ指揮ヲ受ケ院内一切ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

第五條　院長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得但シ決行ノ後知事ニ開申スヘシ

一、職員及看護人小使服務規程ヲ設クルコト
二、看護婦、看護人及小使ノ進退ニ關スルコト
三、職員ノ看護歸省、墓參、轉地療養、除服及缺勤ニ關スルコト
四、豫算定額内ヲ以テ一廉金貳百圓未滿ノ物品ノ購入、修理、借入及圖書類ヲ印刷スルコト
五、豫定金額ヲ超ヘサル指定修繕及豫算定額内ニ於テ小破修繕工事ヲ執行スルコト
六、見積價格一廉金五拾圓未滿ノ不用品賣却ノコト

第六條　院長ハ入院患者心得及看護婦小使服務心得ヲ定メ知事ノ承認ヲ受ケ施行スヘシ

第七條　醫師ハ所屬院長ノ指揮ヲ受ケ入院患者ノ治療ニ從事ス

第八條　調劑手ハ院長又ハ醫師ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ從事スヘシ

第九條　書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十條　娼妓病院ニハ左ノ門牌ヲ掲クヘシ

岐阜縣立（金津病院　何治療院）

四　尺

第二章　處務順序

第十一條　病院及治療院ニハ左ノ簿册ヲ備置クヘシ

出勤簿、遲參簿、日誌、宿直日誌、病床日誌、收發件名簿、患者名簿、患者携有品預簿、處方錄、例規、裏議書編、諸願屆書編、往復書編、諸表編、備品臺帳

第十二條　院長ニ於テ前條以外ノ簿册ヲ設ケムトスルトキハ事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　院長更迭ノ時ハ前任者ニ於テ事務引繼目錄ヲ作リ三日以内ニ後任者ニ引渡ヲ爲シ其ノ旨連署ヲ以テ知事ニ屆出ツヘシ

第十四條　收發ノ文書ハ總テ文書收發簿ニ登記シ速ニ處理スヘシ

第十五條　文書ヲ處理スルトキハ院長之ニ認印スヘシ其ノ往復ハ院長名ヲ用フルコトヲ得

第十六條　入院患者アリタルトキハ院長親シク攝生方法及入院中ノ心得ヲ說示シ病症ニ依リ適當ノ病室ニ配置シ携有品ハ之ヲ領置シ退院ノ際還付スヘシ

第十七條　患者入院シタルトキハ第一號樣式退院シタルトキハ第二號樣式ノ通知書ニ依リ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第三章　服務條規

第十八條　職員ノ勤務時間並休日ハ一般官衙ノ例ニ據ル

第十九條　職員出勤シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印シ遲參シタルトキハ其ノ旨遲參簿ニ明記スヘシ

第二十條　院長ニ於テ父母ノ看護歸省、忌引中ノ歸鄉、父母ノ年回墓參其ノ他轉地療養ヲ爲サムトスルトキハ行先地及期日ヲ詳記シ知事ノ許可ヲ受クヘシ缺勤シタルトキハ其ノ旨報告スヘシ

第二十一條　宿直ハ職員一人宛ニ輪番ニ爲スヘシ但シ院長ハ知事ノ認可ヲ受ケ職員ノ一人ヲシテ宿直ヲ擔當セシムルコトヲ得

第二十二條　宿直時限ハ退院ヨリ出勤時間マテトス

第二十三條　宿直員ハ時々院内ヲ巡視シ諸般ノ注意ヲ爲スヘシ

第二十四條　宿直員ハ宿直中取扱ヒタル事件ヲ遺漏ナク日誌ニ登載シ翌日院長ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ

第二十五條　水火風害等非常災害ノ際ハ職員一同登院シ救護其ノ他諸般ノ防衛ニ從事スヘシ

第四章　患者取扱

第二十六條　病室ハ疾病ノ種類ニ依リ區別シ疾患ヲ異ニスル患者ハ可成之ヲ別室ニ收容スヘシ

第二十七條　娼妓健康診斷所ニ於テ入院ヲ命シタル患者ハ行政執行法ニ據リ入院ヲ命シタル患者ト其ノ室ヲ區畫シテ在院セシムヘシ

第二十八條　患者ニシテ其ノ入院ノ主因タル病症全癒ノ決定ヲ受ケタルトキハ假令併發病アリト雖モ速ニ退院セシムヘシ

其ノ病狀重症ナルモノハ適當ノ期間内之ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十九條　患者ニシテ他ノ病症ヲ併發シタルモノハ入院ノ主因タル病症全癒ニ至ルマテ俱ニ之ヲ診療スルコトヲ得

第三十條　前條ノ併發病ノ爲轉地療養ヲ必要ト認メタルモノ又ハ不治ノ症ト認メタルトキハ警察醫ノ意見ヲ聽キ假退院ヲ許スコトヲ得

第三十一條　分娩ノ爲者ハ疾病ノ症狀等ニ由リ院外治療ヲ必要ト認メタル患者ハ警察醫ノ意見ヲ聽キ臨時退院セシムルコ

トヲ得

第三十二條　患者ノ親屬又ハ同居ノ者自ラ患者ヲ看護シ若ハ別ニ看護婦ヲ差出サムコトヲ願出タルトキハ之カ爲特ニ要スル費用ヲ自辨スル者ニ限許可スヘシ

第三十三條　患者ニ供スル食物ハ日々點檢ヲ行ヒ腐敗其ノ他不適當ト認メタルトキハ速ニ取換ヘシムヘシ

第三十四條　患者ニ面會ヲ請フモノアルトキハ其ノ事由及患者トノ關係ヲ取調差支ナシト認ムル者ニ限許可スヘシ

必要ト認ムルトキハ面會ニ立會シ又ハ面會ヲ中止スヘシ

特別ノ事情アルモノノ外日出前日沒後ニ於テ面會セシムヘカラス

第三十五條　患者ヲ退院セシメムトスルトキハ醫察醫ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定スヘシ

第三十六條　患者退院ノ決定ヲ受ケタルトキハ其ノ寄寓所ノ戶主又ハ代理者ヲ召喚シ之ニ引渡スヘシ

罰則

本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月岐阜縣訓令第十四號娼徴院規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○第一號樣式

入院通知書

何番戶貸座敷
何某方　某

明治　年　月　日
右入院セシメ候也
明治　年　月　日

何病院
何治療院

○第二號樣式

退院通知書

何番戶貸座敷
何某方　某

明治　年　月　日
右退院セシメ候也
明治　年　月　日

何病院
何治療院

●娼妓病院小使看護婦看護人被服給與規則

（明治三十五年八月十三日
岐阜縣訓令第五十六號）

岐阜區樣院　大垣警察署　多治見警察署
高山警察署

第一條　小使ニ給與スル被服ハ左ノ如シ

一　冬紺木綿地　裕法被　一枚
一　同同上　地　股　引　一筋
一　夏同上　地　單法被　一枚
一　同同上　地　股　引　一筋

第二條　看護婦、看護人ニ給與スル被服ハ左ノ如シ

一　冬夏共白「キャルコ」地筒袖單衣
一　寒冷紗地帽子

第三條　小使ノ冬服ハ毎年九月中夏服ハ同五月中ニ之ヲ給與ス

第四條　看護婦、看護人ノ被服ハ毎年五月九日ノ兩度ニ各一著ヲ給與ス

第五條　保存期限ハ給與シタル翌月ヨリ起算シ各六ケ月トス

第六條　保存期限中解雇シタルモノハ其ノ期ニ給與シタル被服ノ全部ヲ返納セシム

第六章　藥　品

●藥品營業竝藥品取扱規則

（明治二十二年三月十六日法律第十號）

沿革　明治二五年六月法律第六號、三二年二月第六號、四〇年四月第三五號、四三年三月第二四號、大正一四年四月第四四號改正

第一章　藥劑師

第一條乃至第十五條（削除）

第十五條ノ二　藥劑師ハ正當ノ事故ナクシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條乃至第十九條（削除）

第二章　藥種商

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章　製藥者

第二十三條　製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章　藥品取扱

第二十六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ製造、貯藏、陳列、

販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラズ

第二十七條　日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限リニ在ラス

第二十八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條　毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出ス ニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條　第三十七條ノ三ニ掲クル藥種商ニ使用セラルル藥劑師ハ指定藥品ノ容器又ハ包紙ニ藥局方ノ所定ニ適合スルコトノ證明ヲ記シ之ニ自己ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

第三十四條　藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條　藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タル證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條　毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅甸語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十七條ノ二　藥劑師ニ非サレハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス

但藥劑師藥種商製藥者間ニ在リテハ此限ニ在ラス

醫師カ第四十三條ニ依リ指定藥品ヲ販賣授與スルハ前項ノ限ニ在ラス

第三十七條ノ三　命令ノ定ムル所ニ從ヒ藥劑師ヲ使用スル藥種商ハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得但第三十二條ノ二ニ依リ其藥品ノ容器又ハ包紙ニ藥劑師ノ證明アルモノニ限ル

第三十七條ノ四　土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ期間及營業所所在地ヲ定メ藥種商ニ指定藥品ノ販賣授與ヲ許可スルコトヲ得但其藥品ハ藥劑師又ハ前條ノ藥種商ヨリ得タルコトノ證明アルモノニ限ル

第三十七條ノ五　第十五條ノ二ノ規定ハ前二條ニ掲クル藥種商ニ之ヲ準用ス

第三十八條　內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第三十八條ノ二　何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルモノハ行政官廳ニ於テ其製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ藥品ノ所有者若クハ所持者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ之ヲ廢棄シ其他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ處置センコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

藥局方ノ所定ニ適合セサル藥品アルトキ亦前項ニ同シ

第三十八條ノ三　此規則ニ於テ指定藥品ト稱スルハ內務大臣ノ指定シタル藥品ヲ謂フ

第九章　罰則

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　藥品ノ容器又ハ包紙ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタル者

二　第二十六條又ハ第二十七條ニ違背シタル者

三　第三十八條ノ二第一項ノ禁止ヲ犯シタル者

第三十九條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　藥劑師ノ免狀ヲ受ケス又ハ其業務ノ禁止停止ノ處分ニ違背シテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者

二　第三十七條ノ二第一項第三十七條ノ三又ハ第三十七條ノ四ニ違背シタル者

第三十九條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　藥劑師ニシテ〔第十四條第一項〕ニ違背シ又ハ誤リテ調劑ヲ爲シタル者

二　〔第十六條第十八條〕第二十二條第二十五條又ハ第三十條第一項ニ違背シタル者

三　藥劑師ニシテ藥品ノ容器又ハ包紙ニ誤記ヲ爲シ又ハ事實ヲ知ラスシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル藥品ヲ貯藏、陳列、販賣若クハ授與シタル者

四　第三十七條ノ三ニ揭クル藥種商ニシテ事實ヲ知ラスシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル指定藥品ヲ貯藏、陳列、販賣又ハ授與シタル者

當該官吏若クハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ職務執行ヲ拒ミ若クハ之ヲ忌避シ若クハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ但其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十九條ノ四　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　藥種商若クハ製藥者ノ免許ヲ受ケス又ハ業務ノ禁止若クハ停止ノ處分ニ違背シテ藥種商又ハ製藥者ノ業ヲ爲シタル者

二　第三十八條ノ二第二項又ハ第三項ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間內ニ之ヲ履行セサル者

第四十條　〔第十一條第十七條第十九條〕第二十九條第三十條第一項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　〔第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條〕第十五條ノ二第二十八條第三十六條第三十七條第三十七條ノ五ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十一條ノ二　此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、〔再犯加重及數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス

第四十一條ノ三　當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但其業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

第四十一條ノ四　當業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十一條ノ五　（削除）

第四十一條ノ六　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第四十一條ノ七　當該官吏又ハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アルトキハ一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス〕但其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法〔第二百八十四條〕ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條　內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附　則

第四十三條　醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條　（削除）

第四十五條　〔阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年（八月）第二十一號布告ニ據ル〕

第四十六條　（削除）

第四十六條ノ二　藥種商又ハ製藥者其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アルトキハ地方長官ハ其業務ヲ禁示シ又ハ停止スルコトヲ得

地方長官ハ藥種商又ハ製藥者ノ業務ノ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得

第四十六條ノ三　此規則中地方長官ニ屬スル職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

第四十六條ノ四　此規則中醫師ニ關スル規定ハ齒科醫師及獸醫ニ之ヲ適用ス

第四十七條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條　明治十三年（一月）第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則　（明治四十年法律第三十五號附則）

本法ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

免許ヲ得テ五箇年以上藥種商ト爲リ本法施行ノ際現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ法人ヲ除クノ外本法施行後ト雖指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得但本法施行後六箇月以内ニ地方長官ニ其ノ旨屆出テタル者ニ限ル

第十五條ノ二及第三十九條ノ三第一項第四號ノ規定ハ前項但書ノ屆出ヲ爲シタル藥種商ニシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ミタルモノハ制第四十一條ニ同シ

第二項但書ノ屆出ヲ爲シタル藥種商ニシテ正當ノ事故ナクシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ミタルモノハ制第四十一條ニ同シ

第二項但書ノ屆出ヲ爲シタル者ヲ除クノ外本法施行ノ際現ニ營業スル藥種商ニハ本法施行ノ日ヨリ三箇年ヲ限リ第三十七條ノ二ヲ適用セス

●藥品營業並藥品取扱規則施行細則

（明治四十一年六月十七日　岐阜縣令第三十一號）

第一條　藥種商又ハ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

一　族籍、住所、氏名、生年月日、營業ニ關スル履歷書（法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地代表者ノ氏名ヲ記シ定款及營業主任者ノ履歷書）

二　營業所製藥場ノ位置

三　前號以外ノ場所ニ貯藏所ヲ設クルトキハ其ノ位置

四　製藥者ニ在リテハ製藥品目（精製スヘキ品目ヲ除ク）

製藥場ノ位置及製藥品目ヲ變更セムトスルトキハ知事ニ願出ツヘシ

第一項第一號第三號ノ事項及營業所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ但シ免許鑑札記載事項ニ異動アルトキハ免許鑑札ヲ添付スヘシ

第二條　藥種商製藥者支店ヲ設ケムトスルトキハ管理人ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添付シ知事ニ願出ツヘシ管理人ヲ變更セムトスルトキハ亦同シ

藥種商製藥者其ノ支店ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第三條　製藥ニ關スル技能ヲ有セサル者ト雖トモ藥劑師又ハ知事ノ承認ヲ得タル者ヲ雇入レ製藥主任ト爲ストキハ特ニ製藥者タル免許ヲ與フルコトアルヘシ

製藥主任者ヲ解雇シ又ハ其ノ死亡シタルトキハ直ニ知事ニ屆出ツヘシ其ノ解雇又ハ死亡後十日以内ニ補缺ノ手續ヲ爲サザルトキハ製藥免許ノ效ヲ失フ

第四條　藥種商製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ十日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再下附ヲ知事ニ願出ツヘシ

第五條　藥種商製藥者廢業若ハ死亡シ又ハ管外ニ轉住シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出免許鑑札ヲ返納スヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　藥種商製藥者ハ「岐阜縣免許藥種商」又ハ「岐阜縣免許製藥者」ノ八字及住所氏名ヲ記シタル標札（曲尺幅七寸長二尺五寸）ヲ其ノ店頭ニ掲クヘシ

第七條　藥種商ハ毒藥劇藥ノ封緘ヲ開キ又ハ容器ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス
前項以外ノ藥品ニシテ容器又ハ包紙ヲ變更シタルトキハ其ノ新タナル容器ニ封印ヲ爲シ原容器又ハ包紙ニ記載シアル事項ヲ轉載スヘシ

第八條　製藥者ハ自己製品ヲ適當ノ容器ニ收メ之ニ其ノ據ル所ノ藥局方名藥品名及自己ノ住所氏名ヲ記シタル封緘ヲ施スヘシ
前項藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造ノ年月日ヲ記入スヘシ

第九條　醫藥用以外ノ藥品ノ容器又ハ包紙ニハ其ノ品名及使用ノ目的ヲ記スルニ非サレハ貯藏陳列又ハ販賣授與スルコトヲ得ス
何レノ藥局方ニモ記載セサル製劑類ハ前二項ニ依ルノ外主藥ノ含量ヲ附記スヘシ但シ知事ノ承認ヲ經テ之ヲ省略スルコトヲ得

第十條　藥種商製藥者ニシテ藥品ノ容器ニ印紙ヲ貼付スルトキハ衛生試驗所ノ檢印紙ニ紛ハシキモノヲ用フヘカラス

第十一條　製藥者ハ帳簿ヲ備ヘ製藥ノ都度製藥原料及製品ノ受拂ヲ記入シ一箇年間製造シタル藥品名稱數量ヲ左記樣式ニ依リ翌年一月三十一日限知事ニ届出ツヘシ

藥品製造販賣數量表

藥品名	前年繰越數量	製造數量	販賣數量	殘高

備考　本表中ノ數量ハ「グラム」量ヲ記載スヘシ

第十二條　藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ本則第一條ノ手續ニ準シ免狀ノ寫ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ

本則第二條第五條第八條第九條第十條第十一條ノ規定ハ前項ノ藥劑師ニ之ヲ準用ス

第十三條　藥種商製藥者ニシテ一箇年以上休業シ又ハ六箇月以上行衛不明トナリタルトキハ免許ノ效ヲ失フ

第十四條　明治四十年法律第三十五號附則第二項ノ藥種商ニシテ指定藥品ノ販賣授與ヲ爲スモノハ「指定藥品販賣所」ノ七字ヲ記入シタル標札（巾尺幅七寸　長二尺五寸）ヲ其ノ店頭ニ掲クヘシ

第十五條　藥種商指定藥品ノ販賣授與ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第十六條　本則ニ依リ願届書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十七條　本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス但シ違背スル行爲ニシテ他ノ法令ニ處罰ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

附則

第十八條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十九條　本令施行前ニ許可ヲ受ケタル製藥者ハ明治四十一年十二月三十一日迄ニ本令ニ依リ更ニ出願免許ヲ受クヘシ期限内ニ其ノ手續ヲ爲ササル者ハ免許ノ效ヲ失フ

第二十條　明治四十年法律第三十五號附則第二項但書ノ屬書ニハ免許鑑札寫及各營業地市町村長ノ證明ヲ具シ届出ツヘシ

●藥品營業並藥品取扱規則施行細則取扱手續

（明治四十一年六月十七日　指示衛第一二號）

一　施行細則第一條ノ願書ヲ受理シタル時ハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ付シ速ニ進達スヘシ

イ　出願人ノ性行、來歷殊ニ藥業ニ關スル素養ノ有無私ニ營業若ハ調劑等ヲナスノ虞ナキヤ

ロ　製藥者ノ出願人ハ前號ノ外藥品ノ製造ニ關スル技能、經驗ヲ有スルモノナルヤ製藥場ノ設備ハ完全ナルヤ製藥ニ對

スル資本高何程ヲ有スルヤ

二　施行細則第二條ノ出願ニ對シテハ管理人ニ關スル前項各號ノ外本支店ノ關係ヲ調査スルヲ要ス

三　施行細則第三條ノ免許出願人アル時ハ其藥劑師又ハ技術者ハ間斷ナク其業ニ從事スルモノナリヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

四　警察署分署ニハ取締諸營業原簿中藥補商製藥者ヲ口別若ハ別冊トシ整理シ置クヘシ

●藥品營業竝藥品取扱規則第二十六條第二十七條及第三十七條ノ三ニ依ル命令

（明治四十年十二月十一日　内務省令第二十七號）

第一條　藥品營業者藥局方適否試驗ノ目的ヲ以テ藥品ヲ一時貯藏スルハ規則第二十六條及第二十七條ニ依ルノ限ニ在ラス

第二條　藥品營業者製藥又ハ精製原料（藥局製劑ノ原料ヲ除ク）ニ供スル目的ヲ以テ藥品ヲ貯藏シ又ハ其ノ目的ヲ以テ營業者間ニ販賣スルハ規則第二十六條及第二十七條ニ依ルノ限ニ在ラス

第三條　第一條及第二條ノ藥品ハ藥局又ハ陳列所以外ノ場所ニ他ノ藥品ト區別シテ貯藏スルコトヲ要ス

第四條　第一條及第二條ノ藥品ハ第一號又ハ第二號樣式ノ帳簿ニ記入シ其ノ出納ヲ明ニスルコトヲ要ス

第五條　第三條ノ規定ニ從ヒテ貯藏シ且前條ニ依リ帳簿ニ記入シタルモノニ非サレハ第一條ノ目的ヲ以テ貯藏シ又ハ第二條ノ目的ヲ以テ販賣スルモノト認ムルノ限ニ在ラス

第六條　規則第三十七條ノ三ノ藥劑師ハ之ヲ使用スル藥種商ニ於テ地方長官ニ其ノ届出ヲ爲シタル者タルコトヲ要ス

前項ノ藥劑師ハ其ノ藥種商ノ營業所以外ニ於テ藥品取扱ニ從事セサル者タルコトヲ要ス

第一項ノ届出ハ藥劑師ノ連署ヲ以テシ藥劑師免狀ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條　前條ノ藥種商其ノ藥劑師ヲ解雇シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

藥劑師失踪ノ宣告ヲ受ケ若ハ死亡シ又ハ免狀面ニ異動ヲ生シタルトキ亦前項ニ同シ但シ失踪又ハ死亡ノ場合ニ於テハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　第六條ノ藥劑師ニシテ其ノ藥種商ノ營業所以外ニ於テ藥品取扱ニ從事シタル者及第七條ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式ノ一（試驗藥品用）

備考
一、倉庫營業者運送取扱人其他營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受クル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若已ニ受入レタル試驗品ヲ上記ノ者ニ寄託スル等試驗結了前處置シタルトキハ「受入」及「試驗中」ノ欄ヲ朱書訂正シ其ノ事由ヲ備考トシテ附記スヘシ 二、藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前號ニ準ス俱シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ 三、同日中ニ數回受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度受拂數量等ヲ記入スルモ差支ナシ 四、同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「試驗中」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シ又「受入總額」ノ欄ニハ當日不合格ト決定シタル額ヲ合算シテ記入スヘシ 五、「減損」ノ欄ニハ藥品ノ試驗減、小分減、破損減等ノ數量ヲ記入スヘシ 六、不合格品ヲ他人ノ手ニ渡シ處置シタルトキハ其ノ渡先ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキハ「處置方法」ノ欄ニ記入スヘシ 七、「合格」及「不合格」ノ欄ニハ當日受入レタル物ニ係ルト否トヲ問ハス當日試驗成績ノ決定シタル數量ヲ記入スヘシ 八、頁ノ改マルトキハ次頁ノ始メニ其ノ前頁ノ終ノ數ヲ繰越高トシテ記入スヘシ

藥品名

月	日	試驗品 受入	試驗品 合格	試驗品 不合格	試驗品 減損	試驗品 試驗中	不合格品 受入總額	不合格品 處置方法	不合格品 數量

第一號樣式ノ二（製藥原料用）

藥品名						
在高現殘	藥量製數	賣渡				
		先渡賣	數量			

備考

一　倉庫營業者運送取扱人其ノ他營業ノ範圍內ニ於テ寄託ヲ受クル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若已ニ受入レタル藥品ヲ上記ノ者ニ寄託スルトキハ「賣渡」ノ欄ニ數量及寄託先ヲ記入スヘシ

二　藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前號ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ

三　受入レタル藥品ヲ返戻シ、廢棄シ又ハ他ノ方法ニ依リ處置シタルトキハ「賣渡」ノ欄ニ其ノ數量及處置方法ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキ亦同シ

四　同日中ニ數回受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度受拂數量等ヲ記入スルモ差支ナシ

五　同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「現在殘高」欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シテ記入スヘシ

六　頁ノ改マルトキハ次頁ノ始メニ其ノ前頁ノ終ノ數ヲ繰越高トシテ記入スヘシ

七　此ノ帳簿ニハ精製原料ヲモ記入スヘシ

藥品名			
受入			
月	日	數量	受入先

第二號樣式ノ一（試驗藥品用）

月　日　試驗成績品

藥品名	前日ヨリ繰越	受入	成績		減損	試驗中	不合格品		
			合格	不合格			受入總額	處置方法	其數量

備考

一 倉庫營業者運送取扱人其他營業範圍内ニ於テ寄託ヲ受クル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若已ニ試驗品ヲ上記ノ者ニ寄託スル等試驗結了前處置シタルトキハ「受入」及「試驗中」ノ欄ヲ朱書訂正シ其ノ事由ヲ備考トシテ附記スヘシ

二 藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前號ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ

三 同日中ニ數囘受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度藥品名ヲ重複記入シ數囘ニ受拂數量ヲ記入スルモ差支ナシ

四 同一種類ノ藥品ヲ數囘ニ受入レタル場合ニハ「試驗中」ノ欄ニハ其ノ數囘分ノ物ヲ藥品別ニ合算シ又「受入總額」ノ欄ニハ當日不合格ト決定シタル額ヲ合算シテ記入スヘシ

五 「減損」ノ欄ニハ藥品ノ試驗減、小分減、破損減等ノ數量ヲ記入スヘシ

六 不合格品ヲ他人ノ手ニ渡シ處置シタルトキハ其ノ渡先ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキハ「處置方法」ノ欄ニ記入スヘシ

七 「合格」及「不合格」ノ欄ニハ當日受入レタル物ニ係ルト否トヲ問ハス當日試驗成績ノ決定シタル數量ヲ記入スヘシ

第二號樣式ノ二（製藥原料用）

月日	受入			賣渡			製藥濟數量	現在品總計
藥品名	前日ヨリ繰越	受入	受入先	數量	賣渡先			

備考

一　倉庫營業者運送取扱人其ノ他營業ノ範圍內ニ於テ寄託ヲ受クル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若已ニ受入レタル藥品ヲ上記ノ者ニ寄託スルトキハ「賣渡」ノ欄ニ數量及寄託先ヲ記入スヘシ

二　藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前號ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ

三　受入レタル藥品ヲ返戻シ、廢業シ又ハ他ノ方法ニ依リ處置シタルトキハ「賣渡」ノ欄ニ其ノ數量及處置方法ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキ亦同シ

四　同日中ニ數回受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度受拂數量等ヲ記入スルモ差支ナシ

五　同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「現在殘高」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シテ記入スヘシ

六　此ノ帳簿ハ精製原料ヲモ記入スヘシ

●藥品營業並藥品取扱規則ニ依ル指定藥品

（明治四十年四月十三日　內務省令第七號）

沿革　大正一〇年六月內務省令第一七號改正

藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依リ左記藥品ヲ指定ス

アンチピリン
杏仁水（苦扁桃水、バクチ水）
硝酸銀加硝石
硫酸アトロピン
抱水クロラール
鹽酸コカイン
キナ皮
ヒヨス越幾斯
鹽酸アポモルヒネ
硝酸銀
熔製硝酸銀
次サリチール酸苛鉛
クロ・フオルム
燐酸ゴデイン
綿馬越幾斯
阿片越幾斯

大黄越幾斯
麥角越幾斯
還元鐵
フオルマリン
炭酸ゲアヤコール
赤色ヨード汞
黄色酸化汞
サリチール酸汞
ヨードカリウム
炭酸クレオソート
メチールスルフオナール
鹽酸モルヒネ
巴豆油
含糖ペプシン
燐
硫酸フイゾスチグミン
薫蕾ヤラツパ丸
吐根
サントニン
吐酒石

蔓若越幾斯
番木鼈越幾斯
ゲギタリス葉
ゲアヤコール
昇汞
甘汞
赤色酸化汞
ヨードフオルム
クレオソート
亞砒酸カリウム液
鹽酸ゲアセチールモルヒネ
硫酸モルヒネ
サントニン錠
フエナセチン
サリチール酸フイゾスチグミン
墳酸ピロカルピン
ドーフル散
レゾルチン
麥角
硝酸ストリキニーネ

スルフオナール
カンタリス丁幾
ゲキタリス丁幾
ヨード丁幾
阿片安息香丁幾
ストロフアンツス丁幾
クロール亞鉛
ゲエチールバルビツール酸
鹽酸エチールモルヒネ
サリチール酸アンチピリン
プロテイン銀
ゲメチールアミドアンチピリン
蔓若硬膏
昇汞綿
スルフオゲアヤコールカリウム
過酸化水素液
生理クロールナトリウム液
鹽酸パラアミノベンツオイルゲユチールアミノエタノール
アンチピリン錠
昇汞錠

アセチールタンニン
ナキ丁幾
吐根丁幾
阿片丁幾
蔓若丁幾
番木鼈丁幾
硫酸亞鉛
廓解用エーテル
枸櫞酸カフエインアンチピリン
コロイド銀
廓醉用クロロフオルム
鹽酸エメチン
麥角流動越幾斯
プローム水素酸ホマトロピン
減菌ゼラチン液
複方ヨード液
リンゲル液
鹽酸コカイン錠
甘汞錠

吐根錠　　ヨードカリウム錠
鹽酸モルヒネ錠　　阿片吐根錠
炭酸ゲアヤコール丸　　クレオソート丸
炭酸クレオソート丸　　プローム水素酸スコポラミン
阿片坐劑　　蔓若坐劑
昇汞ガーゼ　　テオフイルリン
複方タロロフオルムモルヒネ丁幾　　鹽酸トロパコカイン
コロイド銀軟膏　　ヨードカリウム軟膏
蔓若軟膏　　芳香阿片酒
千分中二分以上ノ「モルヒネ」ヲ檢出スル藥品
千分中二分以上ノ「エチールモルヒネ」ヲ檢出スル藥品
千分中一分以上ノ「ヂアセチールモルヒネ」ヲ檢出スル藥品
千分中一分以上ノ「コカイン」ヲ檢出スル藥品
千分中六分以上ノ「コデイン」ヲ檢出スル藥品
指定藥品ヲ含有スル製劑ニシテ毒藥又ハ劇藥ニ屬スルモノ

●何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑取締ニ關スル件

（明治四十四年十月三日　內務省令第十八號）

第一條　藥劑師、藥種商又ハ製藥者何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑（藥局方ニ記載シタル藥品ヲ用ヒテ製造シタルモノヲ含ム以下之ニ倣フ）ヲ新ニ製造發賣シ又ハ輸入發賣セムトスルトキハ見本品ヲ添ヘ其ノ成分（製劑ハ分量トモ以下之ニ倣フ）成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載シ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ屆出ヘシ

前項ノ藥品又ハ製劑ト同一品ニシテ名稱若ハ製造法又ハ製造元ヲ異ニスルモノニ關シテ亦前項ニ同シ

第二條　何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其ノ成分、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但シ名稱若ハ製造法又ハ製造元ヲ異ニスル場合ヲ除ク外本令施行前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條　本令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十二月　內務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

●醫療用藥品檢查證明ヲ業務トスル者取締ノ件

（明治三十年九月二十一日　內務省令第二十六號）

藥劑師化學者及會社等ニシテ醫療用藥品ノ檢查證明ヲ業務トスル者ハ藥品ノ性狀、品質日本藥局方ニ記載アルモノハ該局方記載ナキモノハ其ノ據ル所ノ外國藥局方ノ所定ニ適合スルモノニアラサレハ試驗濟印紙ヲ貼付シ又ハ適合ノ證明ヲ與フルコトヲ得ス違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ニハ爾後檢查證明ノ業務ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

停止禁止ノ命令ニ背キ檢查證明ヲ爲シタル者ハ五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

（明治二十二年三月二十七日　內務省令第四號）

●藥品巡視規則

沿革　大正一五年三月內務省令第九號改正

第一條　衛生官吏警察官吏及藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條　監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢査スヘシ

一　藥品

二　藥品營業竝藥品取扱規則第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條及藥劑師法施行規則第十條乃至第十三條ノ事項

三　調劑錄

第三條　監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢査スヘシ

一　藥品

二　藥品營業竝藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條　監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ檢査スルコトアルヘシ

第五條　第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ檢査スルコトアルヘシ

第六條　巡視ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業時間中ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ檢査スルコトアルヘシ

第八條　監視員ノ檢査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

●藥品監視手續

（明治三十八年四月十九日　岐阜縣訓令衛第二千二十一號）

第一條　監視員ハ證票ヲ携帶シ巡視ノ際先ツ其ノ票ヲ示シ檢査ニ着手スヘシ

第二條　藥品ノ檢査ニハ藥劑師藥種商製藥者醫師病院ノ貯藏所管理人ヲシテ立會セシムヘシ但本人不在其ノ他差支アルトキハ代人ヲシテ立會セシムルコトヲ得

第三條　警察官吏ハ左ノ各號ヲ調査スヘシ

一　免狀及免許鑑札ノ正否

二　助手及管理人ノ族籍住所氏名年齡

三　調劑錄ノ適否及保存

四　毒藥劇藥賣渡ニ關スル證書ノ眞否及保存

五　日本及外國藥局方其ノ他藥業ニ關スル法令告示ノ有無

六　前各號ノ外藥品營業ニ關スル諸帳籍整否

第四條　藥劑師ハ左ノ各號ヲ調査スヘシ

一　藥局又ハ調劑室ノ整否

二　藥局方第一表藥品ノ備否

三　藥品竝水ノ良否

四　處方箋ノ適否

五　藥品貯藏ノ適否

六　藥品ノ容器又ハ包紙ノ文字

七　毒劇藥ノ區別及取扱法ノ適否

八　秤量器其他調劑用器ノ適否

九　藥品貯藏ノ倉庫及販賣店

第五條　藥品ノ品質性狀ニ疑ハシキモノアルトキハ其ノ藥品ノ一部ヲ封緘シ之ヲ所有者ニ保管セシメ他ノ一部ヲ携歸シ試驗ノ上處分スヘシ

第六條　第三條第四條ノ調査上不注意ノ點ヲ發見シタルトキハ其ノ事情ニヨリ現場ニ於テ又ハ警察官署ニ召喚シ將來ヲ戒告スヘシ

第七條　藥品巡視上法令ニ違犯セシ點ヲ發見シタルトキハ警察官吏ニ於テ其ノ情狀ニヨリ說諭又ハ告發スヘシ

第八條　第五條ノ試驗ニシテ其ノ藥品適正ナルコト判明セシトキハ所有者ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第九條　監視員ハ檢査ノ狀況ヲ日誌ニ記載シ檢査終了シタルトキハ其ノ都度左ノ樣式ニ據リ知事ニ報告スヘシ

藥品巡視施行成績報告

施行日　何日間

一自明治何年何月何日至同何年何月何日

施行地

一何郡(市)何町(村)「全部ニ亙リタルトキハ郡名」「一部ノ町村ニノミ行ヒタルトキハ郡町村名」「全市ニ亙リタルトキハ市名」「市ノ一部ニノミ行ヒタルトキハ區町又ハ大字名」

施行箇所

一藥劑師

一製藥者

一醫師

一病院

一其ノ他貯藏所

監視員　警部　氏名

同　藥劑師　氏名

不良藥品發見

	藥劑師	製藥者	藥種商	醫師	病院	其ノ他貯藏所	計
發見ノ箇所							
發見ノ箇數							

不良藥品處分

	藥品名	藥局方ニ不適ノ理由	製造者ノ住所氏名（會社ニアリテハ會社名）
告發			
說諭（注意共）			

規則違犯件數（注意、說諭、告發共）

	藥劑師	製藥者	藥種商	醫師	病院	其ノ他貯藏所	計
調劑錄ニ關スル件							
第十二條違犯							
第十三條違犯							
第二十二條違犯							
第二十八條違犯							

第二十九條違犯						
第三十六條違犯						
第三十七條違犯						
計						

●藥品監視ニ關スル件

（明治三十八年四月十九日 指示衛第一一號）

藥品監視手續別紙ノ通リ御訓令相成候ニ就テハ不日藥劑師ヲ出張セシメ候條相協力シテ實效ヲ奏スルニ努ムヘク其官ニ於テ專獨施行ノ場合ハ特ニ本官ヨリ指示スヘキニ付此旨心得ラルヘシ

●監視員巡視ニ關スル件

（明治二十二年九月二十六日 內務省訓令第三十八號）

明治二十二年（三月）法律第十號監視員ノ巡視ハ同年（同月）當省令第四號ニ依リ其廳ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用（監視員ノ俸給旅費日當共）及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其廳經費定額內ヲ以テ支辨スル義ト心得ヘシ但監視員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其廳ニ於テ交付シ尙ホ之ヲ管內ニ告示スヘシ

紙製　曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

ことし

裏

廳府
縣

名

廳印

●藥品監視員證票ノ件

（明治二十三年四月二十五日 告示第二十八號）

明治二十二年（三月）法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第三十八條ニ依リ監視員巡視ノ際ハ左ノ證票ヲ携帶ス

紙製　曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

ことし

裏

縣

名

廳印

●藥種商製藥者取締細則

（明治二三年三月縣令第二五號改正）

第一條　藥種商及製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ニ據リ願出ヘシ

第二條　藥種商製藥者ハ店頭ヘ左圖ノ如キ標札ヲ掲クヘシ

（明治二十三年二月二十四日 岐阜縣令第十七號）

木製

第何號鑑札
番號

何郡市何町村何番戶

藥種商（製藥者）　氏　名

第三條　藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第四條　藥種商製藥者ニ於テ使用スル藥品容器封緘用紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者（藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名）若クハ外國藥品取引人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第六條　製藥者毎年製造シタル藥品及其販賣高ハ第二號書式ニ據リ翌年一月二十日限リ届出ヘシ

第七條　藥種商製藥者ハ醫藥用品ト其他ノ藥品トヲ區別シ置クヘシ

第八條　藥種商製藥者廢業又ハ死亡シ若クハ他管ヘ轉住セントスルトキハ其旨届出免許鑑札ヲ返納スヘシ但廢業又ハ死亡ノ者ハ五日以内ニ届出ヘシ

第九條　藥種商製藥者管内ニ於テ轉住シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ但他ノ郡市役所所轄内ヘ轉住シタルトキハ前住地ノ郡市役所ヘモ届出ヘシ

第十條　藥種商及製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ族籍氏名ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ詳記シ免許鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第十一條　藥種商製藥者ニ關スル願届ハ總テ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

第十二條　藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖トモ該條ニ準シ届出其他第三條第四條第五條第六條第八條第十條ヲ遵守スヘシ但第五條但書ノ事項ハ遵守スルノ限ニアラス

第十三條　本則第三條第五條第七條第十二條ニ違背シタル者竝第四條ノ命令ニ遵ハサル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條　本則第六條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十五條　從來内務省製藥免許狀及本縣藥種商免許狀所持ノモノト雖トモ此細則ニヨリ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條　明治十七年四月本縣甲第三十號ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

（第一號）　料紙美濃紙

藥種商（製藥者）營業願

私儀藥種商（製藥者）營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度此段相願候也

年　月　日

何府縣族籍
何國何郡市何町村何番戸（寄留）
寄留ナレハ本籍ヲモ併記ス
氏　　生年月
名

縣知事宛

右

氏　　名印

前書之通願出候ニ付奥印候也

市長村長　氏　　名印

（第二號）　藥品製造及販賣高届

明治何年中製造シタル藥品及販賣高左表之通ニ有之候也

年　月　日

縣知事宛

何國何郡市何町村何番戸（寄留）
製藥者　氏　名　印

品目	製造高	販賣高
藥名	何百何十磅	何百何十磅
、	、	、
、	、	、
、	、	、

●藥種商製藥者毒物劇物營業試驗規則

（大正十三年三月六日告示第七十五號）

藥種商、製藥者、毒物、劇物營業試驗規則左ノ通定ム

藥種商、製藥者、毒物、劇物營業試驗規則

第一章　試驗施行

第一條　藥種商、製藥者、毒物、劇物營業（營業管理人ヲ含ム以下同シ）免許申請者ニ對シテハ本則ニ依リ試驗ヲ行ヒ合格シタル者ニ限リ免許ヲ與フ但シ左記該當者ハ此限リニ在ラス

一　藥劑師免狀ヲ受クヘキ資格ヲ有スル者

二　大正元年以降本縣ニ於テ免許ヲ受ケ本條ノ營業ニ從事シタル經歷アルモノ

三　知事ニ於テ認定シタル學校ノ卒業者若ハ講習會ノ終了者

第二條　試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ告示ス

第三條　試驗ハ高等小學校卒業者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ且二年以上直接藥品又ハ毒物、劇物ノ取扱ニ從事シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　試驗ハ筆記及實地試驗（口述ヲ含ム）トシ筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　藥種商

イ、藥品性狀品ノ大意及取扱法

ロ、毒物、劇物性狀ノ大意用途及取扱法

ハ、藥品營業及毒物劇物營業ニ關スル法律規則

二　製藥者

イ、藥品ノ製造法及鑑別法ノ大意

ロ、藥品檢査法及取扱法

ハ、藥品營業及毒物劇物營業ニ關スル法律規則

三　毒物、劇物營業者

イ、毒物劇物ノ性狀大意及取扱法

ロ、毒物劇物ノ區別及用途

ハ、毒物劇物ニ關スル規則

第二章　受驗人心得

第六條　受驗人ハ總テ試驗委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條　試驗當日ハ指定時刻三十分前ニ試驗場ニ出頭スヘシ

第八條　受驗人ハ毛筆硯又ハ萬年筆ヲ用意スヘシ

第九條　書籍及書類ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

第十條　受驗人ハ試驗場ニ於テ互ニ談話シ又ハ物品ヲ授與スルコトヲ得ス

第十一條　試驗場ニ於テ不都合ノ行爲アリタルトキハ退場ヲ命シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トスルコトアルヘシ

第十二條　試驗當日出頭セサル者ハ申請ヲ取消シタルモノト看做ス

附　則

本則ハ大正十三年四月一日ヨリ施行ス

●藥種商製藥者毒物劇物營業試驗取扱內規

（大正十三年三月七日）
警察部ヨリ各警察署長宛

第一條　試驗委員長ハ試驗規則第五條ノ各科目選定ニ付分擔委員ヲ指定ス

第二條　筆記問題ハ一科二問題トシ分擔委員ニ於テ之ヲ作成シ試驗委員長ノ決裁ヲ受クヘシ

第三條　試驗委員長ハ前條ノ問題ヲ取纏メ密封ノ上警察官署長ニ送付シ試驗ヲ施行セシム

第四條　實地試驗ハ試驗委員長ノ命ニ依リ試驗委員之ヲ行フ

第五條　採点ハ各分擔委員ニ於テ之ヲ行ヒ各科十点ヲ以テ滿員トシ一科四点以上平均点六点以上ヲ合格トス

第六條　本內規ハ試驗規則施行ノ日ヨリ實施ス

●代用消毒藥品檢定規程

（昭和二年一月十七日內務省令第三號）

第一條　傳染病豫防法施行規則第二十四條第二項ニ規定スル檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲ經テ傳染病研究所ニ出願スヘシ

一　藥品名

二　藥品ノ製造者、輸入者又ハ移入者ノ氏名

三　藥品ノ性狀、消毒力竝ニ成分、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法

四　藥品ノ數量、番號及小分豫定容器數

第二條　檢定ヲ受ケムトスル藥品ハ之ヲ封印ヲ施スニ適當ナル容器ニ收メ其ノ容器ニハ藥品名、數量及番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ

第三條　出願者ハ地方長官ノ派遣シタル當該吏員ノ指示ノ下ニ前條ノ各容器中ヨリ檢定上必要ナル數量ノ試驗品ヲ採取シ之ヲ容器ニ收メ其ノ容器ニ出願者名、藥品名及藥品番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ

當該吏員ハ前條ノ容器及試驗品容器ニ封印ヲ施スヘシ

第四條　地方長官ハ前條ノ試驗品ヲ願書ト共ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ

第五條　試驗品ノ數量檢定上不足ナルトキハ傳染病研究所ハ其ノ所要數量ヲ地方長官ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ第三條ノ規定ニ準シ所要數量ノ試驗品ヲ採取セシメ之ヲ傳染病研究所ニ送付スヘシ

第六條　傳染病研究所檢定ヲ了シタルトキハ其ノ經果ヲ地方長官ニ通知シ合格品ニ付テハ併セテ其ノ製法及用法ヲ指示スル文書等ニ小分豫定容器數ニ相當スル數ノ別記雛形ノ檢定證ヲ送付スヘシ

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ出願者ニ通知シ當該吏員ヲシテ第三條ノ規定ニ依リ施シタル封印ヲ解カシメ合格品ニ付テハ出願者ヲシテ當該吏員ノ監視ノ下ニ之ヲ小分セシメ檢定證ヲ以テ其ノ容器ヲ封緘セシメ且傳染病研究所ノ指示スル製法及用法ノ全文ヲ鮮明ニ印刷シタル標紙ヲ貼付セシムヘシ

第八條　檢定證ニ過不足ヲ生シタル場合ニ於テハ出願者ハ地方長官ヲ經テ傳染病研究所ニ之ヲ返納又ハ請求スヘシ

第九條　檢定ノ結果ニ不服アルトキハ出願者ハ其ノ理由ヲ詳具シ再檢定ヲ出願スルコトヲ得

再檢定ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

第十條　代用消毒藥品ノ檢定ヲ出願スル者ハ藥品番號毎ニ傳染病研究所長ノ定ムル手數料ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（別記雛形）

褐色

檢定證種類

第一號輪廓　縱　一九、〇「センチメートル」　横　四、〇「センチメートル」

第二號輪廓　縱　一四、四「センチメートル」　横　三、〇「センチメートル」

第三號輪廓　縱　九、五「センチメートル」　横　二、二「センチメートル」

●代用消毒藥品ノ檢定ヲ受ケ得ヘキ藥品指定

（昭和二年四月十一日　内務省告示第三百十六號）

大正十一年九月内務省令第二十四號傳染病豫防法施行規則第二十四條第二項ノ代用消毒藥品ノ檢定ヲ受ケ得ヘキ藥品左ノ通指定ス

一　消毒防臭劑クレシン

一　後藤デシン

一　消毒藥アイゼル液

第七章　毒物、劇物、阿片

●毒物劇物營業取締規則

（明治四十五年五月十日　内務省令第五號）

第一條　本令ニ於テ毒物劇物ト稱スルハ醫藥以外ノ用ニ供セシムル目的ヲ以テ販賣スル毒性又ハ劇性ノ物品ニシテ別ニ指定シタルモノヲ謂フ

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ依リ定メラレタル毒藥劇藥ノ品目ニ該當スル物品ニシテ前項ノ指定ヲ受ケサルモノハ醫藥用品（同法第二十六條但書及第二十七條但書ノ場合ヲ含ム）ノ外之ヲ貯藏、陳列、販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第二條　毒劇物營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官（東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ）ノ許可ヲ受クヘシ

藥劑師、藥種商又ハ製藥者毒劇物營業ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ニ届出ヘシ

第三條　未成年者、瘋癲白痴者其ノ他毒劇物ノ取扱ヲ爲スニ堪ヘスト認ムヘキ者及法人ハ其ノ取扱ヲ爲サシムル爲地方長官ノ許可ヲ得タル營業管理人ヲ置クニ非サレハ毒劇物營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　毒物劇物ハ堅牢ナル容器又ハ被包ニ容レ之ヲ密閉シ其ノ容器又ハ被包ニ醫藥用外ノ四字及其ノ品名並毒物ニハ毒物ノ二字劇物ニハ劑物ノ二字ヲ明記スヘシ

前項ノ文字ハ其ノ品名ヲ除ク外毒物ニ付テハ赤地ニ白色、劇物ニ付テハ白色ニ赤色ヲ以テ記載スヘシ

第五條　毒物ハ他ノ物品ト區別シ貯藏、陳列スヘシ劇物ニ付テ亦同シ

毒物ヲ貯藏、陳列スル場所ニハ鎖鑰ヲ施シ其ノ外部ニ醫藥用外毒物ノ六字ヲ明記スヘシ

第六條　毒物劇物ヲ取扱フニハ專用ノ器具ヲ備ヘ毒物又ハ劇物ノ文字ヲ其ノ器具ニ明記スヘシ

第七條　毒劇物營業者毒物劇物ヲ交付スルニハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ營業所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱及第四條

所定ノ文字ヲ明記スヘシ但毒劇物營業者ニ交付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

飲食物用容器ハ之ヲ前項ノ容器ニ充用スルコトヲ得ス

第八條　毒劇物營業者ハ業務上、學術上又ハ技藝上必要アリト認ムル者ヨリ左ノ各號ノ一ニ依リ其ノ從事スル業務、學術若ハ技藝ヲ證明シ且ツ品名、數量、使用ノ目的、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱及職業ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ販賣讓與スルコトヲ得ス

一　毒劇物營業者知人ノ證明

二　官公署又ハ學校ノ證明其ノ他徵證トナルヘキ官公文書

毒劇物營業者自己ノ知人ニ毒物劇物ヲ販賣讓與スル場合ニ付テハ前項ノ證明ヲ要セス

家事上必要ナル毒物劇物ニシテ別ニ指定スルモノニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ毒物劇物ハ品名、數量、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ販賣讓與スルコトヲ得ス

第一項及第四項ノ證書ハ其ノ日附ヨリ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條　毒劇物營業者ハ毒物劇物ノ販賣讓與ヲ受ケムトスル者前條ノ要件ヲ具備スルモ十四歲未滿ノ者又ハ不安心ト認ムヘキ者ニハ之ヲ交付スルコトヲ得ス

第十條　毒劇物營業者官公署、官公立ノ學校及製造所等ニ對シ毒物劇物ヲ販賣讓與スル場合ニハ第八條ノ手續ヲ要セス

毒劇物營業者ノ間ニ於テ賣買讓與スル場合ニハ第八條ノ證書ヲ要セス

第十一條　卸賣用ノ毒物劇物ニ付テハ其ノ容器又ハ被包ニ品名ヲ記シ若ハ錯誤ヲ來ササル文字又ハ記號ヲ使用スル限リ第四條ノ容器又ハ被包ノ記載ニ關スル規定ヲ適用セス

前項ノ毒物ヲ貯藏スル場所ニ付テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十二條　地方長官ハ吏員ヲシテ毒物劇物ヲ製造、貯藏又ハ販賣スル場所ヲ巡視セシムルコトヲ得

第十三條　地方長官ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ノ毒物劇物ヲ收去スルコトヲ得

前項ニ依リ收去ヲ執行スル場合ニ於テハ明治三十三年內務省令第十號第二條第三條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　毒劇物營業者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

地方長官ハ毒劇物營業者ノ業務ノ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得

第十五條　本令ノ執行ニ關シ當該吏員ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

毒劇物ノ容器又ハ被包ニ虛僞ノ記載ヲナシタル者若ハ第一條第二項第八條第一項又ハ第四項ニ違背シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十六條　第二條ノ許可ヲ受ケス若ハ其ノ屆出ヲ爲サスシテ毒劇物營業ヲ爲シタル者禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者、第四條、第五條、第七條、第八條第五項、第九條ニ違背シタル者又ハ毒劇物ノ容器若ハ被包ニ誤記ヲ爲シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　毒劇物營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　毒劇物營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第二十條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

本令ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令發布ノ際現ニ毒物劇物ノ營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ地方長官ニ届出テ毒物劇物ノ營業ヲ爲スコトヲ得

●毒物、劇物營業取締規則施行細則

（大正元年七月三十一日　岐阜縣令第四號）

第一條　毒物劇物營業ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ願書ニ族籍、住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ其名稱事務所所在地代表者ノ氏名ヲ添付スヘシ）營業所所在地ヲ記シ履歴書ヲ添付スヘシ

藥劑師、藥種商、製藥者ニシテ毒物劇物ノ營業ヲ爲サムトスルトキハ其届書ニ族籍、住所、氏名、生年月日、營業別、營業所所在地ヲ記シ免許證又ハ鑑札ノ謄本ヲ添ヘ届出ヘシ

第二條　毒物劇物營業取締規則第三條ノ營業管理人ヲ置カムトスルトキハ願書ニ管理人ト爲スヘキモノノ族籍、住所、氏名、生年月日竝ニ履歴書ヲ添付スヘシ管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三條　營業者支店ヲ設ケムトスルトキハ願書ニ支店所在地ヲ記シ支店管理人ヲ定メ其履歴書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第四條　營業者許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ十日以内ニ再渡又ハ書換訂正ヲ願出ヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ之ヲ届出テ許可證ヲ返納スヘシ

一　廢業シタルトキ

二　營業者死亡又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三　營業者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキ

四　支店又ハ營業管理人ノ廢止ヲナシタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　營業者ハ左記樣式ノ標札ヲ店頭ニ掲クヘシ

竪曲尺二尺五寸

○毒物劇物營業　氏名

藥種商ノ場合

第七條　本令ニ依ル願届書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　本令第三條第四條第五條第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

毒物劇物營業取締規則附則ニ依ル届書ノ記載事項其ノ他ノ手續ハ本令第一條第二條第三條ニ準據スヘシ本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●毒物劇物營業取締規則第一條ノ毒物劇物指定

（明治四十五年五月十日　内務省令第六號）

沿革　大正一〇年六月内令第一八號、一二年一月第二號改正

毒物

チアン水素酸、チアンカリウム其ノ他チアン化合物竝製劑但ベルリン藍色素

燐、硫化燐竝其ノ製劑

可溶性ウラニウム鹽類竝ウラニウム含有ノ著色料　黄色血滷鹽及赤色血滷鹽ヲ除ク

フルオール水素酸
砒素、其ノ化合物竝製劑及砒素含有著色料
水銀化合物及水銀含有著色料但亞クロール汞、黃色ヨード汞、油酸汞、白降汞、雷汞、チアン酸水銀、朱ヲ除ク

劇物

バリウム化合物但硫酸「バリウム」ヲ除ク
パラフエニーレンヂアミン、其ノ鹽類竝製劑
藤黃竝其ノ製劑
銅化合物但雷銅ヲ除ク
硫化炭素
硫酸竝其ノ含有物但十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
カリウム
苛性カリ竝其ノ製劑但五プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
苛性ナトリウム竝其ノ製劑但五プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
カドミウム竝其ノ化合物
ヨード竝其ノ製劑
烟草製劑
ナトリウム
鉛化合物但炭酸鉛ヲ除ク
クロール酸カリウム竝其ノ製劑但クロール酸鹽ヲ主トセル爆發藥ヲ除ク
クローム酸

クローム酸カリウム、重クローム酸カリウム竝其ノ製劑
クレオソート
ブローム
ブローム水素酸
鹽酸竝其ノ含有物但クロール水素十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
アニリン竝其ノ化合物
亞クロール汞竝其ノ製劑
亞鉛鹽類竝其ノ製劑但炭酸亞鉛、酸化亞鉛、雷酸亞鉛ヲ除ク
アムモニア水但アンモニア十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
金鹽類但雷金ヲ除ク
銀鹽類但クロール銀、雷銀ヲ除ク
メチールアルコホル（木精）
硝酸竝其ノ含有物但十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
蓚酸竝其ノ製劑
重蓚酸カリウム
ヒドロオキシールアミン其ノ化合物竝製劑
石炭酸竝其ノ含有物但五プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
スルフオナール、其ノ誘導體竝製劑
錫鹽類
發烟硫酸

ニトロベンツオール
輕製フオルマリン
クロロフオルム
クロールエチール
クロール錯酸類
プロームエチール
アンチモニウム化合物竝其ノ製劑但金硫黄ヲ除ク
クロールピクリン竝其ノ製劑
茴栗藤竝其ノ製劑

●毒物劇物營業取締規則第八條ノ毒物劇物指定

（明治四十五年五月十日　内務省令第七號）

沿革　明治四五年七月内令第一〇號改正

明治四十五年五月内務省令第五號毒物劇物營業取締規則第八條第三項ノ毒物劑物ヲ左ノ通指定ス

本令ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、燐ヲ含有スル殺鼠用製劑
一、烟草製劑又ハ亞クロール汞ヲ含有スル驅蟲用製劑
一、パラフエニーレンヂアミンヲ含有スル染毛用製劑
一、消火器用ノ硫酸又ハ鹽酸

●毒藥劇藥品目

（明治四十五年三月一日　内務省令第二號）

沿革　大正七年六月内令第一三號、一〇年三月第八號改正

毒藥劇藥品目

明治二十二年三月法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第三十條ニ據ル毒藥劇藥ノ品目ハ大正九年十二月内務省令第四十四號第四改正日本藥局方第二表第三表ニ掲クルモノ及左ニ掲クル藥品トス

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年十二月内務省令第三十六號毒藥劇藥ノ品目ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●毒藥之部

チアン水素酸、チアンカリウム、其他チアン化合物竝製劑但ベルリン藍色素、黄色血鹽鹽、赤色血鹽鹽竝其製劑及苦扁桃水、杏仁水、バクチ水ヲ除ク

フルオール水素酸
アドレナリン鹽類
砒素、其化合物竝製劑
ブルチン、其化合物竝製劑
コルヒチン、其化合物竝製劑
クラーリン、其化合物竝製劑
エメチン、其化合物竝製劑
水銀化合物竝其製劑但朱、亞クロール汞、黄色ヨード汞、油酸汞、白降汞竝其製劑及昇汞綿、昇汞ガーゼ、黄降汞軟膏、

アコニチン、其化合物竝製劑
アポモルヒネ、其化合物竝製劑
アトロピン、其化合物竝製劑
カンタリヂン、其化合物竝製劑
コニイン、其化合物竝製劑
ヂギタリン、其化合物竝製劑
ホマトロピン、其化合物竝製劑

赤降汞軟膏ヲ除ク

ヒヨスチアミン、其化合物竝製剤　ヒヨスチン、其化合物竝製剤

モルヒネ、其化合物竝製剤但エチールモルヒネ、其鹽類竝製剤、ヂアセチールモルヒネ、其鹽類竝製剤及モルヒネ錠、複方クロロフオルムモルヒネ丁幾ヲ除ク

ナルセイン、其化合物竝製剤　ナルコチン、其化合物竝製剤

ニコチン、其化合物竝製剤　ニトログリセリン、竝其製剤

巴豆油製剤　燐含有物

フイゾスチグミン、其化合物竝製剤　ピロカルピン、其化合物竝製剤

スコポラミン、其化合物竝製剤　カラバル豆製剤

ストロフアンチン

ストリキニーネ、其化合物竝製剤但ストリキニーネ〇、〇二プロセント以下ヲ含有スル次亞燐酸鹽舍利別ヲ除ク

河豚毒成分竝製剤　可溶性ウラニウム鹽類

ヴエラトリン、其化合物竝製剤

●劇薬之部

アセトアニリード製剤但一丸、一錠中〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク

クロール醋酸類

石炭酸製剤但純石炭酸五プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク

クローム酸鹽類

ヂエチールバルビツール酸化合物竝ヂエチールバルビツール酸又ハ其化合物ノ製剤

チアルリールバルビツール酸、其化合物竝製剤

フエニールエチールバルビツール酸、其化合物竝製剤

プローム水素酸

鹽酸含有物但クロール水素十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク

硝酸含有物但純硝酸十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク

王水　蓚酸

ピクリン酸鹽類　發烟硫酸

硫酸含有物但純硫酸十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク

アドレナリン鹽類製剤、エチールモルヒネ、其鹽類竝製剤

アガリチン鹽類竝アガリチン又ハ其鹽類ノ製剤

アンチピリン又ハ其化合物ノ製剤但一丸、一錠中〇、三グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク

強アンモニア水　苦扁桃水

アンチモニウム化合物竝其製剤但軟膏剤、金硫黄ヲ除ク

銀鹽類竝其製剤但クロール銀、プロテイン銀竝其製剤ヲ除ク

金鹽類

バリウム化合物但硫酸バリウムヲ除ク

ベラドンナ葉、草、根、竝其製剤

プロームヂエチールアセチール尿素、其化合物竝製剤但一錠中純プロームヂエチールアセチール尿素〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク

プロモホルム　カドミウム竝其化合物

カフエイン鹽類竝カフエイン又ハ其鹽類ノ製剤但一錠中純カフエイン〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク

ブローム樟腦製剤　カンタリスノ酒精又ハエーテル製剤
硫化炭素　セリウム鹽類
クロロフオルム製剤但クロロフオルム擦剤、クロロフオルム油並純クロロフオルム二十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
コカイン、其化合物並製剤　コデイン、其化合物並製剤
コタルニン、其化合物並製剤　銅化合物
ヂギタリス葉製剤
ヂメチールアミドアンチピリン化合物並ヂメチールアミドアンチピリン又ハ其化合物ノ製剤ノ但一丸、一錠中純ヂメチールアミドアンチピリン〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
サビナ葉並其製剤　樒實
コロシント製剤
グアヤコール製剤但一膠嚢、一丸、一錠中純グアヤコール〇、〇五グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
藤黄並其製剤　印度大麻草製剤
ドクセリ並其製剤　コニウム草並其製剤
ヒヨス草、葉、並其製剤　ロベリア草製剤
曼陀羅草、葉、子並其製剤
蔓若草、葉、根並其製剤但硬膏剤、軟膏剤及坐剤ヲ除ク
煙草製剤　ヒドラスチン、其鹽類並製剤
ヒドラスチニン、其鹽類並製剤　ヒドロオキシールアミン並鹽類
亞クロール汞、黄色ヨード汞、油酸汞、並白降汞ノ製剤但軟膏剤ヲ除ク

ヨード製剤但稀ヨード丁幾ヲ除ク
ヨードフオルム製剤但純ヨードフオルム十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
ヨードール　カリウム
重蓚酸カリウム
苛性カリ並苛性ナトロンノ製剤但純水酸化カリウム並純水酸化ナトリウム五プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
クロール酸カリウム製剤但純クロール酸カリウム十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
ヨードカリウム製剤但ヨードカリウム錠並純ヨードカリウム十プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
クレオソート製剤但一膠嚢、一丸、一錠中クレオソート〇、〇五グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
メチールスルフオナール製剤
モノブロームワレリアニール尿素並其製剤但一錠中純モノブロームワレリアニール尿素〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
ヂアセチールモルヒネ、其鹽類並製剤　ナトリウム
ニトロベンツオール
揮發苦扁桃油但ベンツアルデヒードヲ除ク
ラウリルケルス油　サビナ油
阿片製剤但塵劑ヲ除ク
ベントポン、其類似品並製剤　パラアルデヒード並其製剤
パラアミノベンツオイールヂエチールアミノエタノール、其化合物並製剤
フエナセチン製剤但一丸、一錠中純フエナセチン〇、二五グラム以下ヲ含有ノモノヲ除ク
フエノールフタレイン製剤但一丸、一錠中純フエノールフタレイン〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク

アコニツト根製劑　烏頭、附子竝其製劑
コルヒクム根、子竝其製劑
吐根製劑但吐根錠、竝吐根一プロセント以下ヲ含有スルモノヲ除ク
ヤラツパ根製劑　商陸製劑
藜蘆根竝其製劑
ヤラツパ脂製劑但蔗糖ヤラツパ丸、寢方大黃丸、及ヤラツパ石鹼ヲ除ク
サントニン製劑但一丸、一錠中純サントニン〇、二グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
麥角製劑　コツケルス子
巴豆竝其製劑　イグナチユース子竝其製劑
サバゲルラ子竝其製劑　ストロフアレツス子製劑
番木鼈製劑　蟾酥竝其製劑
ストリキニーネ〇、〇二プロセント以下ヲ含有スル次亞燐酸鹽含利別
スパルテイン、其化合物竝製劑　錫鹽類
スルフオナール製劑　タルリン、其化合物竝製劑
テオブロミン其化合物竝製劑但一丸、一錠中純テオブロミン〇、一グラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク
　テオフイルリン製劑
汞灰散
鹽酸トロパコカイン、其化合物竝製劑　ウレタン
ヨヒンビン、其鹽類竝製劑
亞鉛鹽類但硫酸亞鉛ヲ除ク
治療血清　注射用細菌類製劑　狂犬病豫防液

●「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件

（大正九年十二月六日内務省令第四十一號）

沿革　大正一一年一月内令第一號改正

第一條　「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸入又ハ移入セムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ業務所所在地地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一、品名及數量
二、出荷人ノ氏名又ハ商號及業務所所在地
三、輸入又ハ移入ノ豫定期日
四、輸入港名又ハ移入港名

前項ノ許可ヲ受ケタル後前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ニ付更ニ許可ヲ受クヘシ但シ第三號豫定期日ノ變更三十日内ニ係ル場合ハ此限ニ在ラス

第二條　「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸出又ハ移出セムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ且荷受人カ其輸入又ハ移入ニ付輸入地又ハ移入地當該官憲ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトノ證明ヲ添ヘ業務所所在地地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一、品名及數量
二、荷受人ノ氏名又ハ商號及其業務所所在地
三、輸出又ハ移出ノ豫定期日
四、輸出港名又ハ移出港名

前項ノ許可ヲ受ケタル後前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ニ付更ニ許可ヲ受クヘシ但シ第三號豫定期日ノ變更三十日内ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　前二條ノ規定ニ依リ「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ輸入移入又ハ輸出移出ノ許可ヲ受ケタル者其ノ輸入移入又ハ輸出移出ヲ爲シタルトキハ十日内ニ品名及數量ヲ業務所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

第四條　薬劑師又ハ製薬者ニシテ讓渡ノ目的ヲ以テ「モルヒネ」「コカイン」及其鹽類ヲ製造セムトスルモノハ左記各號ノ事項ヲ製造所所在地地方長官ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

一、品名

二、原料ノ種類

三、一年間ノ製造豫定數量

四、製造所所在地

第五條　前條ノ薬劑師又ハ製薬者ハ毎年十二月末日迄ニ製造シタル「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ品名數量竝ニ原料ノ種類、數量、受入先ヲ翌年二月末日迄ニ製造所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

第六條　「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸入、移入若ハ輸出、移出スル者又ハ薬品營業者ハ帳簿ヲ備ヘ「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ受拂ニ付其ノ品名、數量、年月日、受入先及拂出先ノ住所又ハ業務所、職業竝氏名又ハ商號ヲ記入シ其日附ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ但シ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ依リ讓渡シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　地方長官ハ衛生官吏又ハ警察官吏ヲシテ前條ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第八條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第九條　第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十條　第三條第五條若ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者、第七條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミタル者又ハ第十五條第二項若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條　「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ陸揚又ハ積戻ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ輸入移入又ハ輸出移出ト看做ス

第十二條　本令ノ規定ハ左記各號ニ掲クルモノニ之ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ハ薬劑師其ノ調劑用トシテ製造スル製劑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一、「ヂアセチールモルヒネ」「エチールモルヒネ」「コデイン」「エクゴニン」及其ノ鹽類

二、千分中二分以上ノ「モルヒネ」若ハ「エチールモルヒネ」千分中一分以上ノ「ヂアセチールモルヒネ」若ハ「コカイン」又ハ千分中六分以上ノ「コデイン」ヲ檢出スル薬品

三、内務大臣ニ於テ前各項ニ掲クルモノト同效力ヲ有スト認ムル薬品

第十三條　本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

附　則

第十四條　本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　本令公布前買付契約ヲ爲シタルコトノ證アル「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類又ハ第十二條各號ニ掲クルモノニシテ本令施行ノ際現ニ輸送ノ途ニ在ルモノハ第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ輸入又ハ移入ヲ爲シタルトキハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第十六條　本令施行前大正三年八月内務省令第十八條ニ依リ「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類又ハ第十二條各號ニ掲クルモノノ輸出及ハ積戻ニ付内務大臣ノ爲シタル許可ハ本令ニ依ル輸出ノ許可ト看做ス

第十七條　「モルヒネ」「コカイン」及其鹽類又ハ第十二條各號ニ掲クルモノヲ輸入、移入若ハ輸出、移出スル者又ハ薬品營業者ニシテ本令施行ノ際現ニ「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類又ハ第十二條各號ニ掲クルモノヲ所有スルモノハ其品名及數量ヲ本令施行ノ日ヨリ三十日内ニ業務所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

●「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件施行細則

（大正十一年十月四日　岐阜縣令第四十四號）

第一條　大正九年十二月内務省令第四十一號「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件（以下單ニ省令ト謂）ニ基キ知事ニ差出スヘキ書願ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條　省令第六條ニ基ク帳簿ハ左記樣式ノ雛形ニ依リ作成シ品目毎ニ見出ヲ設ケ使用前所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

廢業セントスルトキ亦同シ

第三條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○樣式（用紙美濃罫紙）

何々（品目名）ノ部

受拂年月日	受入數量	拂出數量	現在高	受入先拂出先	職業	備考

記載例

數量ハ「グラム」量ヲ單位トシ受入先拂出先ニハ住所氏名ヲ明瞭ニ記載スヘシ

●毒物劇物取扱ニ關スル件

（大正十五年十二月二十七日　衛第一二、二八〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ岐阜縣農會長ヘ通牒致置候條其部内農會ニ對シ相當注意シ通牒ノ主旨ヲ勵行セシメ殊ニ追記(三)ノ事實アル場合ニハ刑事訴追ニ付シ結果報告セラルヘシ

近時農事ノ改善ニ伴ヒ縣下各郡市町村農會ニ於テ農作物病虫害驅除竝ニ豫防用ニ農會名ヲ以テ多量ノ毒物劇物ヲ營業者ヨリ購入シ會員タル個人ニ實費配布シテ使用セシメ居リ候ニ付調査スルニ農會ノ事業トシテ會員ヨリ申込ヲ徵シ取纏メ農會ニ於テ購入夫々配布致シ使用セシメアル狀態ニ有之候然ルニ時ニ配布數多量ノ藥品ヲ農會事務所ニ一時貯藏シ又ハ配布殘品ヲ貯藏スル場合モアリ或ハ多量ノ藥品ヲ一時ニ購入シテ貯藏シ會員ノ申込ニ依リ少量宛配布使用セシムル場合モ有之シカ何等其ノ場所ヤ方法等ニ注意セサル爲メ頗ル危險ナル狀態ニ貯藏シアリテ之ヲ放任セシカ時ニ或ハ危險ヲ生セストモ難保憂慮ニ堪ヘサル次第ニ付之カ危害防止ニ關シテハ相當ノ方法ヲ講スル樣内務省衛生局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付此段適宜御配慮相煩ハシ度及通牒候也

追而當部ノ希望トシテハ當該營業者ニ準シ左記件ニ御勵行相成樣致度爲念申添候

(一)　毒劇藥物ノ貯藏ニ就テハ毒物藥物營業取締規則第五條ニ準スルコト

(二)　同交付ニ就テハ同則第九條ニ準スル事

(三)　農會ヨリ會員外ニ交付シ又ハ農會ヨリ交付ヲ受ケタル會員カ他人ニ之ヲ讓渡スルハ明ニ同則第二條違反ニシテ處罰セラルヘキニ付此儀一般ニ周知セシムル事

●阿片法

（明治三十年三月三十日法律第二十七號）

沿革　大正六年七月法第二六號、八年四月第四三號改正

第一條　阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　阿片製造人ハ地方長官ノ定ムル期日迄ニ毎年其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條　阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品及製藥用品ニ限リ封緘ヲ施シ之ヲ賣下ケ又ハ交付スルモノトス

阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非サレハ之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第三條ノ二　阿片ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第四條　第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ醫藥用阿片ノ價格ハ內務大臣之ヲ告示ス

賊償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ增加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條　醫藥用阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管內藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限リ醫藥用阿片販賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

營六條　醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者醫藥用阿片ヲ要スルトキハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

醫藥用阿片販賣人販賣用ノ阿片ヲ販賣ノ目的以外ニ供セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條ノ二　地方長官必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ對シ醫藥用阿片ヲ賣下クルコトヲ得

第七條　醫藥用阿片ハ第六條第一項若ハ前條ニ依ル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第七條ノ二　醫藥用阿片販賣人ハ第六條第一項ニ依ル請求ヲ受ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ醫藥用阿片ノ賣渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條ノ三　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ超エテ醫藥用阿片ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ノ容器ヲ開披シ若ハ改裝シ又ハ封緘ヲ破毀スルコトヲ得ス

醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ニシテ封緘ノ無效トナリタルモノ又ハ容器ヲ改裝シタルモノヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條ノ二　製藥用阿片ノ賣下ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ賣下ヲ受ケタル阿片ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第八條ノ三　官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付ヲ受クヘシ

第九條　第三條第二項又ハ第三條ノ二ニ違背シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

阿片ヲ輸入シタル者罰前項ニ同シ

第十條　第三條第二項ニ違背シテ所有又ハ所持スル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十條ノ二　第一條、第六條第二項、第七條乃至第八條又ハ第八條ノ二第二項ニ違背シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第二條第一項ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　（削除）

第十二條ノ二　藥品營業者又ハ阿片製造人未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スル罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ三　藥品營業者又ハ阿片製造人ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十二條ノ四　明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十二條ノ五　第十二條ノ二又ハ第十二條ノ三ニ依ル場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處スルコトヲ得ス

第十二條ノ六　第十二條ノ二乃至第十二條ノ四ノ規定ハ第九條ノ犯罪ニ付之ヲ適用セス

第十三條　阿片製造人又ハ醫藥用阿片販買人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附　則

第十四條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條　此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條　此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條　明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買竝ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○大正八年法律第四十三號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年七月勅令第三百五十六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）、

本法施行ノ際現ニ醫藥用阿片卸賣人タル者ハ第五條ニ依リ指定ヲ受ケタル醫藥用阿片販賣人ト看做ス

本法施行ノ際ニ醫藥用阿片卸賣人ニ非サル藥劑師又ハ藥種商ニシテ醫藥用阿片ヲ所有スルモノハ本法施行ノ日ヨリ三十日內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ買上ヲ請求シ又ハ醫藥用阿片販賣人、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ讓渡スルコトヲ得

（大正八年六月二十五日內務省令第四號）

●阿片法施行規則

沿革　大正一一年三月內令第五號改正
明治三十年三月內務省令第四號阿片法施行規則左ノ通改正ス

阿片法施行規則

第一條　阿片製造ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ住所、職業及履歷ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第二條　阿片製造人ハ地方長官ノ定ムル期日迄ニ毎年罌粟栽培ノ場所及段別ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ
前項ノ場所又ハ段別ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ速ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三條　阿片製造人阿片ヲ政府ニ納付セムトスルトキハ其ノ住所、氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル納付書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ現品ニハ製造人ノ住所、氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル木札ヲ付スルコトヲ要ス

第四條　地方長官阿片ノ納付ヲ受ケタルトキハ納付書ヲ添ヘ速ニ之ヲ大阪又ハ大阪衛生試驗所ニ送付スヘシ
衛生試驗所阿片ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ莫兒比涅含量ヲ試驗シ賠償命交付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ五匁未滿ノ納付品ニハ試驗ヲ施スコトヲ要セス

第五條　政府ニ於テ賣下ケ又ハ交付スル醫藥用阿片ハ第一號（五グラム入）、第二號（二十五グラム入）及第三號（四百五十グラム入）ノ容器ニ納メ毎容器ニ定價ヲ附シ大阪衛生試驗所ノ證紙ヲ以テ之ヲ封緘ス

第六條　醫藥用阿片販賣人ハ其ノ營業所ニ醫藥用阿片販賣所タル旨ヲ標示スヘシ

第七條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ毎半年ニ賣下ヲ受クヘキ醫藥用阿片ノ數量ヲ豫定シ容器ノ種類及其ノ箇數ヲ記シ二月前ニ地方長官ニ賣下ヲ請求スヘシ但シ必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ臨時請求スルコトヲ得

第八條　醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ其ノ數量、使用ノ目的竝業務所、職業、氏名及年月日ヲ記シ捺印シタル賣渡請求書ニ付數量五十グラムヲ超ユルトキハ地方長官ノ證明ヲ受ケ其ノ道府縣內ノ醫藥用阿片販賣人ニ提出シ賣渡ヲ受クヘシ
調劑用トシテ第一號（五グラム入）一箇ヲ要スル場合ハ前項ノ證明ヲ受クルコトヲ要セス但シ一年ヲ通シ五箇ヲ超ユルコ

トヲ得ス

第九條　公立ノ病院若ハ學校又ハ法人ニ於テ調劑用トシテ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス學術研究ヲ爲ス者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキ亦同シ

第十條　醫藥用阿片販賣人ハ醫藥用阿片ヲ其ノ道府縣以外ニ於テ使用スル者ニ販賣シ又ハ之ヲ其ノ道府縣以外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十一條　醫藥用阿片販賣人ハ外國ニ在ル帝國臣民タル醫師、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ニ於テ調劑用ニ供スル場合ニ限リ內務大臣ノ許可ヲ受ケ醫藥用阿片ヲ輸出スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ醫藥用阿片ノ數量、使用ノ目的、輸出先、使用者ノ業務所、職業及氏名ヲ具シ使用者業務所地ノ帝國官憲ノ證明アル注文書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スヘシ

第十二條　醫藥用阿片販賣人阿片法第六條第二項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ醫藥用阿片ノ數量及使用ノ目的ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第十三條　阿片製造人其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シ、廢業シ又ハ死亡シタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ニ於テ十日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ醫藥用阿片販賣人其ノ營業所若ハ氏名ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第十四條　醫藥用阿片販賣人醫藥用阿片販賣業ヲ廢止セムトスルトキハ地方長官ニ其ノ指定ノ取消ヲ申請スヘシ

第十五條　阿片製造人廢業シ若ハ死亡シタルトキ又ハ醫藥用阿片販賣人其ノ指定ノ取消ヲ受ケタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ニ於テ三十日內ニ既製ノ阿片又ハ販賣殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求スヘシ但シ相續人阿片製造ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　醫藥用阿片販賣人死亡シタルトキハ戶主若ハ相續人ヨリ三十日內ニ販賣殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求シ又ハ其ノ道府縣內ノ醫藥用阿片販賣人ニ讓渡スルコトヲ得

醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者廢業シ若ハ死亡シタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ヨリ三十日內ニ使用殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求シ又ハ醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ讓渡スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ讓渡シタル場合ニ於テハ十日內ニ其ノ數量ヲ具シ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條ニ揭クル者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スル事業ヲ廢止シタルトキ使用殘餘ノ醫藥用阿片ニ付亦前二項ニ準ス

第十七條　前二條ノ規定ニ依ル手續ハ戶主若ハ相續人不在又ハ未定ナルトキハ其ノ財產ヲ管理スル者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　地方長官醫藥用阿片販賣人ヲ指定シ若ハ其ノ指定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示スヘシ醫藥用阿片販賣人ノ營業所若ハ氏名ノ變更又ハ死亡ノ屆出ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十九條　官廳、官立ノ病院若ハ學校ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ大阪衞生試驗所ニ其ノ交付ヲ請求スヘシ

第二十條　醫藥用阿片販賣人ハ第八條ノ賣渡請求書ヲ醫師、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ハ阿片法第七條ノ處方箋ヲ其ノ日附ヨリ十年間保存スヘシ

第二十一條　藥劑師及製藥者ハ帳簿ヲ備ヘ製劑用ニ供シタル醫藥用阿片ノ數量、製劑ノ品名及年月日ヲ記入シ其ノ日附ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ醫師、齒科醫師、獸醫又ハ第九條ニ揭クル者醫藥用阿片ヲ製劑用ニ供シタルトキ亦同シ

第二十二條　醫藥用阿片販賣人ハ帳簿ヲ備ヘ醫藥用阿片ノ受拂高、受拂年月日及賣渡請求人ノ職業、氏名ヲ記入シ其ノ日附ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第二十三條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ每年度ノ醫藥用阿片受拂高ノ年度經過後三十日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條　地方長官ハ衞生官吏又ハ警察官吏ヲシテ阿片製造ノ場所ヲ巡視セシメ又ハ第二十條乃至第二十二條ノ書類帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十五條　阿片法及本令中地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

第二十六條　第二條、第六條、第十三條、第十五條、第十六條第三項、第二十三條又ハ附則第三項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第二十七條　第十條、第二十條乃至第二十二條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル巡視若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正八年法律第四十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年八月一日ヨリ施行）

阿片法附則第三項ノ規定ニ依ル醫業用阿片ノ買上價格ハ大正八年三月內務省告示第十八號ニ揭ケタル定價ニ依ル

阿片法附則第三項ノ規定ニ依リ醫業用阿片ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ十日內ニ其ノ數量ヲ具シ地方長官ニ屆出ツヘシ

（大正八年十月一日　岐阜縣令第四十三號）

●阿片法施行細則

第一條　阿片法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ申請ニ要スル履歷ハ罌粟栽培及阿片製造ニ關スル修得事實ヲ詳具シ且師事又ハ指導ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ教師又ハ指導者ノ說明ヲ要ス

第二條　規則第二條第一項ニ依ル屆出ハ左記事項ヲ具シ每年四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

一、罌粟栽培地名、地目、地番、段別

二、罌粟ノ種類

同條第二項ニ依ル屆出事項亦同シ但シ新舊併記スルヲ要ス

第三條　阿片製造人ハ罌粟栽培地壹箇所每ニ地名、地番、段別及其ノ住所氏名ヲ記シタル高サ三尺幅二寸以上ノ標杭ヲ建ツヘシ

第四條　罌粟ヨリ採取シタル液汁及製造シタル阿片ハ一定ノ場所ニ鎖鑰ヲ施シ貯藏スヘシ

第五條　阿片製造人採取シタル液汁及製造シタル阿片ヲ亡失シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第六條　阿片製造人ハ其ノ製造シタル阿片ヲ每年八月末日迄ニ納付スヘシ

阿片ヲ納付スル場合ハ堅牢ナル木箱ニ入レ規則第三條ニ依リ措置シタル上所轄警察官署ヲ經由差出スヘシ

第七條　阿片製造人ハ帳簿ヲ備ヘ本則第二條各號ノ事項竝阿片製造及納付ノ各數量、納付年月日ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ當該吏員ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

第八條　本縣內ニ於ケル醫業用阿片販賣人ノ定員ヲ二十二人トス

第九條　醫業用阿片販賣人ハ「醫業用阿片販賣所」ト記載シタル竪二尺五寸幅七寸ノ標札ヲ揭クヘシ

第十條　醫業用阿片販賣人營業所ヲ他ノ市町村ニ移轉シタルトキハ醫業用阿片販賣人タルノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條　規則第二十三條ニ依リ醫業用阿片販賣人ノ差出スヘキ醫業用阿片ノ受拂ノ屆ハ左記樣式ニ依ルヘシ

第十二條　阿片法、阿片法施行規則及本則ニ依ル願屆書竝申請書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條　本則第三條、第四條、第五條、第七條第一項、第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第七條第二項ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（用紙美濃紙）

大正　年度自大正　年四月
至同　年三月醫業用阿片受拂屆

種類	前年度ヨリ繰高	本年度受入高	合計	本年度內拂渡高	本年度末殘高

拂渡明細

拂渡年月日	種類	數量	拂渡先 住所	拂渡先 氏名

計	
第一號	
第二號	
第三號	

右及御届候也

住所

年　月　日

醫藥用阿片販賣人　氏　名（印）

知事宛

記載例　種類ノ欄ニハ第一號第二號第三號ノ別數量欄ニハ瓶數ヲ記載スヘシ拂渡明細計ハ朱記スヘシ

●阿片法施行心得

（大正八年十月一日 指示衛第九號）

各警察官署長

阿片法施行心得左ノ通相定メ候條此旨心得ラルヘシ

阿片法施行心得

第一條　阿片法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ進達スヘシ

一　素行

二　經歷特ニ農事及罌粟栽培ニ關スル知識經驗ノ有無

三　阿片煙又ハ阿片ニ關スル犯罪前科ノ有無若シ有ラハ其ノ事實

四　前號ノ外罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコト有ラハ其事實

五　資産

第二條　貯藏阿片ハ他物ト混在セシメサル樣注意スヘシ

第三條　規則第二十條ニ定ムル所ノ處方箋ハ隨時臨檢監査スヘシ

第四條　罌粟栽培地及阿片製造ノ場所竝阿片貯藏所ハ隨時臨檢監査スヘシ

第五條　阿片法施行細則第五條ノ届出アリタルトキハ速ニ報告スヘシ

第六條　納付阿片ヲ受理シタルトキハ規則第三條ニ依ル槽置ノ適否ヲ調査シ差支ナキモノハ直ニ發送セシムヘシ

第七條　阿片製造人及醫藥用阿片販賣人死亡シ又ハ其業務所若ハ住所ヲ變更シ其ノ他身上ニ關スル異動アリタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

第八條　醫藥用阿片販賣人ニ拂下クヘキ醫藥用阿片ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ當該請求者ニ通知シ領收書ヲ徵シテ之ヲ交付シ該領收書ハ直ニ進達スヘシ

第九條　規則第八條第一項前段ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ證明ヲ與フヘキ場合ハ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ規則第九條ニ掲クル者ノ需要ニシテ調劑用、試驗用又ハ藥局製劑用ニ供スルモノニ限リ證明請求者ノ從來ニ於ケル使用數量ヲ調査參照シ其ノ當否ヲ決定スヘシ

第十條　規則第八條第一項後段ノ規定ニ依ル證明ノ請求アリタルトキハ從來ノ製劑品名、數量、製劑設備ノ現狀竝ニ所要ノ目的ヲ調査シ意見ヲ附シ書類ヲ進達スヘシ

第十一條　規則第十二條ニ依ル申請アリタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ書類ヲ進達スヘシ

第十二條　警察官署ハ別記樣式ノ簿册ヲ備ヘ取扱ヒタル都度之ヲ整理スヘシ

用紙半紙　阿片製造人名簿

表

本籍 住所 氏名 生年月日	阿片製造許可年月日	阿片製造所所在地名	經歷	前科	摘要

裏面

届出年月日	罌粟栽培地名 地目番號	段別	阿片製造數量	納付年月日	阿片納付數量

阿片納付年月日欄ニハ納品ニ封印ヲナシタル年月日ヲ記入スヘシ規則第二條第二項ニ依リ變更届出タルトキハ届出年月日欄ニ「何年何月何日變更届出」ト記入シ以下相當欄ニ記入スヘシ

用紙半紙

警藥用阿片販賣人名簿

本籍 住所 職業 氏名 生年月日	指定年月日	營業所	經歷	摘要

摘要欄ニハ警藥用阿片販賣人廢業死亡又ハ指定取消年月日取消事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記載スヘシ

用紙中紙　　醫藥用阿片賣渡證明請求者名簿

本籍 住所 職業 氏名	醫藥用阿片賣渡證明請求年月日	使用ノ目的	醫藥用阿片賣渡證明請求數量	證明附與年月日	證明ヲ附與シタル醫藥用阿片數量	摘要

職業ハ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師、製藥者ノ別ヲ記入スヘシ

●阿片ノ賣下價格竝定價

（大正八年三月二十八日内務省告示第十八號）

政府ニ於テ賣下クヘキ阿片ノ價格竝定價左ノ通リ相定メ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

阿片賣下價格

第一號　五グラム入	金五拾錢
第二號　二十五グラム入	金貳圓五拾錢
第三號　四百五十グラム入	金四拾貳圓五拾錢

阿片定價

第一號　五グラム入	金六拾錢
第二號　二十五グラム入	金參圓
第三號　四百五十グラム入	金五拾圓

●製藥用阿片賣下ニ關スル件

（大正六年八月十四日内務省令第六號）

沿革　大正九年一二月内令第四三號改正

第一條　製藥用阿片ハ「モルヒネ」其ノ他ノ阿片アルカロイド又ハ其ノ誘導體若ハ製品ノ製造販賣ヲ目的トスル株式會社ニシテ内務大臣ノ指定シタルモノニ限リ之ヲ賣下クルモノトス

第二條　前條ノ指定ヲ受ケムトスル會社ハ左ノ事項ヲ具シ内務大臣ニ申請スヘシ

一　定款

二　製造所ノ位置

三　阿片ヲ原料トスル製造品ノ種類、一箇年ノ製造豫定數量

四　業務執行者及主任技術者ノ氏名履歴

前項各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　製薬用阿片ノ賣下ヲ受ケムトスルトキハ會社ハ其ノ數量ヲ具シ東京衛生試驗所長ニ請求スヘシ

前項ノ賣下代價ハ東京衛生試驗所長之ヲ定ム

第四條　會社ハ帳簿ヲ備ヘ製薬用阿片ノ買受、用途及製造品ニ關スル事項ヲ明記スヘシ

前項ノ帳簿ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第五條　製薬用阿片ハ第二條ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル株式會社間ニ限リ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得

第六條　内務大臣ハ會社ニ對シ阿片ヲ原料トスル製造品ノ製造販賣狀況ノ報告ヲ命シ又ハ官吏ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトヲ得

第七條　會社ニ於テ阿片ヲ原料トスル製造品ノ製造販賣ヲ廢止シ又ハ會社カ解散シ若ハ内務大臣ノ指定ヲ取消サレタルトキハ製薬用阿片ノ殘餘ハ十日内ニ東京衛生試驗所長ニ買戻ヲ請求スヘシ

前項ノ買戻代價ハ東京衛生試驗所長之ヲ定ム

第八條　會社ニシテ阿片法又ハ本令ノ規定ニ違背シタルトキ若ハ内務大臣ノ命令ヲ遵守セサルトキハ内務大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●阿片賣下代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムル件

（明治三十二年三月二十八日　勅令第六十五號）

沿革　大正六年一二月勅令第二二八號、八年一〇月同四三一號改正

阿片法ニ依リテ納ムヘキ醫藥用阿片賣下及交付代價ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●衛生組合傳染病豫防消毒等ノ爲メ毒劇藥購入シ得ルノ件

（明治四十一年七月一日　内務省衛甲第二九號）

衛生組合ハ藥品營業竝藥品取扱規則第三十條ニ依リ傳染病豫防消毒等ノ爲ニ使用スル石炭酸昇汞等ノ毒劇藥ヲ購入スルコトヲ得ルヤ否ニ關シ問合セ來ル府縣往々有之右ハ該條ニ依ルコトヲ得ルコトニ決定相成候條此段及通牒候也

追テ從前ノ通達ニシテ本文ト牴觸ノモノハ自然消滅シタルモノト御了知相成度候

（明治五年五月三日　太政官布告第百四十二號）

●鼠取蠅取藥ニ關スル件

鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礬石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致來候處爾今令禁止候事

（明治十年三月二十二日　内務省達乙第三十六號）

●燐製ノ鼠取藥ニ關スル件

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀聞屆鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レス殊ニ本年

太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條有營業者有之府縣ハ此旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事但調賣業之モノモ同樣賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達事

（明治十一年十二月二十日　内務省達乙第八十八號）

●中毒者報告方ノ件

府　縣

各地方管内ニ於テ飲食物之中毒及ヒ藥物之誤用等ニヨリ死ニ致ス者有之候節ハ其毒物之品名中毒之症狀竝ニ死者ノ住所姓名等ヲ詳細取調其都度當省衛生局ヘ通報可致且毒物之成分判然セサル分ハ現品相添可差出此旨相達候事

（明治三十九年六月二十三日　通牒衛第三四八四號）

●中毒患者報告ニ關スル件

藥品誤用、毒性氣ノ吸入又ハ飲食物等ニ關スル中毒患者アリタルトキハ警察報告例ニ依リ即時報告スヘキハ勿論尚患死者ノ有無ニ拘ラス左記各項ニ準シ調査報告可有之候也

一　患死者ノ住所、氏名、年齢
一　中毒ノ症狀
一　毒物ノ品名
一　藥品ニアツテハ其分量
一　毒物ノ成分判明セサルトキハ現品添付
一　檢診醫ノ氏名

●燐含有殺鼠劑ニ依ル中毒患者數及所爲別自殺者調ニ關スル件

（大正十二年六月十三日　衛第三三七四號）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

本件ニ關シテハ其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條左記樣式ニ依リ調査ノ上折返シ報告相成度候也

追テ六月以降ノ分ハ毎月五日限リ前月分ノ調査ヲ月報トシテ提出相成度申添候

（一）燐含有殺鼠ニ依ル中毒患者數

種別＼目次		大正十二年一月	二月	三月	四月	五月
自殺	已死					
	未死					
他殺	已死					
	未死					
誤用	已死					
	未已					
合計						

（二）自殺者所爲月別表

目次 ＼ 所爲別	大正十二年一月	二月	三月	四月	五月
縊レテ					
入水シテ					
刄物ニテ					
銃又ハ火藥ニテ					
噴火口ニテ					
燐含有ノ殺鼠劑ヲ除ク毒物又ハ劇物ヲ服シテ					
汽車ニ觸レテ					
電車ニ觸レテ					
其他					
合計					

●黃燐燐寸製造禁止法

（大正十年四月十一日法律第六十一號）

第一條　燐寸製造業者ハ燐寸ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條　黃燐ヲ使用シテ製造シタル燐寸ヲ販賣シ、輸入若ハ移入シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコトヲ得ス

第三條　當該官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ工場、倉庫、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ又ハ檢査ノ爲必要ナル分量ニ限リ無償ニテ燐寸若ハ其ノ製造原料ヲ收去スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢若ハ收去ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　燐寸製造業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ燐寸ノ製造ニ黃燐ヲ使用シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第七條　本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定ハ本法施行前ニ製造シ又ハ輸入若ハ移入シタル燐寸ニ付テハ本法施行後一年間之ヲ適用セス

第八章　賣藥

●賣藥法

（大正三年三月三十一日）
（法律第十四號）

沿革　大正五年六月法律第四一號改正

第一條　本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ
原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス

第二條　賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量竝効能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條　賣藥營業者二箇所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ營業所毎ニ所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四條　賣藥ニハ毒藥、劇藥及其ノ性狀又ハ配伍ノ結果ニ由リ危害ヲ生スルノ虞アル藥品ヲ使用スルコトヲ得ス但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依リ行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　賣藥ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノハ其ノ所定ノ性狀品質、之ニ記載セサルモノハ第二條第二項ノ見本品ト同樣ノ性狀品質ヲ具備スルヲ要ス

第六條　藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス但シ默醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ有ラス

第七條　賣藥免許ハ前條ニ揭クル者ニ限リ之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ得

第八條　賣藥ノ効能ニ關シテハ文書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外之ヲ誇張シテ公示スルコト得ス

第九條　賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セシシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

一　猥褻ニ渉ル記事又ハ圖畫

二　避姙又ハ墮胎ヲ暗示スル記事

三　虚僞誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ効能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムルノ虞アル記事

四　醫治ノ無効ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

第十條　地方長官ハ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ賣藥營業者ニ對シ其ノ免許ヲ得タル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條　賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限リ當該官吏ヲシテ賣藥又ハ其ノ原料品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第十四條　第二條第一項若ハ第五條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反スル賣藥ハ地方長官其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十五條　第二條第一項、第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第三條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　輸出又ハ移出スル賣藥ニ付テハ第二條乃至第十一條、第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用セス其ノ取締上必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ賣藥ヲ調製セムトスル者ハ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

第二十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年八月勅令第百六十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

第二十二條　賣藥規則ハ之ヲ廢止ス

他ノ法令中賣藥規則トアルハ本法ヲ指シタルモノト看做ス

第二十三條　從前ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥免許ハ之ヲ本法ニ依リ受ケタル賣藥免許ト看做ス

第二十四條　本法公布ノ際現ニ賣藥營業者タル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ拘ラス賣藥ヲ調製シテ販賣シ又ハ賣藥免許ヲ讓受ケ若ハ相續スルコトヲ得但シ賣藥ヲ輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　本法公布前免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥、劇藥又ハ藥品營業並藥品取扱規則ノ指定藥品ヲ含有セサルモノニ付テハ第六條及第七條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　第三條及第二十條ノ屆出ハ賣藥稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ免許ト看做ス

●賣藥法施行規則

（大正三年八月十三日
内務省令第十六號）

第一條 賣藥販賣免許ノ申請書ニハ賣藥法第二條第一項ニ掲ケタル事項ノ外氏名、生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所（調製又ハ販賣）ノ場所ヲ云フ）ヲ記載シ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條 地方長官賣藥法第二條ノ規定ニ依リ賣藥販賣免許ヲ與フルトキハ別記雛形ノ賣藥免許證ヲ下付ス

第三條 免許事項變更ノ申請書ニハ變更セムトスル事項、方名、氏名又ハ法人ノ名稱及住所ヲ記スヘシ但シ方名ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ免許證ヲ添附スヘシ

方名變更ノ免許ヲ與フルトキハ免許證ヲ書換下付ス

第四條 前條第二項規定ノ場合ヲ除クノ外賣藥免許證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日内ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ヲ除クノ外賣藥免許ヲ讓受ケ又ハ相續シタル場合ニ於テハ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 賣藥ニ關シ左ノ手數料ヲ徵收ス

一 發賣免許手數料　一方ニ付金壹圓
二 變更免許手數料　一方ニ付金七拾錢
三 免許證再下付又ハ書換手數料　一方ニ付金五拾錢

第三條第二項規定ノ書換ニ付テハ前項第二號規定ノ手數料ヲ徵收シ前項第三號規定ノ書換手數料ハ之ヲ徵收セス

第六條 地方長官ハ賣藥法第二條第二項ノ規定ニ依リ賣藥營業者ノ提出シタル見本品ノ性狀品質ヲ記シ保存スヘシ

第七條 賣藥法第三條規定ノ届出ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

賣藥發賣免許申請書ニ記載セル營業所ニシテ主タル營業所所在地ノ道府縣ト同一區域内ニ在ルモノニ付テハ其ノ申請書ニ於ケル營業所ノ記載ヲ以テ賣藥法第三條規定ノ届出ト看做ス

賣藥營業者其ノ營業所ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ十日内ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條 賣藥營業者二箇所以上ノ調製所ヲ設ケタルトキハ藥劑師若ハ醫師タル營業者又ハ賣藥法第二十四條規定ノ營業者カ自ラ管理スル一箇所ヲ除クノ外調製所毎ニ藥劑師ヲ置キ管理ヲ爲サシムヘシ但シ調製所所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ又ハ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者前項規定ノ藥劑師ヲ置キタルトキハ其ノ氏名ヲ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第九條 賣藥營業者ハ賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日内ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條 賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ハ之ヲ使用スル賣藥營業者ノ營業所以外ニ於テ藥劑師ノ資格ニ伴フ業務ニ從事セサル者タルコトヲ要ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 賣藥免許證ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日内ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ再下付ヲ申請スヘシ但シ毀損ノ場合ニハ毀損シタル免許證ヲ添附スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第十二條 賣藥營業者廢業シタルトキハ三十日内ニ免許證ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ返納スヘシ

賣藥營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ戸籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ヨリ前項ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 賣藥ヲ請賣セムトスル者ハ營業所毎ニ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十四條 賣藥請賣營業者廢業シ又ハ氏名若ハ法人ノ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十五條 賣藥營業者竝賣藥請賣營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメムトスルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十六條 賣藥營業者免許ヲ取消サレタルトキハ請賣營業者亦其ノ賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十七條　賣藥ノ發賣ヲ免許シタルトキ又ハ賣藥法第三條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ免許若ハ届出事由發生ノ年月日、方名、氏名、生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ、賣藥請賣若ハ賣藥行商ノ届出アリタルトキハ届出事由發生ノ年月日、氏名又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ當該地方行政廳ヨリ所轄稅務署ニ通知スヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第十八條　行政官廳賣藥法第十二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢又ハ檢査ヲ爲サシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外別記雜形ノ證票ヲ携帶セシムヘシ

第十九條　賣藥法第十三條ノ規定ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ當該官吏ハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求アルトキハ事實ノ許サヽル場合ヲ除クノ外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

第二十條　賣藥法第十二條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業時間中ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　第八條第一項第十條第十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條　第四條第七條第三項第八條第二項第九條第十一條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第二十三條　本令ハ賣藥法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正三年十月一日ヨリ施行）

（別記雜形）　用紙厚紙

「幅五厘」　「電紋幅一分」

竪五寸三分
（曲尺）

横三寸九分
（曲尺）

第　號

賣藥免許證

住所
氏名（又ハ法人ノ名稱）
生年月

一方名

契合印

右賣藥發賣ヲ免許ス

大正　年　月　日

廳府縣　廳印

備考　輸入又ハ移入スル賣藥ハ方名ノ肩ニ其ノ國名、製造者氏名又ハ法人ノ名稱ヲ記入スヘシ

又家畜牛馬等ニ用フル賣藥ハ方名ノ下（ ）ノ内ニ牛馬用等朱書スヘシ

二寸五分

表

賣藥檢査員之證

一寸五分

裏

廳府縣名

廳府印

（大正三年十一月十八日 岐阜縣令第四十五號）

賣藥法施行細則

沿革 大正五年二月勅令第六號改正

第一條 賣藥法施行細則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條及同第四條但書ニ依ル申請書ニ添付スヘキ資格證明書ハ醫師、藥劑師ニ在リテハ其ノ免許證又ハ免狀爲賣藥法公布前免許ヲ受ケタル賣藥營業者ニ在リテハ其ノ賣藥免許證寫者ハ賣藥法公布ノ際現ニ賣藥營業者タリシコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ以テスヘシ

第二條 賣藥免許ノ申請ニシテ藥劑師ヲ使用スルモノニアリテハ其ノ旨及藥劑師ノ住所、氏名、生年月日ヲ記シ連署シタル書面ヲ添付スヘシ

規則第八條第二項同第九條ノ届出ニ付テモ亦同シ

第三條 賣藥免許ノ讓受若ハ相續ノ場合ニ於ケル申請書ニハ規則第一條ニ掲ケタル事項ヲ記載シ讓受ニ係ルトキハ雙方連

署シ相繼ナルトキハ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第四條 規則第五條ノ手續料ハ收入印紙ヲ用ヰ申請書ニ貼付スヘシ

第五條 規則第八條第一項但書及同第十條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由及主タル營業所ノ外左項ヲ記載スヘシ

一 規則第八條第一項但書ノ場合ニハ營業者自ラ管理シ又ハ一人ノ藥劑師ヲシテ管理セシメムトスルトキハ其ノ氏名各調製所ノ位置及其ノ距離竝ニ調製所ニ於ケル作業ノ種類程度

二 規則第十條但書ノ場合ニハ其ノ使用スル藥劑師カ賣藥營業者ノ營業所以外ニ於テ其ノ資格ニ伴ヒ從事スル業務ノ概要及營業所ノ管理方法

第六條 賣藥營業者免許ヲ取消サレタルトキハ其ノ旨速ニ講賣營業者ニ通知シ直ニ免許證ヲ返納スヘシ

第七條 規則第十三條規定ノ届書ニハ氏名、生年月日又ハ法人ノ名稱及住所、營業所ヲ記載シ營業所每ニ所轄警察官署ニ提出スヘシ

第八條 賣藥講賣營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ所轄警察官署ニ其ノ旨届出ツヘシ

前項及營業所ノ變更竝第十四條ノ届出ハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ二十日以内ニ之レヲ爲スヘシ

第九條 賣藥營業者竝賣藥講賣營業者自ラ行商ヲ爲シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ營業所所轄警察官署ニ届出賣藥行商濟證ヲ受クヘシ

一 方名

二 賣藥營業者ノ氏名又ハ法人ノ名稱

三 同上 營業所

四 行商者住所、氏名及生年月日

行商ヲ廢止シ又ハ前項各號中ニ變更ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ賣藥行商届濟證ヲ添ヘ届出ヘシ

第十條　賣藥行商者届出濟證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出書換又ハ再下附ヲ受クヘシ

第十一條　賣藥行商者ニハ第一號樣式ノ賣藥行商届濟證ヲ下附ス

第十二條　賣藥營業者ハ賣藥原料品中日本藥局方ニ於テ特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其ノ所定ニ從ヒ且毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第十三條　賣藥營業者ハ藥品ヲ配伍スル營業調製所毎ニ別記第二號樣式ニ準據シ帳簿ヲ備ヘ各所要事項ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第十四條　賣藥營業者ハ請賣營業者名簿ヲ備ヘ販賣シタル賣藥ノ方名竝住所、氏名(法人ナルトキハ其ノ名稱)ヲ記載シ置クヘシ

請賣營業者ニシテ他ノ請賣營業者ニ販賣スル場合亦同シ

請賣營業者ハ賣藥ノ方名竝其ノ調製賣者ノ住所氏名(法人ナルトキハ其ノ名稱)ヲ記シタル簿册ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條　賣藥行商者ハ就業中届濟證ヲ携帶スヘシ

第十六條　賣藥營業者竝請賣營業書ハ營業ノ種類住所、氏名(法人ナルトキハ其ノ名稱)ヲ記載シタル第三號樣式ノ看板ヲ各營業所毎ニ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第十七條　賣藥營業者請賣營業者、同行商者ハ當該官吏ヨリ帳簿及届濟證ノ提示ヲ求メラレタルトキハ之レヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條　本則第六條第八條第一項第十條第十二條乃至第十七條ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

附則

第十九條　從前ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル賣藥請賣營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ大正三年十一月三十日迄ニ該許可證ヲ所轄警察官署ニ返納シ規則第十三條及本則第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　從來ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル賣藥營業者及賣藥請賣營業者ニシテ引續キ自ラ行商スル者又ハ賣子ヲシテ行商セシメムトスルモノハ前條規定ノ期日迄ニ規則第十五條及本則第九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　賣藥法賣藥法施行規則及本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ差出ス申請及届書又ハ返納スヘキ免許證ハ當該營業所所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十二條　他府縣ニ於テ下附シタル賣藥行商届濟證ハ本縣内ニ於テモ效力ヲ有ス

第二十三條　明治十九年七月岐阜縣布達第十一號ハ廢止ス

○第一號樣式（別記雛形）（用紙厚紙）

竪四寸（曲尺）

賣藥行商届濟證

住所

氏名

生年月日

左記ノ賣藥行商届濟ナルコトヲ證ス

大正　年　月　日

廳府縣　廳印

表

方名	賣藥營業者	同上營業所	行商届濟年月日

裏

方名	賣藥營業者	同上營業所	行商届濟年月日

備考 行商者ノ種類ヲ明ニスル爲其ノ氏名ノ上ニ賣藥營業者、賣藥請賣營業者又ハ之等ノ者ノ賣子タルコトヲ記載スヘシ

○第二號樣式（用紙美濃罫紙）

賣藥調製簿

原料品買入ノ部

買入年月日	種目	藥名	量	目	買入先
小計					
通計					

調製ノ部

調製年月日	種目	方名	一個ノ定價	製造個數	製造定價總額	印紙貼用高	備考
小計							
通計							

凡例

一 本簿ハ原料品買入及調製ノ見出ヲ付シ原料品ハ品別ニ調製シ方別ニ記載スルコト

二 毎月末ニハ小計二箇月目ヨリ通計ヲ記載スルコト

三 毎月首ニハ前月ノ越高ヲ記載スルコト

四 本簿ハ毎年一月ヨリ十二月迄ノ分ヲ記載スルコト

○第三號樣式

三尺（曲尺）

七寸五分

○ 賣藥（請賣）營業

住所

氏名（法人ノ場合ハ名稱）

●賣藥法施行細則取扱手續

（大正三年十一月十八日 岐阜縣訓令甲第四十一號）

第一條 警察官署ニ於テ知事ニ提出スヘキ賣藥ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ事實ノ調査ヲナシ速ニ進達スヘシ

第二條 賣藥法施行規則第十七條ノ事項ニシテ發賣免許ニ係ルトキハ警察部ヨリ賣藥販賣若ハ賣藥行商ニ係ルトキハ警察官署ヨリ直ニ之レヲ所轄稅務署ニ通知スヘシ

第三條 警察部ニ賣藥營業者原簿（第一號樣式）賣藥原料見本品臺帳（第二號樣式）警察官署ニ賣藥營業者名簿（第一號樣式）賣藥請賣營業者原簿（第三號樣式）賣藥行商者原簿（第四號樣式）ヲ備ヘ異動ノ都度整理スヘシ

○第一號樣式 （用紙美濃紙）

賣藥營業者原簿 （名簿）

營業所	資格	營業者 住所 氏名 生年月日	第 號 方名	免許番號	異動事由
			第 大正 年 月 日 號		
			第 大正 年 月 日 號		
			第 大正 年 月 日 號		
			第 大正 年 月 日 號		

備考 警察部ハ賣藥營業者原簿トシ警察官署ハ賣藥營業者名簿トス

○第二號樣式 （用紙美濃紙）

賣藥原料見本品臺帳

方名	番號 第 號	住所	氏名	業名

○第三號樣式

賣藥請賣營業者原簿

番號	第　號	營業所
届出年月日		住所 氏名
廢業年月日		生年月日
備考		

番號	第　號	營業所
届出年月日		住所 氏名
廢業年月日		生年月日
備考		

○第四號樣式　（用紙美濃紙）

賣藥行商者原簿

番號	第　號	住所
届出年月日		氏名
廢業年月日		生年月日
方	賣藥營業所及行商届出年月日	備考
名	賣藥營業者氏名	

●輸出又ハ移出スル賣藥ノ取締ニ關スル件

（大正三年九月二十五日　勅令第二百號）

第一條　賣藥法第二十條第二項ノ規定ニ依ル届書ニハ同法第二條第一項ニ掲ケタル事項、氏名生年月又ハ法人ノ名稱、住所、營業所及輸出先又ハ移出先ヲ記載スヘシ

前項ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ十日内ニ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二條　輸出又ハ移出スル賣藥ノ營業ヲ相續ニ依リ承繼シタル者又ハ廢業シタル者ハ三十日内ニ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

營業讓渡ノ場合ニ於テハ讓渡人及讓受人連署ヲ以テ前項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ戸籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ヨリ第一項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ

第三條　地方長官ハ輸出又ハ移出スル賣藥ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ若ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ又ハ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第四條　第一條若ハ第二條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ又ハ第三條ノ規定ニ依リ營業禁止若ハ停止ノ處分ヲ爲シタルトキハ届出事由發生又ハ處分ノ年月日、方名、氏名生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ示シテ之ヲ當該地方長官ヨリ所轄稅務署ニ通知スヘシ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル營業禁止又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥法ノ解釋ニ關スル件

（大正三年十一月三十日　衛廣第一八九號衛生局長通牒）

賣藥法第二十四條ニ該當スル賣藥營業者同法公布後一旦廢業シタル後其ノ資格有無ニ關シ廣島縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致置候

衛第六九八七號

大正三年十一月三日

廣島縣知事照會

賣藥法第二十四條ニ該當セル賣藥營業者ハ同法公布後一旦廢業スルモ同法第六條又第七條ノ規定ニ拘ラス更ニ新規賣藥ヲ調製發賣スルノ資格アルヤ否哪カ疑義相生シ候條何分ノ御意見承知致度候

内務省廣衛第一五三號

大正三年十一月二十六日

衛生局長回答

本件ニ關シ衛第六九八七號ヲ以テ御照會ノ趣了承賣藥法第二十四條ニ該當スル賣藥營業者ハ同法公布後一旦廢業スルモ同法第六條第七條ノ規定ニ拘ラス更ニ新規賣藥ヲ調製發賣スルノ資格アルモノト存候

（大正十四年四月十六日　衛第三一〇五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ニ關シ左記ノ通リ内務省衛生局長ヨリ警視總監ヘ回答ノ趣キ通知有之候條及通牒候也

記　（警視總監ヨリ衛生局長ヘ）

賣藥効能ニ賣藥法第九條ニ於ケル墮胎暗示ト認ムヘキ文字（月經閉止、月經不通等）ヲ記載シ通經藥ト稱スル賣藥免許申請ニ對シテハ當廳ハ從來免許セサルモ他府縣ニ於テ免許サレタルモノ多ク隨テ轉入申請ノ場合ニ當リ從來免許セサル賣藥ヲ認ムルカ如キ不合理ナル結果ヲ生シ處理上支障尠ナカラス候モ右ノ如キ文字記載ノ賣藥効能ニ對シ免許可然哉尙他府縣ニ於テ免許サレタル此種賣藥ニシテ轉入申請ノ場合ハ如何ニ處理スヘキヤ一應貴局ノ意見承知致度此段照會候也

同　上　回　答

標記ノ件ニ關シ客年十二月八日附衛第二二四號ヲ以テ御照會ノ趣キ了承効能中墮胎暗示ト認ムヘキ文字ヲ記載シ通經藥トスル賣藥ノ免許申請ニ對シテ免許スヘカラサルハ當然ノ事ニシテ要ハ効能中ニ記載セル字句ノ解釋ニ在ルヘキモ單ニ「月經閉止」「月經不通」ナル字句ヲ用フルハ必スシモ墮胎暗示ナリトハ認メ難クト存候

●賣藥竝藥品ヲ配伍シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノノ收去ニ關スル件

（明治三十七年九月二十日　內務省令第十四號）

第一條　賣藥竝ニ藥品ヲ配伍シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノハ行政執行法施行令第三條ニ依リ試驗ノ用ニ供スルタメ必要ナル分量ヲ收去スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ收去ヲ執行スル場合ニ於テハ（明治三十三年內務省令第十一號第二條第三條）ノ規定ヲ準用ス

●藥湯取締ニ關スル件

（明治三十八年五月二十五日　指示衛第一五號）

近來湯屋營業者ニシテ賣藥營業ヲ受ケス藥湯ヲ兼業スルモノアリ又ハ單ニ藥湯ヲ營ムモノアリ而カモ其藥品タル「ヨヂー」「ム」ノ如キ劇藥ヲ用ユルノ聞アリ素ヨリ賣藥鑑札ヲ受ケタルモノニシテ營業ヲ爲スハ當然ナリト雖モ賣藥鑑札ヲ受ケスシテ藥湯（藥湯タルコトヲ表彰シ且效能書ヲ貼付セシ類）ヲ營ムニ至テハ規則違反タルヲ免レス又是等營業者ニ劇藥ヲ販賣セシ藥品營業者ハ藥品營業竝藥品取扱規則第三十條第三十一條ノ違反者ナルヲ以テ此際精密調査ヲ遂ケ苟クモ犯行者アルニ於テハ相當處分可有之候也

●藥湯取扱ニ關スル件

（大正三年十月二日　山衛第一三一號內務省衛生局長通牒）

賣藥檢査心得第十二項ニ依リ藥湯ハ從來賣藥トシテ取扱ヒ來リ候處右ハ賣藥ト認ムヘカラサルモノト存候條爾今賣藥外トシテ御取扱相成度

追テ藥湯ノ原料ニシテ效能、用法、用量等一定ノ形式ヲ具備シテ販賣スルモノハ賣藥トシテ取扱フヘキハ勿論ノ義ニ有之候條爲念申添候

●賣藥部外品ノ免許手數料等ニ關スル件

（明治四十三年五月五日　勅令第二百十九號）

第一條　道府縣ハ左ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得但シ東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一　賣藥部外品（賣藥稅法第十九條ノ賣藥類似品ヲ含ム）ニ關スル各種ノ免許手數料竝同免許鑑札名義書換及再渡手數料

一　鍼術灸術按摩術「マツサージ」術免許試驗手數料、同免許手數料及同免許鑑札再渡手數料

一　看護婦免許試驗手數料、同免許手數料及同免狀再渡手數料

一　輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手數料及同檢査證明手數料

一　重要物產檢査手數料及同檢査證明手數料

第二條　檢査ヲ行フ重要物産ノ種類竝前條ノ手數料額及手數料ノ免除ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥部外品免許手數料額及手數料免除方

（明治四十三年五月十三日内務省令第十九號）

第一條　明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依リ道府縣ニ於テ徴收スル手數料ハ左記金額ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一賣藥部外品（賣藥税法第十九條ノ賣藥類似品ヲ含ム以下倣之）免許手數料　一方ニ付金貳拾錢

一賣藥部外品免許鑑札名義書換及再渡手數料　一回ニ付金拾錢

一賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手數料　一方ニ付金拾錢

一賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手數料　一回ニ付金拾錢

一鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術免許試驗手數料　各金壹圓

一鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術免許手數料　各金五拾錢

一鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術免許鑑札再渡手數料　各金貳拾錢

一看護婦免許試驗手數料　金壹圓

一看護婦免許手數料　金五拾錢

一看護婦免狀再渡手數料　金貳拾錢

一輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手數料　一回ニ付金壹圓

一輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査證明手數料　證明書一枚ニ付金五拾錢

第二條　道府縣ハ按摩術及「マツサージ」術ニ關シ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムルモノニ對シ前條ノ手數料ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥規則外藥劑販賣規則

（明治十九年七月二日布達第十二號）

沿革　明治二四年四月縣令第三〇號、一五年六月同第五五號改正

第一條　賣藥規則外藥劑トハ鼠、蠅、蚊、蚤、虱等ノ動物ヲ殺除シ或ハ飲食物ノ腐敗臭氣ヲ防止スル等人畜治病ノ目的ニ非ラサルモノヲ言フ

第二條　前條ノ藥劑ヲ製造販賣セント欲スルモノハ別紙第一號書式ニ據リ製劑相添所轄警察署ヲ經テ願出ヘシ

第三條　藥品分量用法用量能書等ヲ改正セント欲スルモノハ別紙第二號書式ニヨリ製劑相添所轄警察署ヲ經テ願出ヘシ

第四條　前二條ノ藥劑ヲ請賣行商セント欲スルモノハ指令寫相添所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第五條　他府縣ノ許可ニ係ルモノヲ管内ニ於テ請賣行商セント欲スルモノハ免許鑑札又ハ指令ノ寫相添所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　既ニ許可シタル藥劑ト雖健康上障害アルカ若ハ誤用シ易キ恐レアルヲ發見スルトキハ其販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第七條　本則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ照シ拘留又ハ科料ニ處ス

第一號書式　美濃罫紙二通

賣藥規則外藥劑販賣願

一方　名

藥品　分量

製法

用法

用量

功能

右ハ今般調製販賣仕度候ニ付御免許被下度製劑相添此段奉願候也

族籍

何國何郡何町村何番地住或ハ寄留

氏　名　印

戸長

氏　名　印

年　月　日

縣　令　宛

第二號書式　美濃罫紙二通

賣藥規則外藥劑改正願

一方　名

藥品　分量

製品

用法

用量

功能

朱書　一云々（改正ノ廉ヲ詳記スヘシ）

右何年何月御許可相成候處今般朱書之通改正仕度候ニ付免許被下度此段奉願候也

族籍

何國何郡何町村何番地住或ハ寄留

氏　名　印

戸長

氏　名　印

年　月　日

縣　令　宛

第九章　傳染病豫防及檢疫

●傳染病豫防法

（明治三十年四月一日法律第三十六號）

沿革　明治三八年三月法律第五六號、大正一一年四月第三二號改正

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢（疫痢ヲ含ム）、腸「チフス」「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ揭クル十病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條　此ノ法律ハ「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス

「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二　傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條　傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ

第八條　當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第八條ノ二　傳染病患者ハ業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條　傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條　傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條　傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ理葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二　第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第十八條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車電車ノ乘客乘組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車電車中ニ乘込マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一　健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二　市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト

三　祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四　古著、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

五　傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

六　汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ履入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七　清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠圊ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八　一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九　鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二　傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ內務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ

手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條　左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一　豫防委員ニ關スル諸費

二　市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三　豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四　傳染病院、隔離病舍、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五　豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六　第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七　市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八　市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九　第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十　第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條　左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一　第十八條ニ關スル諸費

二　手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三　第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關

スル諸費

四　前各號ノ外此ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條　地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條　第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條　國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二十四條ノ北海道地方費又ハ府縣ノ支出ニ對シ其ノ六分一乃至三分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條　第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十二條　此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　海外諸港並朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船船ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條　明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法施行規則

（大正一五年六月内務省令第一六號、昭和二年一月第二號改正）

沿革　大正十一年九月三十日（内務省令第二十四號）

第一條　地方長官傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ内務大臣ニ報告シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト

認ムル者ニ通知スヘシ

第二條　地方長官ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ掲クル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ヲ施行スルノ必要アリト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ且傳染病豫防法中其ノ適用スヘキ規定及同法ヲ適用スヘキ地域ニ關スル意見ヲ付シ內務大臣ニ報告スヘシ

第三條　傳染病豫防法第三條及第四條ノ屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタル場合ニ於テ其ノ患者又ハ死體ニ關シ既ニ傳染病豫防法第三條ノ屆出アリタルコトヲ知リタルトキハ同一事項ニ付更ニ同條ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セス其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第五條　警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第三條ノ屆出ヲ受ケ又ハ傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ互ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官署長ハ地方長官ニ報告スヘシ

警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第四條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ互ニ通知シ且直ニ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムヘシ

第二章　疑似症及病原體保有者

第六條　地方長官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ傳染病ニ對シ適用セラルル傳染病豫防法ノ規定ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　地方長官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項及前條ニ依リ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ其ノ適用ヲ止メタルトキ亦同シ

第八條　傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ハ地方長官ニ對シ其ノ病原體ノ有無ニ關シ檢査ヲ請求スルコトヲ得

第九條　「コレラ」、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セサル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ屎、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ屎尿、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第十條　傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過セサル者及地方長官ニ於テ特別ノ必要アリト認ムル者ヲ除クノ外「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シテハ傳染病豫防法第七條第八條第九條及第十八條ヲ適用セス但シ同法第九條中死體ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

一　赤痢　十四日

二　腸「チフス」、「パラチフス」　二十一日

三　「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎　七日

第十一條　赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　便所ハ成ルヘク之ヲ專用トシ上圍ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト

二　便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ウルコト

三　便器ハ使用ノ都度之ヲ消毒スルコト

四　屎尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　食器、手拭、衣類、寢具、涎掛、玩具等ハ之ヲ專用トシ衣類、寢具ハ時々日光ニ曝スコト

二　鼻汁、唾痰ノ附著シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

三　劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ立入ラサルコト

病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲシテ前二項ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

第十二條　「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サムトスルトキハ病原體保有者又ハ其ノ保護者

ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ届出ヲ受ケタル吏員ハ病原體保有者ノ移轉スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第十三條　第八條、第十一條第三項及前條ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戸主ノ後見人

二　教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第三章　清潔方法及消毒方法ノ施行

第十四條　市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ家ニ付清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第十五條　傳染病豫防法第十一條第一項ノ消毒方法及同法第十九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命シタル傳染病豫防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ

第十六條　傳染病豫防法第二十六條第一項ニ依ル清潔方法及消毒方法ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第四章　清潔方法

第十七條　傳染病患者又ハ死者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、塵所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸浚ヲ爲シ且蝿ノ驅除及蝿ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

二　痘瘡、猩紅熱、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ衣類、寢具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト

三　發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト

四　「ペスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト

五　室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ

第十八條　前條以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト

二　室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

三　疊、敷物等ヲ日光ニ曝スコト

四　床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤著シキモノハ乾燥セル土砂ノ類ヲ撒布スルコト

五　汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト

六　前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準シ處置スルコト

第十九條　清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ濫ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ燒製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚渫スヘシ

第二十條　清潔方法ノ施行ニ因リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ燒却スヘシ

第五章　消毒方法

第二十一條　消毒方法ハ左ノ四種トス

一　燒却

二　蒸汽消毒

三　煮沸消毒

四　藥物消毒

第二十二條　蒸汽消毒ニハ流通蒸汽ヲ用ヰ成ルヘク消毒器內ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

蒸汽消毒ヲ施行セムトスルトキハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　消毒ニ因リ褪色ノ虞アルモノハ蒸氣消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アルモノハ他物ト混シ蒸汽消毒ヲ行ハサルコト

二　衣類ハ嫌メ袖又ハ衣囊ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

第二十三條　煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分以上煮沸スヘシ

煮沸消毒ノ施行ニ關シテハ前條第二項第一號ヲ準用ス

第二十四條　藥物消毒ニ用ウヘキ藥品竝其ノ製法及用法左ノ如シ

一　石炭酸水　防疫用石炭酸三　分水九十七分

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ

石炭酸水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

二　「クレゾール」水　「クレゾール」石鹼液三分水九十七分

「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼液ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

三　昇汞水　昇汞一分、普通食鹽一分、水千分

昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠（一錠中昇汞〇、五「グラム」ヲ含ム）ヲ一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ

昇汞水ハ金屬製ニ非サル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用ヰサルモノハ一スカレツト、一フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス

四　燒製石灰　少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノ

燒製石灰末　燒製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

燒製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ燒製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ

石灰乳　燒製石灰二　分水八分

石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ燒製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ

石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スヘシ

燒製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限リ倍數ノ普通石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

五　「クロール」石灰水　「クロール」石灰五分水九十五分

「クロール」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル

六　「フオルマリン」水　フオルマリン一　分水三十四分

「フオルマリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フオルマリン」ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

七　「フオルムアルデヒード」

「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ「フオルムアルデヒード」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　消毒劑內又ハ室內ノ容積百立方尺ニ付「フオルマリン」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フオルムアルデヒード」瓦斯十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

二　物件ノ內部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノニハ眞空裝置ニ依ルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
眞空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ
三　氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函內又ハ土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戶扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室內ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

內務大臣ノ指定シタル藥品ニシテ傳染病研究所ノ檢定ニ合格シタルモノ又ハ之ヲ原料トシテ傳染病研究所ノ指示スル製法ニ從ヒ調製シタル藥品ハ傳染病研究所ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ前項各號ノ藥品ニ代用スルコトヲ得

第二十五條　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　屎尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
二　死體
三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ飲食殘渣等
六　病室ノ疊、敷物等
七　便所、便池、手洗鉢等
八　塵所、塵所器具、井戸、水槽等
九　芥溜、下水溝等

痘瘡及猩紅熱ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
二　死體
三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
六　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
二　死體
三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
五　病室ノ疊、敷物等

「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
二　患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
三　看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等
四　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
五　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　血液、鼻汁、唾痰、膿汁及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
二　死體
三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
六　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
七　鼠ノ棲息、交通スル場所

第二十六條　消毒方法ノ應用概ネ左ノ如シ

一　患者
　患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス
二　死體
　死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺內ニ普通石灰ヲ塡ツヘシ
三　屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
　屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
　昇汞水及「フオルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セス
四　病毒ニ接觸シタル者
　看護人、患家ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
　手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ使用スヘシ
五　衣類、寢具、敷物、布片等
　蒸氣消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
　絹布、毛織物、綿、綿入蒲團、羽蒲團等ハ成ルヘク蒸汽消毒ヲ行ヒ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
六　患者、死體、病毒汚染物件ノ運搬器具
　患者、死體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ
七　圖書、書類等
　「フオルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
八　硝子器、陶器、磁器、鑛製品、竹木製品等
　石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フオルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノニ付テハ蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ
　飲食器具、玩具、金屬製品等ノ消毒ニハ昇汞水ヲ使用スヘカラス
九　革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、「セルロイド」製品、護謨附品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、鼈甲、角等
　石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
十　室內各部
　石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スルコトヲ得

十一　便所、芥溜、溝渠等

便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ充分攪拌スヘシ但シ屎尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非サレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス

芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ、溝渠ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ

煆製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス

十二　井戸、水槽、汚水等

井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煆製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五百分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

昇汞水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

十三　船舶、汽車、電車等

船室又ハ車室內部ノ消毒ハ第十號ニ準スヘシ

船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ汲出スヘシ

十四　動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ

第二十七條　衣類、寢具、器具、數物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ

第六章　患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷、隔離

第二十八條　市町村長及豫防委員ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキ亦同シ

第二十九條　警察官吏及檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ニ限リ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一　患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト

二　前號ノ外傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄交通ヲ遮斷スルコト

三　前二號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ニ付テハ五日以內、發疹「チフス」ニ付テハ十四日以內、「ペスト」ニ付テハ十日以內隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

四　交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發生シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ更ニ本條ニ依リ處置スルコト

市町村長及豫防委員ハ警察官吏及檢疫委員ノ指示ヲ承ケ前項ノ交通遮斷又ハ隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

傳染病豫防法第十九條第二號ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル交通遮斷又ハ隔離ハ前二項ニ準シ之ヲ行フヘシ

第三十條　市町村立ノ傳染病院、隔離病舍又ハ隔離所ニ於テハ食費、藥價ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條　傳染病豫防法第八條ノ二第二項ノ業務ノ範圍左ノ如シ

一　菓子、鮨、煮染、豆腐、氷雪、肉、乳、魚介、蔬菜、果實其ノ他直ニ飲食ニ供シ得ヘキ物ノ製造、販賣、調製又ハ取扱ニ直接從事スル業務

二　旅店、下宿屋、寄宿舍、合宿所其ノ他多衆ノ宿泊スル場所及貸座敷、料理店、飲食店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ

目的トスル場所ニ於ケル從業者、看護婦、鍼術灸術按摩術營業者、藝妓、娼妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務

三　劇場、寄席、活動寫眞館興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ於テ直接多衆ニ接スル業務

地方長官ハ特別ノ事由ニ因リ傳染病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限リ條件ヲ附シ赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ノ患者ニ對シ前項第二號及第三號ノ業務、猩紅熱、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ノ患者ニ對シ前項第一號ノ業務ニ從事スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十二條　左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ

一　傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サムトスルトキ

二　傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌セムトスルトキ

三　傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間內ニ埋葬セムトスルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ其ノ認可ヲ爲シタル吏員ハ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第三十三條　傳染病豫防法第十三條ノ死體及家屋其ノ他ニ對シテハ市町村長又ハ豫防委員ニ於テ消毒其ノ他相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第七章　傳染病豫防吏員

第三十四條　警察官吏、衛生官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日沒前ニ於テスヘシ其ノ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ示スヘキ證票左ノ如シ

凡三寸

表面	裏面
傳染病豫防吏員之證	官廳公署　印

木札又ハ厚紙
凡一寸

第三十五條　檢疫委員ハ廳府縣ノ官吏、醫師、藥劑師等ニ就キ地方長官之ヲ命ス

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　檢疫委員ノ職務章程ハ地方長官之ヲ定ム

第三十七條　地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十八條　第十四條、第十五條、第十六條、第二十八條及第三十三條ノ場合ニ於テハ警察官吏、衛生官吏及檢疫委員ハ市町村長及豫防委員ニ指示シ其ノ事務ニ從事スヘシ

第八章　船舶、汽車、電車ノ檢疫

第三十九條　地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢疫スヘキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ其ノ廢止ノ場合亦同シ

地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ

第二項ノ通知ヲ受ケタル地方長官ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第四十條　檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非サレハ他ニ進航シ、陸地又ハ他船ト交通シ、船客、乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶ハ前檣其ノ他見易キ場所ニ黃旗ヲ揭ケ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ下スコトヲ得ス

第四十二條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當ノ場所ニ停留シ船客、乘組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留スルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之ヲ準用ス

檢疫係員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乘組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第四十三條　停留中ノ船客、乘組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

停留ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第四十四條　船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村立ノ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十五條　第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢疫係員ハ船舶ヲシテ他ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得

第四十六條　檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ乘込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理者ニ左ノ證票ヲ示スヘシ

木札又ハ厚紙

表　凡一寸　面　凡三寸

檢疫係員之證

裏面

廳府縣　印

第四十七條　船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スヘキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條　第四十二條、第四十三條第一項、第四十四條、第四十五條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

第九章　手當金及補助

第四十九條　地方長官傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セムトスルトキハ建物及土地ノ所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ市町村長ニ通知スヘシ

第五十條　市町村長地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市町村番地及手當金額ヲ所有者及建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知シ且一月以上ノ期間公告スヘシ

前項ニ公告期間ヲ經過シタルトキハ市町村長ハ速ニ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ但シ其ノ期間內內ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五十一條　地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ交付スヘキ補

助ニ關スル規則ヲ定ムヘシ

一　傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

二　傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ、指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應シ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ス

三　支出ニ伴フ收入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得

四　補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ニ換算スヘシ

五　市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

第十章　雜則

第五十二條　傳染病豫防法第二條第十八條第十九條第十九條ノ二及本令第一條第二條第八條第十條第三十一條第三十九條ノ地方長官ノ職務竝傳染病豫防法及本令ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ但シ傳染病豫防法第十八條第三項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ地方長官ハ東京府ニ於テハ警視總監及東京府知事トス

第五十三條　本令中町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村又ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第五十四條　傳染病豫防法又ハ本令ノ規定ニシテ其ノ準用又ハ適用シ得ヘキモノヲ除クノ外北海道及沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

町村制ヲ施行セサル地ニ關シ傳染病豫防法中町村ニ關スル規定ヲ準用シ難キ場合及本令ノ規定ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

明治三十年五月内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則、明治三十年五月拓殖務省令第五號、傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程、明治三十年五月内務省令第十三號、明治三十年五月拓殖務省令第六號、檢疫委員設置規則、明治三十年七月内務省令第十八號、汽車檢疫規則、船舶檢疫規則、明治三十年八月拓殖務省令第九號、明治三十一年三月内務省令第四號及傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年十月一日ヨリ施行）

（明治三十一年四月六日岐阜縣令第三十八號）

●傳染病豫防法施行細則

沿革　明治三八年六月縣令第三二號、大正一五年六月第五六號改正

第一條　傳染病豫防法第三條ニ依リ醫師ニ於テ傳染病患者又ハ死者ノ屆出ヲナス場合ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テスヘシ

一　患者又ハ死者ノ住所、氏名、身分、職業、年齢

二　病名

三　傳染ノ關係、誘因

四　發病及診斷又ハ死體檢案ノ年月日時

痘瘡ニ在テハ種痘初再三種竝天然痘ノ濟否及最近種痘ノ年月、感否ノ區別ヲモ記載スヘシ

第二條　轉歸ノ屆書ニハ其ノ住所、氏名、病名、治癒、死亡ノ區別竝診斷ノ年月日時ヲ記載シ診斷後十二時間以内ニ差出

スヘシ

第三條　第一條第二條ノ届出ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ書面ヲ以テ十二時間以内ニ届出其ノ届書ニハ口頭届濟ノ旨ヲ記載スヘシ

第四條　傳染病豫防法第四條ノ届出ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

第五條　醫師ニシテ傳染病豫防法第一條ニ記載セル八病ノ外ニ傳染病ノ流行アルコトヲ發見シタルトキハ所轄(郡)市役所又ハ警察官署ニ届出ツヘシ

第六條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テ發病ノ誘因其ノ他傳染ノ關係等調査ニ就キ當該吏員ノ尋問ヲ受ケタルトキハ詳細ノ陳述ヲナスヘシ

第七條　傳染病患者ト飲食起臥ヲ共ニシ又ハ同一ノ厠ニ上リ若ハ患者、死者及其ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シ若ハ其ノ看護、運搬等ヲナシタル者ハ當該吏員ノ指示ニヨリ消毒方法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ現場ヲ去ルコトヲ得ス但當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ消毒後ト雖モ虎列刺、赤痢ニアリテハ滿五日間、發診窒扶斯ニアリテハ滿七日間「ペスト」ニアリテハ滿十日間指定ノ場所ニ隔離セシムルコトアルヘシ、

第八條　警察署長(又ハ分署長)ハ其ノ所轄内ニ於テ傳染病毒河川、池沼等ニ混入シ豫防上必要ト認メタルトキハ一時區域ヲ指定シ左ノ所爲ヲ停止スルコトアルヘシ

一　水ヲ汲取リ及之ヲ飲用スルコト

二　漁撈、採藻及游泳スルコト

三　衣服又ハ物品ヲ洗濯スルコト

第九條　傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通遮斷ニ付セラレタル家屋若ハ部落又ハ隔離セラレタル場所ヲ出入セムトスルトキ又ハ物品ヲ區域外ニ移轉セムトスルトキハ其ノ事由及日時場所ヲ具シ警察官吏又ハ檢疫委員ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十條　交通遮斷中ノ市街、村落又ハ家宅内ニ入ラントスルモノハ其ノ事由ヲ警察官吏又ハ檢疫委員ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十一條　傳染病ノ死體ヲ土葬セントスルトキハ火葬シ能ハサル事由及其ノ墓地名ヲ記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ左ノ方法ニ從フヘシ

一　棺底、棺蓋其ノ他板ノ接合部ニハ松脂又ハ鬢付油ノ類ヲ塗付シ液體ノ漏出ヲ防クコト

二　横穴ノ深サハ八尺以上ヲ穿チ棺ノ上下及四側ニ一尺以上ノ生石灰末又ハ石灰末ヲ塡充スルコト

第十二條　傳染病豫防法第十二條第二項但書ニ依リ傳染病ノ死體ヲ改葬セントスルトキハ墓地及埋葬取締規則竝細則ノ規定ニ從ヒ尚改葬ノ月日時ヲ記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十三條　市町村ニ於テハ傳染病豫防救治ノ爲メ市町村醫ヲ設置スヘシ但町村ノ狀況ニ依リ當時醫師ヲ置ク能ハサルトキハ豫メ醫師ヲ指定シ置キ臨時傳染病發生ニ際シ差支ナカラシムヘシ

第十四條　市町村ハ傳染病發生ニ際シ豫防上必要ナル看護人、消毒夫、運搬夫其ノ他雜役ニ供スル人夫ヲ雇入ルヘシ

第十五條　市町村ハ警察官吏又ハ檢疫委員ヨリ臨時醫師人夫等ノ派遣ヲ求メラレタルトキハ速ニ之レニ應スヘシ

第十六條　市町村ニ於テ傳染病豫防法第十六條ニ依リ設備スヘキ豫防上必要ナル器具、藥品等左ノ如シ

一　蒸汽消毒器械　一組以上

一　煮沸消毒用釜　一個以上

一　患者運搬器　市ハ三個以上　町村ハ二個以上

一　汚物及未消毒物運搬器　同

一　糞便煮沸器　同　市ハ十個以上　町村ハ五個以上

一　喀痰盤

一　便器

一如露　同上
一撒布器　同上
一提桶　柄杓共　同上
一擔桶　一荷以上
一石炭酸溶解用器　市ハ三個以上　町村ハ二個以上
一昇汞溶解用器　金屬ヲ除ク　同上
一石炭酸　市ハ十磅以上　町村ハ五磅以上
一昇汞　市ハ二磅以上　町村ハ一磅以上
一鹽酸　市ハ三磅以上　町村ハ二磅以上
一「フロキシン」　一「オンス」以上
一生石灰　市ハ五十貫目以上　町村ハ三十貫目以上
一普通石灰　市ハ百貫目以上　町村ハ五十貫目以上
一石灰乳調製用桶　市ハ三個以上　町村ハ二個以上
一石炭酸水容器　市ハ五個以上　町村ハ三個以上
一昇汞水容器　金屬ヲ除ク　同上
以上ノ外清潔方法、消毒方法ニ必要ナル器具

第十七條　市町村ハ毎年春季一回所轄警察署長ノ指定シタル期日ニ於テ其ノ市町村内ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ前項ノ外臨時ニ施行セシムルコトアルヘシ

第十八條　本則第六條ノ尋問ニ對シ虚僞ノ陳述ヲナシタル者第八條ノ停止ヲ犯シタル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●傳染病豫防法施行手續

（明治三十一年四月六日　岐阜縣訓令第四十四號）

沿革　明治三八年六月訓令第六四號、四一年六月第三九號、四五年六月訓令甲第二九號改正

市役所　警察署　町村役場

第一條　市長、警家署長ハ其ノ所轄内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ速ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ隣接市役所及警察署ニ通報スヘシ

第二條　傳染病豫防法施行規則第二條ノ場合ニ於テ市町村長又ハ豫防委員ヨリ警察官吏ニ通報スルトキハ患者ノ住所、氏名、身分、職業、生年月、診斷ノ月日時、治療所、死體檢案ノトキハ其ノ鑑定ノ月日時、轉歸ノトキハ治癒、死亡ノ區別、其ノ日時及醫師ノ氏名ヲ記シタル書面ヲ以テ直ニ所轄警察署長ニ通報スヘシ但土地ノ便宜ニヨリ巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ通報スルモ妨ナシ

同則第三條ノ場合ニ於テ警察官吏又ハ檢疫委員ヨリ市町村長又ハ豫防委員ニ通報スルトキハ亦前項ニ準ス但醫師ノ届書ヲ受理シタルトキハ受領月日時ヲ記シ認印ノ上市町村長又ハ豫防委員ニ送付シ通報ニ代フヘシ

第三條　同則第二條但書ノ場合ニ於テ町村長ヨリ報告スルハ別紙第一號書式ニ據ルヘシ

第四條　同則第三條但書ノ場合ニ於テ警察署長ヨリ縣廳ニ報告スルハ第二號書式ニ據ルヘシ其ノ市町村長又ハ豫防委員ヨリ通報ヲ受ケタルトキ亦同シ

虎列刺「ペスト」ニ係ルトキハ先ツ患者ノ住所、氏名、年齢、發病日時等ヲ電信又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ急報スヘシ

第五條　第三條第四條ノ報告ヲナシタル後治療所ヲ變更スル等異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度速ニ報告スヘシ

第六條　市役所、警察署、町村役場ニハ別紙第三號樣式ノ傳染病患者名簿ヲ備置キ病名毎ニ口別ケヲナシ整理スヘシ

第七條　警察署長ハ署詰巡査ノ中專ラ傳染病豫防消毒ノ事務ニ從事スヘキモノ一名乃至三名ヲ指定シ其氏名ヲ報告シ併セテ市長ニ通報スヘシ

第八條　豫防消毒上他ノ警察署ノ所轄ニ牽聯スルモノハ其ノ署ニ急報スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル警察署ハ即時市役所又ハ町村役場ニ通報シ同時ニ現場ニ出張シ市町村吏員又ハ豫防委員ヲ指示シテ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第九條　左ノ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ハ市町村醫又ハ最寄開業醫ヲシテ診察又ハ檢案ヲナサシムヘシ

一　途上發病者ニシテ傳染病ノ疑アルトキ

二　醫師ノ診察ヲ受ケサル患者又ハ主治醫ナキ死亡者ニシテ傳染病ノ疑アルトキ

三　遮斷又ハ隔離中檢診ノ必要アルトキ

第十條　警察署ハ前條ニ該當シ醫師ノ診察又ハ檢案ヲ要スルモノヲ認メタルトキ市役所、町村役場ニ通知スルノ暇ナキ場合其ノ他必要ト思料シタルトキハ便宜醫師ヲ指定シテ診察又ハ檢案ヲナサシムルコトヲ得

第十一條　左ノ場合ニ於テハ警察署長市長ト協議シ其ノ事由並施行ノ方法ヲ具シ稟申スヘシ

一　傳染病豫防法第十九條各號ノ全部又ハ一部施行ノ必要ヲ認メタルトキ

二　同法第二十七條ニ依リ地方長官ノ施爲ヲ必要ト認メタルトキ

三　同法第二條ノ疑似症ニ對シ法律ノ全部又ハ一部施行ノ必要ヲ認メタルトキ

傳染病豫防法第十九條第二ノ場合ニ於テハ遮斷又ハ隔離ヲ要スル區域、人口、戸數、竝生業ノ實況、患者及患家數交通ノ關係等ヲ詳具シ圖面ヲ添付スヘシ

第十二條　傳染病豫防法施行規則第九條ノ證票ハ豫メ之ヲ調製シ置キ吏員出張ノ際携帶セシムヘシ

第十三條　傳染病豫防法施行細則第十六條ニヨリ市町村ニ於テ設備シタル器具、藥品ハ警察署長ニ於テ時々點檢シ缺損アルトキハ速ニ補充セシムヘシ

第十四條　傳染病豫防法施行細則第十七條ニ依リ市長警察署長ハ協議ノ上毎年三月乃至五月ノ間ニ於テ市町村清潔方法施行ノ期日ヲ指定シ其ノ月日市町村名ヲ報告スヘシ

警察署ニ於テハ其ノ施行ヲ指示監督シ結了シタルトキハ縣市長ヨリ其ノ狀況ヲ記載シ十日以內ニ報告スヘシ

第十五條　市町村長ハ市町村醫ノ氏名ヲ縣廳ニ届出併セテ所轄警察署ニ通報スヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ

第十六條　傳染病患者ハ傳染病院又ハ隔離病舍若ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシムヘシ但豫防消毒ノ措置充分ナリト認メタルモノハ此ノ限ニアラス

第十七條　前條ニ該當スヘキ家屋ナキトキハ市町村長ハ假ニ患者ヲ收容スヘキ屋舍ヲ定メ患者ヲ收容スヘシ

其ノ收容ニ充ツヘキ屋舍ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ臨檢ヲ受ケ其ノ指示ニ從フヘシ

第十八條　移送スヘキ患者ニハ其ノ病狀ニヨリ飲料ニ供スヘキ湯水又ハ凍氷若ハ嗽盤、便器其ノ他必要ナル藥品ヲ準備セシムヘシ

第十九條　患者ヲ移送シ又ハ死體、排泄物其ノ他病毒汚染ノ物品ヲ運搬スルトキハ途上嚴重ノ取締ヲナスヘシ傳染病豫防法施行規則第六條第一號第二號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病毒汚染ノ虞アル者ヲ隔離スルトキ亦同シ

前項ニ依リ移送運搬又ハ隔離スヘキ場所所轄外ニ係ルトキハ其ノ地所轄ノ市役所、町村役場、警察署ニ通報スヘシ

第二十條　患者ノ自宅治療ヲ許シタル家又ハ死者アル家ニ對シテハ左ノ事項ヲ指示シ遵守セシムヘシ

一　病室ヲ一定シ醫師、看護人ノ外交通スヘカラサルコト

二　當該吏員ノ許可ナクシテ患者ヲ他室ニ移サシメサルコト

三　治療、看護ニ必要ナル物品ノ外ハ病室內ニ置クヘカラサルコト

四　病室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスヘキコト

五　病室内ニテハ患者ノ外飲食スヘカラサルコト

六　看護人ハ常ニ一定シ置キ他ノ者ヲシテ猥リニ交代セシメサルコト

七　看護人患者ニ接シタルトキ又ハ排泄物及病毒汚染ノ物品ヲ取扱ヒタルトキハ其ノ都度手、足、衣服、履物等觸接ノ部分ニ規定ノ消毒ヲナスヘキコト

八　看護人ハ時々入浴換衣シ身體、衣服ヲ清潔ニ保ツヘキコト

九　患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ覆蓋アル容器ニ入レ置キ消毒ノ上無害ノ場所ニ投棄スヘキコト

十　患者ト看護人其ノ他健康者トハ嚴ニ其ノ食膳、器皿ヲ區別シ相接近セシメサルコト

十一　飲食物、便器、嗽盤等ニハ覆蓋ヲ備フルコト

十二　患者使用ノ飲食器具ハ使用ノ都度コレヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘキコト

十三　患者ノ身體、死體、排泄物及病毒汚染ノ物品ニハ蚊繩ノ集マラサル樣注意スヘキコト

十四　病室内ヲ掃除シタル塵埃ハ一定ノ器物ニ採リ時々燒却スヘキコト

十五　患者用ノ便器、嗽盤ハ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ且糞便及唾液ハ其ノ都度消毒ヲナスヘキコト

十六　患者及看護人ハ各其ノ便所ヲ一定シ他人ヲシテ上厠セシメサルコト

十七　患者ノ入浴シタル湯水ハ消毒ノ上無害ノ場所ニ投棄スヘキコト

十八　其ノ他豫防上必要ト認メタル事項

第二十一條　傳染病豫防法施行規則第六條ニヨリ交通遮斷又ハ隔離ヲ施行シタルトキハ警察署市役所又ハ町村役場ニ通知スヘシ

第二十二條　交通遮斷又ハ隔離ヲ施行シタルトキ警察署ニ於テ必要ト認メタル場合ハ巡査ヲ付シ取締ヲナサシムヘシ但巡査ヲ付セサルモ豫防上差支ナシト認メタルトキハ巡行巡査ヲシテ時々取締ヲナサシムヘシ

第二十三條　交通遮斷又ハ隔離ヲ施行シタルトキ其ノ家屋ニシテ牆壁、門戸等ノ境域判然セサルモノハ柵欄又ハ繩張ノ類ヲ以テ境界ヲ設ケ且其ノ家屋ノ門、壁又ハ市町村ノ境界等必要ノ箇所ニ其ノ遮斷ノ月日、期間ヲ榜示スヘシ

第二十四條　交通遮斷又ハ隔離ヲ施行スヘキ家屋廣大ナルカ又ハ棟數夥多ニシテ患者發生ノ場所ニ關係ナク病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ハ分割遮斷ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　警察官吏、檢疫委員ニ於テ傳染病豫防法施行細則第九條、第十條ノ願出ヲ受ケタルトキハ左項ニ依リ取扱フヘシ

一　遮斷區域中ノ物品ヲ區域外ニ搬出セントスルトキハ相當ノ消毒方法ヲ施サシムヘシ

二　家屋又ハ區域外ヘ出ントスルモノハ事情止ムヲ得サルモノニ限リ醫師ヲシテ檢診セシメ異狀ナキモノハ消毒ノ上許可ヲ與フヘシ

三　遮斷區域内ニ所用アルモノ又ハ遮斷中ノ者ニ面會センコトヲ願出タル者アルトキハ事情止ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ許可シ其ノ退去ノ際ハ消毒方法ヲ行ハシムヘシ

第二十六條　市役所、町村役場ハ交通遮斷又ハ隔離ニ付シタル家ニ對シ飲食物其ノ他日用品及ヒ雜役ニ供スヘキ人夫等ニ差支サル樣相當ノ手當ヲナスヘシ

第二十七條　傳染病豫防法第十九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離シタルトキハ前條ノ外其ノ遮斷區域内必要ノ箇所ニ一定ノ看守人ヲ付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ要シタル費用竝其ノ區域内ニ於テコレカ爲メ自活シ能ハサルモノノ生活費ハ遮斷又ハ隔離ヲ解キタル後明細書ヲ作リ市町村長ヨリ縣廳ニ請求スヘシ但町村長ヨリ差出スヘキ請求書ハ郡長ノ證明ヲ受クヘシ

第二十八條　交通遮斷又ハ隔離ニ付シタルモノ官衙、公署ニ奉職スル者ナルトキハ警察署ハ速ニ該官衙公署ニ通報スヘシ

第二十九條　交通遮斷又ハ隔離ニ付シタル家屋ハ日々其ノ窓戸ヲ開放シテ日光空氣ヲ流通セシメ且健康者ハ時々醫師ヲシテ診察ヲナサシムヘシ

第三十條　交通遮斷ノ期間滿了タルトキハ醫師ヲシテ健康者ノ診察ヲナサシムヘシ

第三十一條　患者又ハ死體移轉ノ届出ヲ請ケタルトキハ其ノ事由及移轉先ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノハ認可ヲ與フヘシ

第三十二條　傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌センコトヲ届出タルモノアルトキハ其ノ物件ノ種類員數等ヲ調査シ差支ナシト認メタルモノハ認可ヲ與フヘシ

第三十三條　二十四時間内ニ死體ノ埋葬ヲ届出タルトキハ醫師ノ檢案ヲ調査シ不都合ナシト認メタルモノハ認可ヲ與フヘシ

第三十四條　警察署ニ於テ前三條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ直ニ市役所、町村役場又ハ豫防委員ニ通知シ第三十一條ノ場合ニ於テハ尙其ノ移轉地所轄警察署ニ通報スヘシ

前項ニ依リ通報ヲ受ケタル警察署ニ於テハ第八條第二項ニ依リ取扱フヘシ

同一ノ警察署ノ所轄内ニ於テ他ノ市町村ヘ移轉スルモノナルトキハ其ノ移轉地所轄市役所又ハ町村役場ヘ通報スヘシ

第三十五條　市町村長又ハ豫防委員ニ於テ第三十一條第三十二條第三十三條ノ届出ヲ受ケ認可ヲ與ヘントスルトキハ警察官吏ニ協議シ其ノ同意ヲ得ヘシ

第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ移轉地所轄市役所又ハ町村役場ニ通報スヘシ其ノ通報ヲ受ケタル市役所又ハ町村役場ハ直ニ所轄警察署ニ通報スヘシ

第三十六條　死體ヲ運搬スルトキハ液體滲漏ノ虞ナキ棺ヲ用ヒ尙虎列刺、腸窒扶斯赤痢ニ係ルモノハ其ノ鼻口竝肛門ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ浸シタル布片又ハ繞絮等ヲ當テシムヘシ

第三十七條　傳染病ノ死體ニハ沐浴セシムヘカラス

第三十八條　傳染病豫防法第十三條ノ場合ニ於テ其ノ既ニ歛棺シ又ハ未タ歛棺セサル死體ニ對シテハ醫師ヲシテ檢案セシメ傳染病患者ナリシトキハ相當ノ處置ヲナスヘシ

第三十九條　傳染病豫防法施行細則第十二條ニ依リ改葬ノ許可ヲ與ヘタルトキハ更ニ相當ノ消毒方法ヲ行ハシメ且改葬スヘキ墓地所轄外ナルトキハ其ノ地所轄警察署ニ通報スヘシ

第四十條　此ノ手續ニ依リ許可又ハ認可ヲ與ヘタルトキハ適宜其ノ證ヲ付與スヘシ

第四十一條　學校、劇場、寄席其他興行場、工場又ハ寄屋、料理店、貸座敷等多人數集合ノ場所ニ患者發生シタルトキハ特ニ注意ヲ加ヘ檢疫豫防手續等迅速ニ施行シ且患者ニ觸接セス又ハ病室等ニ出入セサルモノニシテ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルモノハ速ニ立退カシムヘシ

第四十二條　汽車又ハ船舶、路上ニ於テ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ下車又ハ繫留若ハ患者、死者現在ノ地ニ於テ豫防消毒方法ヲ施行スヘシ但汽車船舶檢疫施行ノ地ニ在テハ此ノ限ニアラス

第四十三條　患者、死者又ハ其ノ排泄物若ハ病毒汚染ノ虞アル物品ヲ乘載シタル船車、舁輿、釣臺等ノ消毒清潔方法消毒方法第十一條第四乃至第九ノ例ニ依ルヘシ

第四十四條　衣服、臥具其他必要品ノ消毒ニ際シ代用品ヲ要スル場合ハ差支ナキ樣市役所、町村役場ニ於テ其ノ手當ヲナスヘシ

第四十五條　傳染病豫防法施行細則第八條ノ處分ヲナシタルトキハ警察署長ハ事實ヲ詳具シ直ニ報告スヘシ其ノ處分ヲ解キタルトキ亦同シ

下流沿岸ノ警戒ヲ必要ト認メタルトキハ關係各署ニ通知スヘシ

第四十六條　病毒井水ニ混入シ又ハ使用者中ニ傳染病續發シ病毒含有ノ虞アルトキハ其ノ水量百分ノ二ニ當ル鹽酸又ハ粗製鹽酸ヲ投入シ攪拌ノ後井戸蓋ヲ封鎖シ二十四時間後井戸浚ヲ爲シ尙ホ淨水ヲ以テ井側ノ内外ヲ洗滌シタル後ニアラサレハ使用セシムヘカラス

第四十七條　警察官吏、檢疫委員、市町村吏員及豫防委員ハ常ニ傳染病患者ノ自宅治療ヲナセル家、傳染病豫防法施行規則第六條第三號ニ該當スル者ヲ隔離セシ場所、交通遮斷中ノ家及傳染病院、隔離病舍ヲ巡視シ清潔方法消毒方法施行ノ適否各自豫防撰生ノ法ヲ守ルヤ否ニ注意スヘシ

警察署長ニ於テ必要ト認メタルトキハ便宜ノ地ニ出張所ヲ設ケ巡査ヲ配置シ又ハ傳染病院、隔離病舍、竝健康者ヲ隔離シタル場所ニ詰切ラシムルコトアルヘシ

（第一號）

（何）病發生報告

何町（村）役場

發病月日	醫師届出月日	町村名大字名	病家新舊區別	治療所職業	戸主續柄	患者姓名	年齢

備考　病家新舊區別ノ欄ニハ其年初テ發シタル患者ハ（新家）ト書シ二名以上ニ及フモノハ舊家ト書シ若シ二名以上同時ニ發シタルトキハ初筆ノモノニ（新家）ト書シ餘ハ（舊家）ト書スヘシ

治療所區別ノ欄ハ傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシメタルトキハ（入院）ト書シ自宅治療ノモノハ（自宅）ト書スヘシ

（何）病轉歸報告

何郡（市）役所、町（村）役場

發病月日	轉歸月日	治療死亡ノ區別	町村名大字名	戸主續柄	患者姓名	年齢

備考　發病月日ハ朱書スヘシ

轉歸月日治療死亡區別ノ欄ハ死亡ニ限リ朱書スヘシ

（第二號）

（甲號）

第　號

明治四十年　月　日

病發生報告

警察署

（一）氏名	
（二）生年月	年　月　生
（三）男女別	
（四）本籍	郡市　村町大字　番
（五）住所	郡市　村町大字　番
（六）發病地	郡市　村町大字　番
（七）發病年月日	明治四十年　月　日
（八）醫師届出年月日	明治四十年　月　日
（九）治療所	
（十）職業	患者職業　世帯主職業
（十一）轉歸年月日	明治四十年　月　日

(三)	治癒死亡別		
(五)	治療期間	自明治四十年月日至明治四十年月日	日間
備考			

切……線……取

（乙號）

第　號

病轉歸報告

明治四十　年　月　日

警察署

(一)	氏名	
(二)	轉歸年月日	明治四十　年　月　日
(三)	治癒死亡別	
(四)	治療期間	自明治四十年月日至明治四十年月日　日間
備考		

記載例

一　氏名欄ニハ戸主氏名續柄患者名ヲ記入スルモノトス

二　患者發生報告ハ甲號(一)ヨリ(十)マテ轉歸ハ乙號ニ記入報告スルモノトス

三　發生、轉歸報告同時ナルトキハ甲號(一)ヨリ(十三)マテヲ記入報告スルモノトス

四　職業ハ患者ト世帶主トヲ必ス區別記入スルモノトス

五　備考欄ニハ新舊患家別、室數、家族員數、傳染關係、豫防施設概況其ノ他防疫上ニ於ケル參考事項

（第三號）

何病患者名簿

醫師屆出月日	發病月日	轉歸月日及區別	傳染ノ關係	發病ノ誘因	主治醫ノ氏名	治療所區別	族籍	職業	病家新舊區別	氏名	年齡

●赤痢病疑似患者ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

（明治三十五年七月四日　岐阜縣令第三十七號）

赤痢病疑似患者ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第三條第五條第七條第八條第九條第十條第二十一條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條ヲ適用ス

●痘瘡疑似症ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

（明治四十一年二月二十日　岐阜縣令第六號）

痘瘡流行ニ付明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第三條ニ依リ該病疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●赤痢病豫防ニ關スル件

（明治三十二年三月二十九日　岐阜縣訓令第三十六號）

郡市役所

赤痢病豫防ノ措置ハ春暖ノ候未タ患者ノ發生セサル時ニ於テ各般ノ準備ヲ整ヘ注意ヲ密ニシ以テ發生ニ際シ周章狼狽ノ動作ナカランコトヲ要ス其ノ初メテ發生スルヤ全力ヲ盡シテ之ヲ局部ニ制壓スルノ策ヲ施シ既ニ流行蔓延スルニ至テハ各般ノ豫防法ヲ勵行スルト同時ニ專ラ意ヲ救治ニ注キ其ノ漸次終熄ニ傾キシ以後ハ更ニ善後ノ策ヲ講セサルヘカラス斯ノ如ク豫防ノ畫策ハ其ノ流行ノ時期ニ應シテ自ラ異ラサルヲ得ス依テ先ツ準備ニ關スル措置トシテ左ノ方針ニ依リ施設シ尙ホ此際郡役所ニ於テハ特ニ郡吏ヲシテ各町村ヲ巡視セシメ消毒藥品、消毒器具ノ整否ヲ點檢シ看護婦及人夫等ヲ豫約シ置カシムル等指導監督ヲ周密ニシ豫防上各般ノ設備ヲ完成セシムヘシ

一町村吏員、豫防委員等ヲ郡市役所又ハ最寄ノ場所ニ召集シ左ノ事項ヲ協議講習及實地演習スル事

一　消毒藥ノ溶解法、使用法竝應用
二　消毒器具ノ使用法竝應用
三　一般消毒方法、清潔方法ノ施行手續
四　患者死者ノ取扱手續
五　隔離病舍ノ取締方法
六　隱蔽患者發見ノ手段
七　其ノ他必要ト思料スル事項

一　豫防委員ニ加フヘキ醫師ヲ豫撰シ置ク事
一　市町村長ハ衛生組合長ニ注意ヲ與フル事
一　隔離病舍ハ掃除シ修理シ何時開クモ差支ナキ樣諸般ノ準備ヲ爲ス事
一　隔離病舍ナキ町村ハ之ニ充用スヘキ家屋ヲ豫定シ置ク事
一　清潔方法ノ維持保續ヲ圖ルヘキ事

●傳染病豫防法施行手續第三十一條第三十五條取扱方ノ件

（明治三十一年十月　指示第一八號）

本年四月本縣訓令第四十四號傳染病豫防法施行手續第三十一條ニ依リ患者又ハ死體移轉ノ屆出ヲ受ケ又ハ同第三十五條ニ依リ市町村長、豫防委員ヨリ協議ヲ受ケタルトキハ其移轉スヘキ事由正當ト認ムヘキモノニ限リ左記各項ヲ調査シ不都合ナシト思料シタルモノハ認可又ハ承諾ヲ與フヘシ但必要ト認メタルトキハ移轉先所轄警察署又ハ分署ニ照會シテ調査ヲ求メ其回答ニ依リ處分スヘシ

一　患者ヲ移轉スルモ病症ニ危險ヲ及ホスノ虞ナキヤ
一　移轉先ノ市町村ニ傳染病院隔離病舍アリテ患者ノ收容ニ差支ナキヤ
一　前項ノ設備ナキモノハ同手續第二十條ノ各項ヲ遵守シ得ヘキ者ナルヤ
一　父母又ハ子女其ノ他親戚ノ引受人アルヤ又ハ患者ヲ看護スヘキ者アルヤ

●傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ關スル件

（明治三十二年十一月十八日　勅令第四百三十四號）

內務大臣ハ傳染病豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ物件ノ種類ヲ限リ輸入ヲ禁止スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●ペスト豫防ノ爲輸入禁止物件

（明治三二年一二月内務省令第五七號、大正四年二月第二號改正）

沿革　明治三二年一二月内務省令第五七號、大正四年二月第二號改正

「ペスト」豫防ノ爲當分ノ内印度、清國諸港、香港及臺灣ヨリ襤褸、古綿、古著類、古紙類、古革皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類ノ輸入ヲ禁止ス但シ特別ノ事由アリテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●ペスト菌取扱取締規則

（明治三十四年十二月二十五日　内務省令第三十九號）

第一條　生活「ペスト」菌又ハ之ニ疑ハシキ細菌ヲ貯藏シ其ノ培養又ハ動物試驗等ヲ行ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　檢査所ノ名稱及位置

二　檢査所建物ノ構造、敷地ノ坪數及圖面

三　所長、主任者及主任代理者ノ氏名、履歷

前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第二條　檢査所ノ開始及廢止ハ五日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

第三條　檢査所ハ他ノ建物ト隔離スヘシ但シ一建物ヲ區畫シテ其ノ一部ニ檢査所ヲ設クルコトヲ得

檢査所ニハ少クモ左ノ三室ヲ設ケ其ノ出入口ノ戸扉ニハ鎖鑰ヲ備フヘシ

一　「ペスト」菌ノ培養及顯微鏡檢査室

二　試驗動物ノ收容及解剖室

三　消毒室

第四條　檢査所各室ノ床及側壁ハ不滲透質ノ材料ニテ造リ洗滌消毒ニ便ニスヘシ

窓、換氣孔、排水孔其ノ他外部ニ開口スル孔隙ハ蚊蠅ノ出入ヲ防クニ足ルヘキ緻密ナル金網ヲ以テ被フヘシ

汚水溜ニハ覆蓋ヲ設ケ其ノ周壁及排水管ハ不滲透質ノ材料ニテ造ルヘシ

第五條　檢査所ニ於テハ左記ノ器具、裝置ヲ設備スヘシ

一　生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ容器

二　試驗動物容器（硝子器若ハ磁器又ハ金屬板ヲ張リタル箱ニシテ金網製ノ蓋ヲ有スルモノ）

三　消毒裝置（燒却爐、蒸氣消毒器、乾熱消毒器、消毒藥甕ノ類）

四　其ノ他「ペスト」菌ノ檢査ニ必要ナル物品

第六條　檢査所主任及其ノ代理者ハ「ペスト」菌ノ培養、「ペスト」菌ノ檢査及試驗動物ノ取扱其ノ他ノ取締ニ關シ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一　主任又ハ其ノ代理者ノ在ラサルトキハ助手使丁ヲ檢査室ニ留マラシムヘカラス

二　檢査室、動物室、消毒室等ニハ猥ニ他人ヲ入ラシムヘカラス

三　何人ト雖モ檢査室、動物室、消毒室ニ入ル際ハ豫防衣ヲ著シ出ルトキハ之ヲ脫シ手足ヲ消毒スヘシ又室内ニ於テハ飲食、喫煙スヘカラス

四　豫防衣ハ一週二回以上消毒ヲ行ヒ之ヲ洗濯スヘシ若病毒ニ汚染シタルトキハ其ノ都度消毒ヲ行フヘシ

五　檢査室ニハ無用ノ物品ヲ置クヘカラス

六　室内ノ物品ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非レハ他ニ搬出スヘカラス

七　生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ確實ニ閉鎖シ得ヘキ容器ニ納メ主任又ハ其ノ代理者ノ外手ヲ觸ルヘカラス

八　汚物又ハ汚物ニ觸レタル物品ハ速ニ消毒ヲ行ヒ又ハ燒却スヘシ

九　一度檢査室ニ入レタル動物ハ撲殺ノ上燒却スヘシ

十　斃死シタル試驗動物ハ燒却スヘシ

十一　汚水溜ノ汚水ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ攤出スヘカラス

十二　主任又ハ其代理者檢査室ヲ退出スルトキハ出入口ノ戸扉ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

第七條　生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ紛失又ハ試驗中ノ動物逸シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ所轄警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第八條　生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ何人ト雖モ之ヲ授與スルコトヲ得ス但シ檢査所間又ハ官廳ト檢査所間若ハ警察官署ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　生活「ペスト」菌ヲ遞送スル場合ニハ培養物ヲ入レタル硝子管ヲ嵌閉シ濾過紙又ハ綿等柔軟ナル物ヲ以テ被包シ「プリキ」罐内ニ入レ更ニ之ヲ木箱ニ納メ柔軟ナル物ヲ以テ塡充シテ鑢封ヲ施シ「注意物」ト明記スヘシ

患者若ハ死體等ヨリ採收シタル檢査材料ヲ遞送スル場合ニハ之ヲ密閉シ得ル硝子壜内ニ納メ前項ニ準シテ之ヲ處置スヘシ

第十條　診斷ノ目的ヲ以テ臨時施行スル醫師ノ檢査ニ對シテハ本則ヲ適用セス但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ檢査ヲ停止スルコトヲ得

第十一條　第一條第八條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第二條第七條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十三條　府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ行フ「ペスト」菌取扱ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第十四條　本則施行ノ際現存スル檢査所ハ明治三十五年六月三十日迄ニ本則ニ依リ認可ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ハ其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

第十五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●ペスト豫防心得附除鼠的消毒方法清潔方法施行手續

（明治三十九年一月十日　岐阜縣訓令第一號）

近來大阪市神戸市及下ノ關市等ニ「ペスト」病患者續發シ今後ニ於ケル病毒蔓延ノ狀勢ハ轉タ寒心ニ堪ヘス今ニシテ銳意豫防ノ策ヲ講シ未タ陰雨セサルニ牖戸ヲ綢繆スルニアラスンハ遂ニ該病毒ヲシテ牢固タル根底ヲ爲サシムルニ至ルナキヲ保セス事茲ニ臻ランカ國家ノ不幸之ヨリ大ナルモノナカルヘシ依テ爾今別記豫防心得竝除鼠的消毒方法清潔方法施行手續ニ據リ周到ナル用意ヲ以テ病毒侵襲ノ豫防根絶ニ努ムヘシ

豫防心得

第一條　「ペスト」病ノ豫防措置ハ傳染病豫防法、同法施行規則、同法施行細則、同法施行手續ニ依ルノ外本心得ニ據ルヘシ

第二條　「ペスト」病豫防ニ關スル訓令、告諭、通達、通牒等ヲ受ケタルトキハ隨時便宜ノ方法ヲ以テ人民ニ周知セシムルノ方法ヲ取ルヘシ

第三條　貨物集散場附近、勞働居住地不潔部落其ノ他必要ト認ムル地域ニ對シテハ特ニ除鼠的清潔方法ノ施行ヲ督勵スヘシ

第四條　棉花、穀類、豆粕、革皮、襤褸、古綿、古著、古麻袋、古數物、古羽毛、古紙等ヲ貯藏スル倉庫ニ對シテハ成ルヘク其ノ底面ヲ石又ハ煉瓦若ハ「コンクリート」敲トナシ其ノ部外ニ通スル孔隙ニハ金網ヲ張リ又天井ハ勿論壁ニモ殼ケサラシムル等鼠族ノ交通棲息ヲ防禦スルノ設備ヲ爲サシムヘシ

第五條　「ペスト」ノ疑アル患者アリタルトキハ其ノ旨急報スルト同時ニ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ方法ヲ施シ四十八時間

内ニ診斷ヲ確定セシメ報告スヘシ

第六條　「ペスト」患者ハ直ニ之ヲ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容スヘシ

第七條　「ペスト」患者アリタル家、有菌鼠ノ續出等ニ依リ著シク病毒ニ汚染シタリト認ムル家ニ交通遮斷ヲ施行シ遮斷區域ノ周圍ニハ亞鉛板ヲ繞ラシ下水口ニ患者又ハ鼠ノ交通ニ依リ病毒ニ汚染シタリト認ムル家ニ交通遮斷ヲ施行スヘシ

金網ヲ施ス等樣メ鼠ノ交通ヲ杜絶スルノ設備ヲ爲スヘシ

第八條　遮斷區域內ノ居住者ハ其ノ被服携帶品ヲ消毒シタル後之ヲ隔離所又ハ適當ナル場所ニ隔離シ同區域內ニハ二日以上多數ノ殺鼠劑及捕鼠器ヲ配置シタル後除鼠的消毒方法ヲ施行スヘシ

第九條　遮斷區域ニ接續セル地域又ハ有菌又ハ有菌ノ疑アル鼠アリタル等ニ依リ豫防措置ヲ必要トスル地域ハ之ヲ豫防區域ト定メ除鼠的清潔方法ヲ施行スヘシ但シ有菌又ハ有菌ノ疑アル鼠アリタル家又ハ病毒汚染ノ疑アル物件其ノ他必要ト認ムル部分ニ對シテハ清毒方法ヲ施行スヘシ

他ノ地ニ於テ感染シタルノ系統分明ナル者發病シ直ニ之ヲ發見シタル場合等病毒ノ鼠族ニ傳播シタル範圍未タ狹少ナリト認ムル場合ニハ前項ノ措置ヲ省略スルコトヲ得

第十條　第　條ニ依リ隔離シタル居住者及豫防區域內居住者ニ對シテハ病毒潛伏期間健康診斷ヲ續行スヘシ

除鼠的消毒方法ニ從事シタル人夫ニ對シテモ亦前項ニ據ルヘシ

第十一條　「ペスト」患者又ハ有菌鼠發生シタル地ト交通頻繁ナル地及特ニ指定アリタル地ニ於テハ左ノ各號ニ依リ豫防方法ヲ施行スヘシ

一　公費ヲ以テ鼠族ノ買收、抽籤的懸賞等ノ方法ヲ設ケ鼠族ノ驅除ヲ奬勵スルコト

二　貨物集散場所其ノ附近、勞働者居住地、不潔部落其ノ他豫防上注意スヘキ部落ニ對シ檢病的戸口調査ヲ行ヒ急性發熱患者アリタルトキハ市町村醫ヲシテ檢診セシムルコト

三　急性病死體ノ檢案ヲ行フコト

四　流行地ヨリ來リタル者ヲ速知スルノ方法ヲ講シ其ノ健康狀態ニ注意スルコト

五　市町村及個人ヲシテ臨時清潔方法ヲ施行セシメ左ニ掲クル場所ニ對シテハ特ニ除鼠的清潔方法ヲ續行セシムルコト

（イ）貨物陸揚場、停車場其ノ他貨物集散場及其ノ附近

（ロ）貨物運送店、棉花、穀類、豆粕、革皮、襤褸、古綿、古著、古麻袋、古敷物、古羽毛、古紙等ノ商店及同上倉庫、物置

（ハ）勞働者居住地及不潔部落

（ニ）紡績、製絲、織物、製紙、釀造、精穀、製粉、革皮、羽毛製品類ノ工場

（ホ）貨物運送船

第十二條　除鼠的消毒方法、清潔方法施行ノ際鼠ノ交通棲息ノ虞アル箇所ハ相當修理セシメ且剥離シタル箇所ハ成ルヘク原形ニ復サシムルヘシ

第十三條　「ペスト」發生シタルトキハ其ノ地附近ノ船舶發著所及停車場ニ吏員ヲ派シ旅人ノ健康ニ注意セシメ異狀アル者ニ對シテハ醫師ヲシテ檢診セシムヘシ

第十四條　「ペスト」流行地域ニ於ケル塵芥ハ之ヲ燒却シ襤褸、紙屑、古綿、古著、古敷物類ハ消毒方法ヲ施行シタル後ニアラサレハ他ニ輸送セシムヘカラス但シ無病地ヨリノ輸送ニ係リ未タ包裝ヲ解カサルモノ等ニシテ警察官署ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニアラス

「ペスト」發生地ヨリ來リ又ハ其ノ地ヲ經過セシ船舶汽車內ノ塵芥ニ對シテモ亦同シ

第十五條　船舶又ハ汽車ニ「ペスト」患者死者又ハ有菌鼠アリタルトキハ左ノ各號ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘシ

一　患者ハ傳染病院又ハ隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ收容シ死者ハ必要ナル處置ヲ爲シタル後引取者ニ引渡シ若シ引取者ナキトキハ明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ據リ處置スルコト

二　患者又ハ死者アリタル船舶及有菌鼠ノ續出等ニ依リ著シク病毒ニ汚染セル船舶ニハ除鼠的消毒方法ヲ施行シ乘客乘

組人ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ終リタル船舶其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト但シ病毒感染ノ虞ナシト認ムル者ハ此ノ限リニアラス

三　船舶内ニ有菌又ハ有菌ノ疑アル鼠アリタルトキハ除鼠的消毒方法ヲ施行シ乘客乘組人ニ對シ周密ナル健康診斷ヲ行フコト

四　汽車ニ在リテ患者又ハ死者アリタル車室及病毒汚染ノ虞アル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行シ病毒感染ノ疑アル乘客ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

五　患者又ハ死者ノ手荷物及病毒汚染ノ疑アル穢荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行スルコト

六　消毒其ノ他設備ノ都合等ニ依リ前各號ノ事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クコトニシ相當ノ手當ヲ爲シ他ノ停車場又ハ他ノ著船所ニ於テ其ノ處置ヲ爲スコト

七　船舶ノ寄著シタル地又ハ汽車ノ停車シタル地ノ警察官署ニ關係事項ヲ直接急報シ一面第四部ニ電報スヘシ

第十六條　船客乘組人ノ上陸後及積荷ノ陸揚後ニ於テ船舶ニ「ペスト」病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル場合ハ上陸人員ノ行先地及貨物輸送先ノ警察官署ニ上陸人員ノ宿所、氏名、貨物ノ數量種類、記號（精確ニ調査シ相違ナキ樣注意スヘシ）取扱店、荷主及發送月日等ヲ急報スヘシ

當該船舶ノ出船後ニ在リテハ其ノ行先地警察官署ニ急報シ一面第四部ニ急報スヘシ

第十七條　船舶又ハ汽車内ニ「ペスト」患者死者及有菌鼠等アリタルニ依リ急報（第十五條第七號又ハ第十六條）ヲ受ケタル警察官署ハ病毒潜伏ノ疑アル期間上陸人員及貨物運搬人夫其ノ他當該船車ニ關係アル者ニ對シ健康狀態ヲ注意シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

汽車船舶内ニ病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタルトキ亦同シ

第十八條　病毒ニ汚染セル家屋、倉庫、船舶、汽車内ニ在リタル貨物ニシテ既ニ他ニ移シアルモノハ一時搬出輸送ヲ停止シ其ノ間積入倉庫及關係アル家屋ニ對シ殺鼠劑、捕鼠器ノ配置其ノ他適當ノ方法ニ依リ鼠ノ驅除ヲ嚴行スヘシ

第十九條　病毒汚染ノ疑アル貨物ト同一ノ倉庫内ニ在リ又ハ同一ノ船舶貨車ニテ運搬セラレタル他ノ貨物ニ對シテハ當該倉庫、船舶、貨車内ニ於テ有菌鼠ヲ發見シタル等ニ依リ病毒汚染ノ疑アリト認メタル場合ハ消毒方法ヲ施行スヘシ

第二十條　「ペスト」發生ノ狀況豫防措置ノ大要ハ其ノ都度又繼續施行セル豫防事務ノ成績ハ毎月別記樣式ニ據リ所轄警察官署ヨリ第四部ニ報告スヘシ月報ニ係ル分ハ翌月十日マテニ報告スヘシ

（樣式略ス）

除鼠的消毒方法清潔方法施行手續

一　除鼠的消毒方法清潔方法ヲ施行セントスル區域内ニハ先ツ二日以上日々殺鼠劑、捕鼠器等ノ除鼠裝ヲ配置シ日々其ノ成績ヲ檢査スルコト

二　前項ノ除鼠裝置ハ天井裏、床下、流シ下、棚上等常ニ鼠ノ交通スル場所ニ配置スヘク其ノ個數ハ家屋ノ大小ニ依リ一定シ難シト雖殺鼠劑ハ一戸平均十個以上トシ倉庫物置所ニ在リテハ一坪ニ付約一個ノ割合トナスコト

三　除鼠消毒方法清潔方法ノ施行ニ從事セシムル人員ハ人夫五名乃至十名ヲ以テ一組トナシ警察官吏及市町村吏員之ヲ監督スルコト但シ施行區域ノ廣狹ニ依リ若干組ヲ設ケ毎組ノ人夫中ニハ大工及屋根職ノ心得アル者各一名ヲ加フルコト

四　前項ノ人夫ヲシテ除鼠的消毒方法ノ施行ニ從事セシムル場合ニハ其ノ衣服ヲ相當ノ消毒衣ニ著替シメ又足袋、手拭、帽ヲ用ヰシムルヲ要ス必要アルトキハ呼吸器若ハ棉花ヲ以テ鼻口ヲ被ハシムル等ノ方法ニ依リ塵埃吸入ノ豫防ニ注意セシムヘシ區域外ニ出ツル場合ニハ其ノ都度相當消毒沐浴ノ上原服ニ更メシムルコト

五　除鼠的消毒方法施行區域大ナル場合ハ毎日ノ施行小區域ヲ更ニ亞鉛板塀其ノ他鼠ノ交通ヲ杜絶スル裝置ニ依リ之ヲ區劃スルコト

六　除鼠方法施行ノ際ハ左ノ各號ニ注意スルコト

（イ）　天井ノ一部若ハ全部ヲ取外シ鼠及其ノ巣ヲ掩索シ掃除ヲ行フコト

（ロ）　床板及臺所流シハ其ノ一部ヲ取外シ鼠ノ掩索ヲ行ヒ孔穴アルトキハ之ヲ發掘スルコト但シ土地ニ密著セル床板及

塞所、流シハ其ノ全部ヲ剝離スルコト

（ハ）羽目板、下見等ハ其ノ全部若ハ一部ノ壁ハ必要アルトキハ其ノ一部ヲ剝離シ間隙内ニ於ケル鼠ノ捜索ヲ行フコト

（ニ）屋根及屋根裏ハ間隙ノ有無ヲ檢シ孔穴アルトキハ瓦屋根ニ在リテハ其ノ全部若ハ一部藁屋根ニ在リテハ其ノ全部ヲ剝離シ鼠及其ノ巣ヲ捜索スルコト

（ホ）倉庫、物置等ニ在リテハ貨物其ノ他ノ物品ヲ搬出シ若ハ相當ノ方法ヲ施シタル後特ニ其ノ地盤ヲ精査シ孔穴アルトキハ之ヲ發掘シ鼠ノ捜索ヲ行フコト

（ヘ）密閉シ得ヘキ倉庫類ニ在リテハ可成「フオルムアルデヒード」又ハ亞硫酸瓦斯ヲ用ヒ鼠ヲ燻殺スルコト

（ト）溝渠ハ之ヲ精査シ孔穴アルトキハ之ヲ發掘シテ鼠ノ捜索ヲ行フコト

七、消毒方施行ノ要領左ノ如シ

（イ）屋根裏、天井板、羽目板類ハ石炭酸水又ハ昇汞水等ノ消毒薬液ヲ以テ處置スルコト

（ロ）戸、障子、押入、棚類ハ消毒薬液ヲ以テ拭淨スルコト

（ハ）疊、蓆、敷物類、消毒薬液ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シタル後日光ニ曝露スルコト

（ニ）常用ノ衣類、寢具ハ蒸汽消毒又ハ煮沸消毒ニ附シ常用ノ什器ハ其ノ品類ニ應シ熱氣消毒又ハ日光消毒ニ附スルコト但シ箪笥、長持其ノ他一定ノ容器内ニ藏セル衣服什器類ニシテ病毒汚染ノ疑ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

（ホ）床下地盤、塞所、流シ下、下水、溝渠、便所、芥溜、其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト

（ヘ）井戸、井戸流シハ病毒汚染ノ疑アルトキハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト

（ト）患者ノ排泄物又ハ排泄物ヲ以テ汚染シタル物品ハ之ヲ燒却若ハ熱氣消毒ニ附シ塵芥ハ必ス之ヲ燒却スルコト

（チ）包裝シタル貨物ハ包裝ノ儘蒸氣消毒ニ附シ若ハ其ノ外表ヲ消毒薬液ヲ以テ處置シ穀類及其ノ他食料品ハ其ノ外包ヲ熱氣消毒又ハ燒却ニ附スルコト

（リ）前號ノ消毒方法ヲ施行シ能ハサルモノハ反覆日光ニ曝スコト

（ヌ）包裝ノ内部ニ至ルマテ病毒汚染ノ疑アル貨物ハ其ノ包裝ヲ解キ相當ノ消毒方法ヲ施行スルコト

（ル）煉瓦倉庫、土藏、洋風建物等ノ密閉シ得ヘキ室内ハ「フオルムアルデヒード」ヲ以テ消毒スルモ妨ナキコト

（ヲ）船舶、鐵道客車、貨車等ニ消毒方法ヲ施行セムトスルトキハ前各號ニ準據スルコト

八、清潔方法施行ノ要領左ノ如シ

（イ）第六ニ據リ鼠ノ驅除ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト

（ロ）斃鼠ノ在リタル場所其ノ他病毒汚染ノ疑アル不潔ナル場所ハ消毒方法ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト

（ハ）汚水停滯ノ場所ニ對シテハ溝渠ヲ浚渫スルコト

（ニ）屋根裏、壁、床下、塞所流シ、溝渠等ニ鼠ノ交通栖息ノ虞アル孔穴アルトキハ之ヲ塡塞シ必要ノ場合ニハ修理改造ヲ爲スコト

（ホ）塵芥ハ之ヲ燒却スルコト

●殺鼠劑取扱手續

（明治四十一年二月五日　岐阜縣訓令第六號）

警察署　市役所　町村役場

第一條　「ペスト」豫防ノ爲メ鼠族ノ驅除ヲ要スルトキハ亞砒酸ヲ以テ殺鼠劑ヲ調製使用スルコトヲ得

第二條　本劑ハ最寄ノ藥劑師ヲシテ調製セシムヘシ

第三條　本劑ノ配置及取締ハ警察官吏及市町村吏員ヲ以テ組織シタル係員ニ於テスヘシ

第四條　係員ハ本劑配置前其ノ附近ノ醫師ニ對シ豫メ解毒劑其ノ他應急手當ノ準備ヲ交渉シ置クヘシ

第五條　本劑配置ノ場所ハ炊事場ノ土間倉庫物置ト水溝渠等必要ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ限ル

第六條　本劑ノ配置ハ成ルヘク日没後ニ於テ行ヒ翌朝之ヲ撤去スヘシ

第七條　本劑配置ノ際ハ家人ニ對シ左ノ事項ヲ告知スヘシ

一　本品ハ殺鼠劑ニシテ毒藥ナルコト

二　配置ノ場所ヲ動カササルコト

三　配置中ハ犬猫等ヲ繫鎖スルコト

四　屋内ノ井戸水瓶漬物桶其ノ他飲食物ノ容器ニハ覆蓋スルコト

五　飲食物ニ混入シ又ハ其ノ疑アリタルトキハ之ヲ廢棄スルコト

六　誤食シタルトキハ直ニ最寄ノ醫師ニ治療ヲ乞フカ又ハ巡査派出所其ノ他係員ニ應急ノ手當ヲ求ムルコト

七　斃鼠ヲ發見シタルトキハ速ニ届出ヘキコト

第八條　本劑撤去ノ際配置個數ニ不足アルトキハ其ノ家人ニ對シ後日發見ノ場合ハ速ニ届出ヘキ旨告知スヘシ

第九條　不食ニ係ル分ハ一定ノ容器ニ收メ再用ニ供シ其ノ他ハ飲料用水ニ距ル二十間以上ニシテ三尺以上ノ地下ニ埋沒スヘシ

第十條　本劑配置ノ際ハ市町村役場ニ左記樣式ノ帳簿ヲ備ヘ精密記入スヘシ

配付簿

市町村番地	氏名	配置個數	食全食	半食	不食數	斃鼠數

第十一條　警察官署ハ配置ヲ了リタル後三日以内ニ左記樣式ニ依リ其ノ成績ヲ警察部ニ報告スヘシ

市町村名	配置戸數	配置個數	食全食	半食	不食數	斃鼠數

第十二條　本劑配置ニ依リ斃鼠アリタルトキハ發見場所及住者ノ氏名ヲ記シタル木札ヲ該鼠ノ後足ニ繫縛シ確實ニ閉鎖シ得ヘキ容器ニ收メ警察部若ハ警察部ノ指定シタル場所ヘ送附スヘシ

前項送附ノ際ハ斃鼠ノ數發見ノ場所捕獲者ノ氏名及捕獲ノ月日ヲ明記シタル書類ヲ添付スヘシ

●鼠驅除用燐及亞砒酸ニ關スル件

（明治三十三年六月内務省訓令第六一二號）

「ペスト」病豫防ノ爲メ當分ノ内必要アルトキハ常該吏員ヲシテ燐及亞砒酸ノ鼠驅除ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ危險豫防ノ爲メ藥品ノ取扱ニ關シ必要ナル手續ヲ定ムヘシ

●「ペスト」病豫防上斃鼠ヲ發見シタル場合ニ際シ屆出ノ件

（明治三十八年六月十四日岐阜縣令第二十九號）

「ペスト」病豫防上必要ニ付斃鼠ヲ發見シタルトキハ直ニ警察官署、巡査駐在所、巡査派出所又ハ巡行ノ巡査ニ書面又ハ口頭ヲ以テ届出指揮ヲ受クヘシ本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

●鼠族死體取扱方ノ件

（明治三十八年六月十四日指示第一九號）

鼠族死體取扱ノ件左ノ通心得ラルヘシ

一　斃鼠發見ノ屆出アリタルトキハ警察官吏立會消毒ノ上一定ノ場所ニ於テ燒却セシムルコト
二　斃鼠ノアリタル周圍ハ嚴重消毒ヲ行ヒ塵芥昆蟲等ハ死體ト共ニ燒却セシムルコト
三　一時ニ多數ノ斃鼠ヲ發見シ或ハ「ペスト」流行地ト交通シタル場所ニ於テ斃鼠ヲ發見シタル等「ペスト」ニ罹リ斃死シタル疑アルトキハ前項ノ消毒ヲ行フト共ニ急報スヘシ
四　斃鼠ノ取扱ニ付テハ愼重ノ注意ヲ加ヘシメ決シテ直接ニ手ニ觸レ或ハ濫リニ位置ヲ轉セシムヘカラス

●斃鼠細菌檢査方ニ關スル件

（明治四十年六月十四日　指示衞第九號）

ペスト豫防上斃鼠ニ對シ細菌檢査施行候條停車場構內及其所在地又ハ貨物陸揚場構內及其ノ所在地ニ於テ斃鼠ヲ發見シタルトキハ共口瓶ニ容レ其周圍ヲ消毒シ且該瓶ニハ發見ノ場所ヲ記シタル差出人ノ名札ヲ付シ送付方取計フヘシ

●颶風病患者屆出方ノ件

（明治四十一年九月一日　岐阜縣令第三十五號）

沿革　明治四二年七月縣令第四八號改正

醫師颶風病若ハ該症ノ疑アル患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ十二時間以內ニ患者若ハ死體所在ノ警察官署巡査部長派出所又ハ巡査駐在所ニ屆出ツヘシ

前項ノ患者若ハ死者アリタル家ニ於テハ警察官吏又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ患者若ハ死體ノ處置及消毒法ヲ施行スヘシ

本令ニ違背シタル者ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本令ニ規定シタル違犯行爲ヲ敎唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●颶風病患者及死體取扱方心得

（明治四十一年九月一日　岐阜縣訓令第四十八號）

颶風病患者及死體取扱方左ノ通心得ヘシ

一　警察官署ニ於テ颶風病患者ノ診斷若ハ死體檢案ノ屆ヲ受理シタルトキハ直ニ郡市役所及町村役場ヘ通報スヘシ

一　郡市役所町村役場ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ警察官署ト協議シ豫防消毒方法ヲ勵行スヘシ

一　豫防方法消毒方法ハ赤痢病ニ準シ措置スヘシ

●傳染病患者發生ノ際愛知縣ト氣脈通報方

（明治二十八年五月　指示第三三號）

高須　江吉良　笠松　岐阜　太田
御嵩　多治見　岩村

愛知縣下ニシテ本縣ニ接壤シタル警察官署部內虎列刺「ペスト」赤痢病患者發生シタルトキハ該官署ヨリ直ニ本縣接壤地ノ警察官署ヘ急報スヘキ筈ニ付爾今其部內ニ同患者ノ發生シタルトキモ同樣急報致スヘシ

●交通遮斷廢止方ノ件

（明治四十年二月二十六日　通達衞第一三〇六號）

赤痢病豫防ニ關シテハ傳染病豫防法發布以來交通遮斷ヲ嚴行スルノ方針ヲ執リ來リ候處爾來各地方ノ病況ニ鑑ミ又豫防方策ノ進步ニ就テ考察スルニ非常流行等特別ノ場合ヲ除クノ外最早之ヲ施行スルノ必要無之ト被認候間傳染病豫防法施行規則第六條第一號乃至第三號ノ處分ハ之ヲ廢止スル方當ロ大局ノ防疫上利益可有之ト存候條爾後右ノ方針ニ依リ相當措置可有之候也

●交通遮斷ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費給與額

（明治三十八年六月二十九日　岐阜縣令第三十三號）

明治三十二年六月縣令第三十六號ヲ左ノ通リ改正ス

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

傳染病豫防法第十九條第二ニ依レル交通遮斷又ハ隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費ハ左ノ制限ニ依リ給與ス

一　男　一人一日九錢以内

一　女　一人一日八錢以内

但シ七十年以上及十三年以下ノ者ハ七錢以内

●傳染病患者鐵道乘車規程

（明治三十三年八月十日　遞信省令第三十八號）

第一條　傳染病患者ヲ乘車セシメムトスルトキハ豫メ之カ申込ヲ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第三條　傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス

第四條　傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス

鐵道ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス

第五條　傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ

第六條　傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ス

第七條　傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ掲示スヘシ

第八條　傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第九條　乘車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第十條　車輛、器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附　則

第十一條　本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病研究所檢査規程

（大正六年八月二十七日　文部省令第九號）

第一條　傳染病研究所ハ豫防、消毒、治療材料（診斷材料ヲ含ム）ノ檢査及病原ノ檢索上排泄物、分泌物又ハ血液等ニ就キ細菌學的檢査ヲ請フ者アルトキハ其ノ請求ニ應シ檢査ノ成績書ヲ交付ス

第二條　檢査ノ請求及檢査料ノ納付ニ關スル手續並料率ハ東京帝國大學總長ニ於テ文部大臣及內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第三條　本令ニ依リ檢査ヲ受ケタル物ニ就キ廣告掲示印刷物又ハ容器包紙ニ傳染病研究所ノ保證、檢査濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス檢査ノ成績ヲ表示セントスル場合ニハ其ノ成績ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ增減變更スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者又ハ傳染病研究所ノ檢査ヲ詐稱シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

●傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ニ關スル件

（大正十一年九月三十日　勅令第四百二十一號）

傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區別ニ依リ支出精算額（事業ニ伴フ收入又ハ寄附金アルトキハ之ヲ控除シタル額）ニ對シ之ヲ爲ス

一　「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用　三分ノ一

二　其ノ他ノ諸費　六分ノ一

附　則

本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年十月一日ヨリ施行）

●市町村傳染病豫防費補助規則

（大正十一年十二月二十七日　岐阜縣令第五十八號）

第一條　傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ諸費ハ縣費豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ精算額ニ對シ左ノ歩合ヲ以テ補助ス但シ支出ニ伴フ收入金又ハ寄附金アリタルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ依ル

一　傳染病院、隔離病舍、消毒所ノ新築、改築、增築又ハ其ノ敷地及災害ニ因ル差置難キ修繕ニ關スル諸費ニ付テハ六分ノ一以上二分ノ一以內

二　「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ三分ノ一以上十分ノ七以內

三　前各號以外ノ諸費ハ六分ノ一以上三分ノ一以內

第二條　傳染病ノ流行甚シク又ハ市町村稅ノ賦課多額ニ上リ其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ其ノ他特別ノ事由アル場合ハ豫算ノ範圍內ニ於テ前條ニ定ムル歩合以上ノ補助ヲ爲スコトヲ得

第三條　市町村ノ支出精算額ニシテ適當ト認ムヘキモノアルトキハ査定シタル精算額ヲ標準トシテ補助ス

第四條　市町村ノ支出精算額五拾圓未滿ナルトキハ補助セス

第五條　第一條第一號ノ諸費ニ對シ補助ヲ受ケントスルトキハ前年六月三十日迄ニ工事施行ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ期日迄ニ其ノ手續ヲ爲ササル工事ニ對シテハ補助セス但シ不慮ノ災害ニ因ル差置難キ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　適當ト認メタルトキハ現品交付ノ方法ヲ以テ補助スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其ノ價格ヲ金額ニ換算ス

第七條　補助ヲ受ケテ設置シタル傳染病院、隔離病舍、消毒所ノ建物及敷地ニシテ廢止若ハ賣却セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ク可シ

附　則

本則ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

明治三十五年四月岐阜縣令第二十一號市町村傳染病豫防補助規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●市町村傳染病豫防費補助申請手續

（大正十一年十二月二十七日　岐阜縣訓令甲第五十八號）

第一條　市町村ニ於テ傳染病豫防費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ第一號書式ノ申請書ヲ知事ニ提出スヘシ

一　新築、改築、增築又ハ修繕工費ニ關シテハ工事請負契約書又ハ工費明細書

二　支出ニ伴フ收入又ハ寄附金アルトキハ其調書（第二號書式）

三　傳染病患者表（第三號書式）

四　正當受取人ノ領收證若シ得難キモノハ其支拂證明書

第二條　規則第二條ニ依リ特別補助ヲ受ケムトスルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、當該年度ノ歲入歲出豫算書

二、前年度ニ於ケル直接國稅、縣稅納付額

三、當該年度四月一日現在縣稅賦課總戶數

四、當該年度ニ於ケル國稅、縣稅、總納額壹圓ニ對スル村稅一戶平均賦課額及戶數割一戶賦課額

第三條　規則第六條ニ依リ現品ヲ以テ補助ヲ受ケムトスルトキハ其品目、員數、事由ヲ記シ知事ニ申請スヘシ

第四條　補助申請ハ左ノ期間ニ依ルヘシ

一　新築改築增築及敷地ニ關スル費用ハ落成檢査ノ日ヨリ二十日以內

二　其他ノ費用ニ關シテハ左ノ如シ

イ　四月ヨリ九月迄ニ支出セルモノハ十月十五日限リ

ロ　十月ヨリ翌年三月迄ニ支出セルモノハ四月十五日限リ

第五條　本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ市ハ直接町村ハ所轄郡長ヲ經由スヘシ

郡長前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シテ速ニ知事ニ進達スヘシ

○第一號書式

傳染病豫防費補助申請書

一金　　補助規則第一條第一號諸費

內譯

金　　同　第一條第二號諸費

金　　同　第一條第三號諸費

但シ支出ニ伴フ收入金何圓ヲ控除（第一條何號分）

右ハ何年自何月至何月傳染病豫防ニ要シタル費額ニ付相當補助相成度別紙關係書類相添此段申請候也

（但シ特別補助ノ場合ハ其ノ旨記載ヲ要ス）

年　月　日

知事宛

何郡市町村長印

○第二號書式

收入金調書

一金

但シ補助規則第一條第何號分諸費ニ對スル收入又ハ寄附金

右ノ通ニ相違無之候也

年　月　日

市町村長印

○第三號書式

傳染病患者表

何年自何月至何月何郡市町村傳染病患者表

病名	生年月日	轉歸治療死亡月日及別	患者氏名	治療所
計				

●傳染病院隔離病舍設備及管理規則（明治三十一年六月二十二日 岐阜縣令第四十八號）

沿革　明治三一年一〇月縣令第七五號、三二年四月同第二八號、四五年七月同第四八號、大正元年七月同第一號、一二年四月同第一九號、一五年六月同第六〇號改正

第一章　設備

第一條　市町村ハ傳染病院ヲ設置スヘシ

町村ノ狀況ニヨリ傳染病院ヲ設置シ能ハサル場合ニ於テハ隔離病舍ヲ設置スヘシ

第二條　傳染病院、隔離病舍ハ一市町村一箇所トス但土地ノ狀況ニヨリ數町村ヲ聯合シテ一箇所ヲ設ケ又ハ一町村ニ二箇所以上ヲ置クコトヲ得

第三條　傳染病院又ハ隔離病舍ヲ設置セントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ具シ市町村長ヨリ町村長ハ所轄〔郡長〕ヲ經テ知事ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ位置ヲ變更シ若ハ改造、修補ヲナサントスルトキ亦同シ但シ一廉金五拾圓未滿ノ原形修繕ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　位置及敷地反別

二　第二條但書ニ係ルモノハ患者ヲ收容スヘキ區域ノ町村大字名及其戸數人口

三　病室坪數及其ノ他建物坪數

四　敷地及建物ノ圖面（平面圖、斷面圖、小屋伏）

五　工事仕樣書及工費概算額落成期限

六　境界ヲ距ル六十間以内ノ地況ヲ詳記シタル圖面

市町村ノ狀況ニ依リ先ツ敷地ノミニ就キ認可ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一號第六號及敷地ノ圖面ヲ具シ前項ノ手續ニ依リ届出ツヘシ

第四條　傳染病院及隔離病舍ノ新築又ハ修繕工事落成シタルトキハ速ニ市町村長ヨリ町村長ハ所轄〔郡長〕ヲ經テ知事ニ届出市ニ在テハ所轄警察署、町村ニ在テハ〔郡長及〕所轄警察署長又ハ分署長〕ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條　郡長警察署長又ハ分署長ハ前條ノ場合ニ於テ其ノ構造仕樣書ニ違ヒ又ハ不完全ト認メタルトキハ改造變更又ハ補ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　傳染病院又ハ隔離病舍ノ設置ハ之ヲ告示ス

第七條　傳染病院又ハ隔離病舍ノ位置ハ左ノ各號ヲ具備シタル地ヲ擇ムヘシ

一　患者移送ニ便利ニシテ人家ニ遠隔セサルコト

二　飲料水ヲ得ルニ差支ヘナキコト

三　開豁高燥ニシテ空氣ノ流通及光線ノ當リ好キ地ナルコト

四　河水又ハ池沼、汚水溜、下水溝其ノ他墓地、火葬場等ニ接近セサルコト

五　工場、劇場、學校其ノ他喧噪ナル場所若ハ衆人ノ群集スヘキ地ニ接近セサルコト

六　風水災ノ虞ナキ地タルコト

第八條　傳染病院ニハ左ノ建物ヲ設クヘシ

一　重症患者室　若干棟

二　輕症患者室　若干棟

三　快復期患者室　壹棟

但以上ノ建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ

四　醫員其ノ他事務員諸所、調劑所、小使詰所、炊場、宿直室　壹棟

但浴室、厠ヲ設クヘシ

五　看護人室、消毒夫室、運搬夫室　壹棟

但浴室、厠ヲ設クヘシ

六　消毒所

但洗濯所ノ附屬ヲ要ス

七　屍室　壹個所

八　汚物置場及燒却所　壹個所

九　物置　壹個所

市町村ノ狀況ニヨリ重症患者室、輕症患者室、快復期患者室ハ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得

第九條　隔離病舍ハ前條ノ建物中左ノ通兼用又ハ省略スルコトヲ得

一　醫員、事務員詰所、調劑所、小使詰所、宿直室ヲ合併兼用スルコト

二　病室ノ區別ヲ省略スルコト

三　屍室物置ヲ省略スルコト

四　看護人室、炊場ハ病室ト同一建物中ニ區劃シテ設クルコト

五　看護人室、消毒夫室、運搬夫室ヲ合併兼用スルコト

第十條　病室及屍室ノ構造ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一　病室ハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ重症、輕症快復期患者ヲ併セテ三十人以上ヲ收容スルニ足ルモノタルヘシ

二　隔離病舍ハ前項ノ割合ニ據リ患者十人以上ヲ收容スルニ足ルモノタルヘシ

三　病室及屍室ハ床、側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌、消毒ニ便ナラシムヘシ

四　病室及屍室ノ床下ハ漆喰敲キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透ノ虞ナキ汚水溜ヲ設クヘシ

第十一條　傳染病院又ハ隔離病舍ノ周圍ニハ牆壁若ハ竹木ヲ以テ棚柵ヲ設クヘシ

第十二條　傳染病院又ハ隔離病舍ニハ左ノ門牌ヲ掲クヘシ

木實、寸法適宜

何郡市
何村　傳染病院（隔離病舍）

第十三條　傳染病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫員、調劑員、事務員、看護人、小使、消毒夫、運搬夫、炊夫ヲ置クヘシ

一　醫長　一人

一　醫員　患者十五名乃至二十名ニ付一人

三　調劑員　若干人

四　事務員　若干人

五　看護人、小使、消毒夫、運搬夫、炊夫　若干人

町村ニ於テハ其ノ狀況ニヨリ別ニ醫長、調劑員ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

第十四條　隔離病舍ニ在テハ左ノ通省略スルコトヲ得

一　醫員、調劑員ヲ置カス醫師ハ毎日一回以上回診セシムルコト

二　消毒夫、運搬夫ヲ兼ネシムルコト

三　小使ニ炊夫ヲ兼ネシムルコト

四　患者ニ付添者ノアリテ其ノ看護、消毒方法等ノ注意十分ナリト認ムルトキハ看護人ヲ省略スルコト

第十五條　第十三條、第十四條ノ職員、醫師、人夫ニ給スヘキ日當、報酬其ノ他ノ諸手當、療治料、救助料、弔祭料等ノ額及醫長、醫員、調劑員、事務員ハ其ノ氏名、看護人以下ハ其ノ人員ヲ知事ニ報告シ併セテ所轄警察署長（又ハ分署長）ニ通報スヘシ其變更シタルトキ亦同シ

第十六條　傳染病院、隔離病舍ニハ左ノ器具及物品ヲ設備スヘシ

一　治療上及消毒上必要ナル藥品及器具

二　職員、付添看病人其ノ他外來人ノ用ニ供スル病室用衣及患者ノ臥具

三　患者用飲食器具及其ノ調理器其ノ他火鉢、燈器等

四　患者ニ供スル飲食物

五　日誌、患者名簿、病牀日誌、處方錄其ノ他必要ナル書類、帳簿

第十七條　傳染病院若ハ隔離病舍ニ收容シタル患者並ニ付添看病人ノ食費及藥價ヲ徵收セントスルトキハ其ノ年齡ニ依リ區別シ食費ハ一日若ハ一食ノ價ヲ藥價ハ內服、外用ノ別一日若ハ一劑量ノ價ヲ詳記シ知事ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十八條　傳染病院又ハ隔離病舍ヲ開キタルトキハ市ハ市長ヨリ警察署長ニ町村ハ町村長ヨリ所轄〔郡長〕及警察署長〔又ハ分署長〕ニ通報スヘシ

第十九條　郡長、警察署長、〔分署長〕檢疫委員ハ時々傳染病院又ハ隔離病舍ニ臨ミ建物及器具、藥品等ヲ點檢シ其ノ改造修繕若ハ補足ヲ命スルコトアルヘシ

第二章　管理

第二十條　市町村長ハ傳染病院又ハ隔離病舍ニ付キ一切管理ノ責ニ任ス

第二十一條　醫長ハ院內ノ醫務、衞生事務ヲ掌理シ醫員以下看護人ヲ監督ス

醫長ハ每日一回以上患者ヲ診察シ治療竝看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示ス

第二十二條　醫員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ治療其ノ他患者ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當ス

第二十三條　調劑員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當ス

第二十四條　事務員ハ建物及物品ノ管理、出納ヲ掌理シ兼テ小使、消毒夫、運搬夫、炊夫等ヲ監督ス

第二十五條　消毒ニ從事セシムル爲メ醫員、事務員及調劑員中適當ノ人員ヲ撰定シ消毒係ヲ定メ置クヘシ

第二十六條　看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲナスヘシ

第二十七條　醫員、調劑員、事務員ハ交番宿直ヲナスヘシ但時宜ニヨリ事務員ノミ宿直スルコトヲ得

第二十八條　看護人ハ院、舍內ニ宿泊シ交番ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ

第二十九條　患者ノ親族、故舊等付添看病ヲ乞フ者又ハ患者付添看病人ニ物品ヲ贈ラントスル者アルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトヲ得但痘瘡患者ニ係ル付添看病人ハ種痘又ハ天然痘濟ノ者ニ限ル

第三十條　患者又ハ付添看病人ニ面會ヲ乞フ者アルトキハ之ヲ許可スヘシト雖モ事務員之ニ付添ヒ病毒傳播ノ虞ナキ樣取締ヲナスヘシ

第三十一條　病室ニ入ラントスルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出ツルトキ之ヲ脫スヘシ

消毒所、屍室、汚物置場及燒却所ニ出入スルトキモ亦前項ニ準ス

第三十二條　何人タリトモ病室其ノ他病毒汚染ノ疑ヒアル場所ニ入リタルトキ又ハ患者、死者ニ接シ若ハ其ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑ヒアル物件ヲ取扱ヒタルトキハ其ノ手足或ハ衣服、履物等其ノ接觸ノ部分ニ充分ノ消毒ヲナスヘシ

第三十三條　病室用衣ハ一週二回以上更ニ消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ

第三十四條　院、舍內ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ其ノ塵芥ハ直ニ燒棄スヘシ又棄池、下水等ニハ日々消毒ヲ施シ病室、看護人室、消毒夫室、運搬夫室等ハ每日消毒藥ヲ浸シ拭淨スヘシ

第三十五條　看護人、付添看病人、消毒夫、運搬夫ハ少クモ隔日一回以上入浴シ衣服ハ時々洗濯シ汗垢ヲ去リタル清潔ノモノヲ用フヘシ

第三十六條　患者ノ飲食物ハ院、舍內ニ於テ調理シ且醫師ノ許可ヲ經タルモノヲ用フヘシ

第三十七條　飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用フヘシ但醫師ノ指定シタルモノハ此ノ限ニアラス

第三十八條　患者ニ供シタル飲食ノ殘餘ハ直ニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第三十九條　飲食器具ハ患者用ト健康者用トヲ區別シ混同スヘカラス

第四十條　患者用ノ飲食器具ハ使用ノ都度之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ

第四十一條　患者移送ニ使用シタル人夫及器具ハ其ノ都度消毒スヘシ

第四十二條　患者ノ排泄物及其ノ汚染物竝之レヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ滲漏ノ虞ナキ有蓋ノ器物ニ受ケ其都度消毒シ毎日二回以上之ヲ取集メ燒棄スヘシ

第四十三條　患者用藥劑包紙及藥袋ハ使用ヲ終リタル都度消棄スヘシ

第四十四條　汚水、廢水等ハ滲漏ノ虞ナキ瓶又ハ桶等ニ溜メ消毒シタル後ニアラサレハ他ニ放棄スヘカラス

第四十五條　治療及看護ニ必要ナル物品ノ外ハ病室內ニ置クヘカラス

第四十六條　病室內ニテハ患者ノ外飲食スヘカラス

第四十七條　飲食器具ハ總テ有蓋ノ物ヲ用ヒ且蚊蠅ノ蝟集ヲ防クヘシ

第四十八條　患者ノ被服、臥具其ノ他病室內ニアル物品、器具ハ消毒シタル後ニアラサレハ院、舍外ニ持出スヘカラス但價格僅少ニシテ消毒ニ不便ナルモノハ本人又ハ管理者ノ承諾ヲ得テ燒却スルコトヲ得

第四十九條　患者全治シ竝附添看病人退院又ハ退舍ノ際ハ消毒藥ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身體及頭髮ヲ淸洗シタル後衣服ヲ換ヘシムヘシ

第五十條　患者轉歸ノ場合ハ卽時警察官吏、檢疫委員又ハ市町村長豫防委員ニ通報スヘシ但シ附添看病人ハ交通遮斷ト同期間別ニ指定ノ場所ニ隔離スヘシ

第五十一條　患者危篤ノ症候ヲ呈シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ患家ニ通知スヘシ

第五十二條　患者死亡シタルトキハ卽時其ノ旨ヲ患家ニ通知シ死體ハ消毒藥ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ遽ニ之ヲ屍室ニ移シ棺ニ收メタル上其ノ家族ニ引渡スヘシ

第五十三條　傳染病院、隔離病舍ヲ閉鎖シタルトキハ院、舍ノ全部ニ對シ更ニ充分ノ淸潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ

附則

第五十四條　既設ノ避病院、避病室又ハ傳染病院、隔離病舍ニシテ其ノ構造本則ノ規程ニ適合シタルモノハ第三條各號四號ヲ除ク ヲ記シ届出檢査ヲ受クヘシ其ノ適合セサルモノハ第三條ニ準シ現在ノ位置、建物及其位置ノ變更又ハ建物ノ增築、步擴等ノ際ヲ詳記シ本令發布ノ日ヨリ一ヶ年內ニ届出認可ヲ受ケ改造スヘシ其ノ期限內ニ改造シ難キモノハ事由ヲ詳記シ更ニ期限ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

●傳染病院隔離病舍設置及落成届ノ節取扱方

（明治三十一年十一月二日　岐阜縣訓令第百四十二號）

郡長　警察署長　警察分署長

本年六月岐阜縣令第四十八號傳染病院隔離病舍設備及管理規則第三條ニ依リ郡長ニ於テ傳染病院隔離病舍設置ノ届書ヲ受ケタルトキハ同則第七條各號ニ抵觸セサルヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

同則第四條ニ依リ工事落成ノ届書ヲ受ケタルトキハ所轄警察署長又ハ分署長ニ通知シテ立會檢査ヲ遂ケ其成績ヲ具シ届書進達ノ際添申スヘシ

●傳染病院及隔離病舍表調製ノ件

（大正十三年三月五日　岐阜縣訓令甲第十號）

沿革　大正一五年六月訓令甲第三三號改正

〔郡役所〕　市役所　町村役場

傳染病院及隔離病舍左表ニ依リ調製大正十二年以降翌年五月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

大正三年六月岐阜縣訓令甲第二十六號ハ之ヲ廢止ス

傳染病院及隔離病舍

	傳染病院數	同病床數	隔離病舍數	同病床數
市若ハ區ノ設立ニ係ルモノ				
町村若ハ之ニ準スヘキモノノ設立ニ係ルモノ				
組合若ハ〔郡〕ノ設立ニ係ルモノ				
合計				

〔郡〕市（町村）名

●衛生組合規則

（大正八年三月十二日　岐阜縣令第四號）

沿革　大正一五年七月縣令第五八號改正

第一條　市町村内ニ居住シ一戸ヲ構フル者ハ清潔方法、消毒方法其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事項ヲ協同施行スル爲衛生組合ヲ設置スヘシ

第二條　衛生組合ハ市ハ每町、町村ハ每大字ヲ以テ其ノ區域トスヘシ但シ五十戸未滿ノモノハ合同スルコトヲ妨ケス

第三條　衛生組合ハ市ニ在リテハ五組合以上、町村ニ在リテハ其ノ町村内ノ各組合ヲ以テ聯合衛生組合ヲ設置スルコトヲ得

第四條　衛生組合ハ其ノ設置後一箇月以内ニ組合規約ヲ定メ市ニ在リテハ市長町村ニ在リテハ所轄警察署長ノ認可ヲ受ケ施行スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第五條　組合規約ノ制定若ハ變更ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ寫書ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察官署長及町村長ニ届出ヘシ

第六條　衛生組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一、組合ノ名稱、區域、役員ノ定數及選擧ニ關スル事項
二、組合會議ニ關スル事項
三、組合費ノ賦課、徵收及出納ニ關スル事項
四、組合ニ於テ設備スヘキ器具、物品ノ種類員數及之カ管理ニ關スル事項
五、役員ノ報酬及療治料、救助料、弔祭料ニ關スル事項
六、組合規約違反者處分ニ關スル事項
七、衛生思想啓發ニ關スル事項
八、清潔方法、消毒方法ノ施行督勵竝之カ監査ニ關スル事項
九、飲用水改良ニ關スル事項
十、種痘普及ニ關スル事項
十一、平時竝傳染病流行時ニ於ケル豫防撫生ニ關スル事項
十二、傳染病患者檢索ニ關スル事項
十三、必要ナル法令又ハ當該官公署ヨリノ命令周知ニ關スル事項
十四、隣接衛生組合ト氣脈交通ニ關スル事項
十五、前各號ノ外傳染病豫防上竝衛生上必要ナル事項

第七條　衛生組合ニハ組合員ノ互選ヲ以テ組合長一人及組合委員若干人ヲ置クヘシ
前項役員ノ任期ハ二箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

第八條　前條ニ依リ衛生組員役員ニ選擧セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第九條　組合長ハ組合ノ事務ヲ總理シ組合ヲ代表シ組合規約履行ノ責ニ任ス
組合委員ハ組合長ヲ補佐シ組合ノ執行務ヲ擔任ス

第十條　組合長故障アルトキハ其ノ指定シタル組合委員之ヲ代理ス

第十一條　組合役員ヲ選定シタルトキハ組合ヨリ十日以内ニ其ノ選擧月日役員ノ住所、氏名、生年月日ヲ所轄(郡)市長、警察官署長及町村長ニ屆出ヘシ改選シタルトキ亦同シ

第十二條　衛生組合ハ毎會計年度(自四月一日至翌年三月二十一日)内ニ於ケル組合費ノ收支決算ヲ爲シ當該年度經過後二十日以内ニ市内ノ組合ニ在リテハ市長ニ町村内ノ組合ニ在リテハ町村長ニ之カ屆ヲ爲スヘシ

第十三條　衛生組合ヨリ所轄警察署長ニ差出スヘキ書類ハ當該町村長ヲ經由スヘシ

第十四條　衛生組合ハ傳染病豫防救治ニ關スル事務ノ施行ニ關シ當該吏員ノ指示アリタルトキハ之ニ從フヘシ

第十五條　市町村長ハ衛生組合ノ組織及其ノ監督ノ責ニ任シ竝之カ發達ヲ督勵保護スヘシ

第十六條　本則第四條乃至第十五條ノ規定ハ聯合衛生組合ニ準用ス

附則

第十七條　本則ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　明治三十一年四月岐阜縣令第三十九號衛生組合規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本則施行前設置シタル衛生組合ハ本則ニ據リテ設置シタルモノト看做ス

●檢疫委員職務章程

沿革　明治三二年七月訓令第一〇號改正　(明治三十二年四月二十九日訓令第六十三號)

第一條　檢疫委員長ハ命ヲ知事ニ承ケ部下ノ檢疫委員ヲ指揮監督シ傳染病檢疫豫防ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條　檢疫委員長ハ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

一　新ニ檢疫委員事務所ヲ置キ又ハ之ヲ廢止スルコト

二　檢疫委員ニ事務ノ分掌ヲ命スルコト

三　檢疫委員ヲ管内ニ出張セシムルコト

四　省府縣其ノ他ノ官廳等ニ患者ノ報告及豫防消毒執行ニ關シ文書ノ往復ヲナスコト

五　傳染病豫防法第十九條一號ニヨリ醫師ヲシテ健康者ヲ巡診セシムルコト

六　同上七號ノ處分ヲ爲スコト

七　一廉金額五拾圓未滿ノ物品購入、修理、借入ノ件

八　一廉金額五拾圓未滿ノ圖書類印刷ノ件

九　一廉金額五拾圓未滿ノ不用物品公賣ノ件

十　醫師、雇員、小使、人夫及舟車馬類傭入ノ件

十一　旅費實費支給及增給額ノ件

十二　物件運搬ノ件

第三條　檢疫委員副長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第四條　檢疫委員事務所長ハ檢疫委員長ノ命ヲ承ケ部下ノ檢疫委員ヲ監督シ其ノ郡市内傳染病檢疫豫防ニ關スル事務ヲ掌理ス

第五條　檢疫委員事務所長ハ左ノ事項ヲ施行スルノ必要アリト思料スルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ申報スヘシ

一　傳染病豫防法第十五條ノ施設ヲ必要トスルトキ

二　同法第二十六條ノ處分ヲ必要トスルトキ

第六條　檢疫委員事務所長ハ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

一　部下ノ檢疫委員事務所長ハ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

二　部下ノ檢疫委員ニ事務ノ分掌ヲ命スルコト

三　一厘金類參圓未滿ノ物品購入、修理、借入ノ件
四　一厘金類參圓未滿ノ圖書類印刷ノ件
五　人夫及舟車馬類傭入ノ件
六　物品運搬ノ件
七　傳染病檢診ノ爲メ臨時醫師傭入ノ件

第七條　檢疫委員事務所副長ハ事務所長ヲ補佐シ事務所長事故アルトキハ事ノ事務ヲ代理ス

第八條　檢疫委員ハ委員長又ハ事務所長ノ指揮ヲ受ケ郡市町村ニ於ケル傳染病豫防事務ヲ巡視監督シ其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　檢疫委員市町村ニ出張シタルトキハ其ノ施行シタル事項竝市町村長豫防委員等ヲシテ施行セシメタル事項其ノ他事務ノ狀況ヲ隨時委員長又ハ事務所長ニ報告スヘシ

第十條　檢疫委員事務所長ハ一週間毎ニ左ノ事項ヲ檢疫委員長ニ報告スヘシ
一　病勢ノ劇易豫防消毒實施ノ狀況
二　傳染病隔離病舍ノ狀況
三　市町村吏員以下衛生組合役員勤務ノ實況及其ノ勉否
四　豫防消毒ニ對スル人民ノ意嚮
前各號ノ外豫防消毒ニ關スル狀況

第十一條　檢疫委員長、檢疫委員事務所長ハ必要ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ得テ郡市町村ニ檢疫委員出張所ヲ置クコトヲ得

第十二條　檢疫委員長、檢疫委員事務所長ハ處務規程ヲ設クルコトヲ得
檢疫委員事務所長ニ於テ處務規程ヲ設ケタルトキハ檢疫委員長ニ報告スヘシ

●檢疫委員其事務ニ從事シタルトキ狀況報告方ノ件

（明治四十年七月二十日）
（衛第四三〇三號）

檢疫委員其事務ニ從事シタルトキハ其都度復命書ニ日誌ヲ添付スヘキ旨檢疫委員長ヨリ客年九月通達相成居リ候處爾今別記樣式ニ依リ報告スヘキ樣御取計有之度及通牒候也

（樣式略ス）

●汽車乘客無賃送達ノ件

（明治三十年七月）
（衛發第二四七號）

汽車檢疫ノ件ニ付別紙寫ノ通リ鐵道局一般竝各私設鐵道會社ヘ通達候旨遞信省ヨリ通知有之云々

（別紙）

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルカ爲メ一時乘客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乘越サシメタルトキハ其乘客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無賃ニテ乘車切符面ノ停車場ヘ送達スヘシ（明治三十年七月二十一日鐵道局ヘ遞信大臣達第七號）

汽車中ニ傳染病患者又ハ死亡者アリタルカ爲メ一時乘客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乘越サメシタルトキハ其乘客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無賃ニテ乘車切符面ノ停車場ニ送達相成度此段及通達候也（明治三十年七月二十一日各鐵道株式會社長ヘ鐵道局長心得鐵甲第一六五七號）